

令和6年度
福島県道徳教育総合支援事業

令和6年度 道徳の礎 (いしずえ)

【理論編】 道徳科の授業の充実に向けて

【実践編】 令和6年度道徳教育推進校報告

【Q&A】 道徳科の教育課程Q&A

福島県教育委員会



道徳の礎（いしずえ）の使い方

「道徳の礎（いしずえ）」は、「ふくしまの道徳教育」の実現に向けて必要な理論や実践を集録し、ふくしまの先生方の悩みに寄り添う一冊です。

ふくしまの道徳教育の実現に向けて、

- 【理論編】道徳科の授業の充実に向けて
- 【実践編】令和6年度道徳教育推進校実践報告
- 【Q & A】教育課程Q & A

以上の3編構成で作成しています。さらに、先生方の悩みに合わせて、すぐに頁を開くことができるよう、色別の5つのインデックスを付けています。御自身の問題意識に合わせて御活用ください。

インデックス

1 おさえる

道徳科の授業の充実に向けて

「道徳のとびら」や「道徳のかけ橋」及び「特別の教科道徳」の実施に向けた地区別推進協議会で発信してきた内容をまとめてあります。「道徳科の指導と評価の一体化」等について詳しく解説しています。

道徳教育や道徳科の理論が分からない…



1 頁
～24 頁

2 すすめる

道徳教育推進校の実施計画書等

令和6年度道徳教育推進校の道徳教育推進の視点、道徳教育全体計画及び別葉等を掲載しています。学校の道徳教育の方針を明確にしたい時に御活用ください。

道徳教育の学校の基本方針が大切とは言うけれど…



25 頁
～52 頁

3 はぐくむ

多様な指導方法に基づいた授業実践

令和6年度道徳教育推進校の実践と考察を掲載しています。授業実践の際の参考にしてください。

多様な指導方法は大切だけれど、どのように授業を構想すればよいの…



53 頁
～67 頁

4 いかす

ふくしま道徳教育資料集等を活用した授業実践

令和6年度道徳教育推進校が活用したふくしま道徳教育資料集の実践と考察を掲載しています。「ふくしまならでは」の道徳教育の実現に向けて参考になります。

ふくしま道徳教育資料集をより効果的に活用したい…



68 頁
～82 頁

5 さぐる

新教育課程Q & A（道徳科編）

既に学校に周知している新教育課程Q & Aから道徳科の部分を抜粋しました。教育課程の編成に向けて悩んだときを開いて確認してください。

道徳科の教育課程で分からないことがあります…



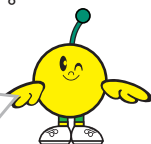
83 頁
～89 頁

道徳教育の疑問や迷いから **逆引き** 「さらにパワーアップ」の手がかりを探そう！

Know-How (どのように) だけでなく、Know-Why (なぜするのか?) がキーワード

このページを開いたあなたは、子ども達のために、道徳教育や道徳科授業の指導を工夫されていることでしょう。もしかすると「目の前の子ども達に合わせて工夫したのに上手くいかない…」と感じているのではないのでしょうか。それは、日々努力されているからこそです。御自身の取組に自信を持って、この道徳の礎から、「さらにパワーアップ」の手がかりを探してみましょう。

って、どんな意味？



それぞれの付箋の色は、その内容がどのインデックスに掲載されているかを色で表しています。複数の色がある場合は、それぞれのインデックスの頁に掲載されています。

ひとりでパワーアップしたい！と思ったら ～自己研修～

子どもの 実態	子どもの実態を把握する方法は？ どう生かせばよい？		実態を踏まえた工夫が大切
	「研究推進にあたって」「資料」には、各推進校の実態把握の方法等が掲載されています	「把握した実態をどのように生かして授業を行うのか」について、学習過程や考察を参考に考えてみましょう。	教科書の指導書等は、想定された子どもを基に書かせています。「目の前の子どもだったら」という視点で欠かせません。
授業 づくり (指導と評価)	どう指導をすればいいの？	授業案はどう書けばいいの？	板書の工夫は？
	「1おさえる」には、理論と実践事例が掲載されています。研修動画を視聴してイメージをもつことも大切です。	小・中学校の教科書や「ふくしま道徳教育資料集」を活用した授業の指導案が掲載されています。	全ての指導案には、実際の板書が掲載されています。内容項目やねらい、学年等を考えた工夫を参考にしてください。
指導方法 板書・発問 ICT活用等	どんな指導方法があるの？	発問や学習活動の工夫は？	ICT活用のポイントは？
	評価を記入する上での留意点やのぞましい評価文等を確認し、先行事例の例文をみんなで考えてみましょう。	「道徳科ならではの学習活動」を位置づけ、一人一人の道徳性を育むために、発問を工夫しています。	実践事例から、ICTを手段としてどのように活用すればよいかを確認しましょう。

学習指導要領解説
特別の教科道徳編
(文部科学省)



小学校



中学校



高校(総則編)

授業案から学ぶ

授業者が、子どもの実態と教材、ねらいを踏まえ、どのように授業をつくっているか、教師の明確な意図を学ぶことができますね。



推進する立場になって「どうしよう…」と思ったら

～道徳教育推進教師～

任命されたら	何をしたらよいのかな？ 「はじめの一步」「アイデアノート」を参考に、取組を考えてみましょう。	どんな取組があるの？ 「研究推進にあたって」「資料」には、実態を踏まえた取組が掲載されています。	掲示物等はどうすれば？ 「アイデアノート」や、各推進校の取組が写真で掲載されています。できそうな取組を探してみましょう。
年度始め等	年度初めに、全職員で確認すべきことは何ですか？ 目標や内容項目、質的転換のポイント、評価の視点及び想定される児童生徒の姿等を確認しましょう。	「学習上の困難さを伴う子ども」等への配慮について、授業でどのように見取るかを話し合みましょう。	別葉ってどう使うの？ 「研究推進にあたって」に別葉活用上の工夫点等を参考に、「どうすれば活用しやすくなるか」を話し合みましょう。
学期末・学年末	通知表に書く文章とは？ 自分が書いた通知表の文章と掲載されている評価文を読み比べながら、子ども一人一人を「認め励ます」文章を考えてみましょう。	評価の質の高め方は？ 評価を記入する上での留意点やのぞましい評価文を確認し、先行事例の例文をみんなで考えてみましょう。	「子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から」を読んで、チャレンジしたい取組を見つけてみましょう。

みんなで共に学びたい！と思ったら ～校内研修～

1

おさえる

2

すすめる

3

はぐくむ

4

いかす

5

さぐる

年度始め

どんな研修内容があるの？

推進校は学校の実態に合わせた研修に取り組んでいます。自分の学校でもできる内容を探してみましょう。

「疑問や迷い」の実態把握で研修効果UP！

年度始めや学期末などに、先生方から「どんな疑問や迷いがあるか」アンケートを行って、その状況から校内研修の内容を決めることもできますね。みんなで学ぶからこそ、自分の指導のよさや課題が明らかになります。



おすすめ／ 教職員が集まる会議等で、5分だけチャレンジしてみませんか？

5分コース「ワンポイント研修」

「これが知りたい！」を学ぶ

学ぶ内容を選ぶ

礎を読み意見交流

試したいことを決める

30分コース「ミニ研修」

指導方法の工夫を学ぶ

理論を学ぶ

実施からの気づきを共有

自分の指導を振り返る

60分コース「たっぷり研修」

授業づくりを学ぶ

主題名、教材、ねらいから、授業を考える(各自)

どんな指導の工夫ができるかを話し合う

授業イメージを高める

研修動画や対談動画を視聴する

自分の指導を振り返り、気づきを共有する

Let's 実践！



実践にチャレンジしたあなたに拍手！実践に、失敗はありませんよ。

「実践にチャレンジした意欲」「小さくてもできたこと」を自分で認め、「次は〇〇を試してみよう」という気づきを大切にしましょう。



あなたの指導を支える資料等



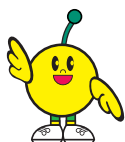
道徳教育アーカイブ
(文部科学省)



県版「道徳教育アーカイブ」
(福島県教育庁義務教育課)



学校教育指導の重点
(福島県教育庁義務教育課)



授業を見て学ぶチャンスは、「アーカイブ」にもあります！

校内研修等で道徳科授業を参観すると「こんな授業をすればいいんだ」「そう発問すると、こんな考えが引き出せるんだ」と学ぶことができます。文部科学省や福島県教育委員会義務教育課の「道徳教育アーカイブ」にも、研修動画が掲載されています。ぜひ御活用ください。

推進する校内体制を整えたい！と思ったら

～管理職、教務主任、道徳教育推進教師等～

計画
(年度始め・教育課程編成時)

チームで授業を行う際の配慮すべきことは？

担任が授業をすることを原則としながら、チームで取り組む目的を確認しましょう。取り組むことは手段です。

チームでの取組は「情報交換」「共通認識」を行うことで、教師の指導力向上にもつながります。

全体計画や別葉の作成はどのように進めるのかな？

全体計画や別葉を作成する際の配慮する点を参考に、特に「自校の別葉の活用状況」を把握した上で作成しましょう。

家庭地域との連携

家庭や地域とどのように連携すればよいのかな？

「学校、家庭、地域が連携した道徳科の授業」の頁を参考に、学校の実態に照らして取組を考えましょう。

「家庭・地域との連携」「全体計画」「資料」を参考に、学校のよさを生かした取組を考えてみましょう。

別葉の目的を踏まえ、「自分たちが活用しやすい別葉とは？」を話し合い、形式を考えることもできます。

道徳教育を

先生方お一人お一人のよさを生かし、

みんなで推進していきましょう。



令和6年度道徳教育推進校及び掲載頁一覧

地 区	学 校 名	内 容	掲載頁
県 北	本宮市立本宮第二中学校	実施計画・全体計画・別葉等	25～30
		質の高い多様な授業実践	53～55
		ふくしま道徳教育資料集等を活用した実践	68～70
県 中	福島県立湖南高等学校	実施計画・全体計画	31～34
		質の高い多様な授業実践	56～58
		ふくしま道徳教育資料集等を活用した実践	71～73
県 南	白河市立東北中学校	実施計画・全体計画・別葉等	35～40
		質の高い多様な授業実践	59～61
		ふくしま道徳教育資料集等を活用した実践	74～76
会 津 南会津	下郷町立檜原小学校	実施計画・全体計画・別葉等	41～46
		質の高い多様な授業実践	62～64
		ふくしま道徳教育資料集等を活用した実践	77～79
相 双 いわき	いわき市立中央台東小学校	実施計画・全体計画・別葉等	47～52
		質の高い多様な授業実践	65～67
		ふくしま道徳教育資料集等を活用した実践	80～82



蕎麦の刈り取り収穫

湖南高校は、コミュニティ・スクールとして、湖南町ならではの特色を生かした学校づくりを目指し、地域の皆様と協働し、「蕎麦プロジェクト」と「米粉大作戦」に取り組んでいます。総合的な探究の時間の中で、生徒たちが地域の皆様とともに、蕎麦を刈り取り収穫している様子がこの一枚です。『地域創生に関わる日本一の学校』を目指し、今後も生徒と地域が輝ける活動として、このプロジェクトを発展させていきたいと思っています。

【理論編】

道徳科の授業の充実に向けて



【第1部 理論編】 道徳科の授業の充実に向けて

「道徳教育の目標」「道徳科の目標」について詳しく教えてください。

道徳教育の目標

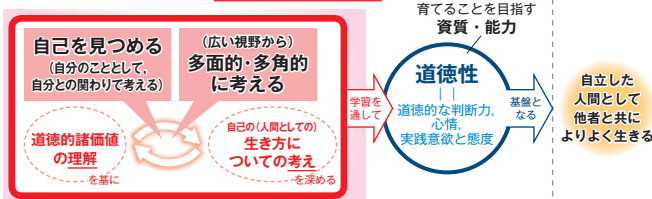
(小(中)学校学習指導要領第1章総則 第1 教育課程編成の基本方針 2 抜粋)
学校における道徳教育は、**特別の教科である道徳(以下「道徳科」という。)**
を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、
各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に
応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。
道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、
自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として
他者と共によりよく生きるための**基盤となる道徳性**を養うことを目標とする。

- 学校の教育活動全体を通じて行う「道徳教育」の記述・「総則」編に記載
- 「特別の教科 道徳」の記述・「特別の教科 道徳」編に記載
- 「道徳教育」の「要」として「道徳科」の位置付けは従来と変わらない
- 育むものは、内面的資質としての道徳性に統一

道徳科の目標と特質

(小(中)学校学習指導要領第3章「特別の教科 道徳」の「第1 目標」)
第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための
基盤となる道徳性を養うため、**道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、
物事を多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、
道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**

道徳性を養うために行う**道徳科における学習**



【本時のねらいは…】

〇〇〇を通して、(道徳的な判断力or心情or実践意欲or態度)を育てる。

学習指導要領において、学校の教育活動全体を通じて行う「道徳教育」については「総則」の章に、授業については「特別の教科 道徳」の章に、別の章立てとなって記載されています。両方の目標や内容、関係をとらえることが大切です。

特に「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」「特別の教科 道徳」いずれの目標においても、育むものは「道徳性」に統一され、以前の学習指導要領にあった「道徳的实践力」という記述がなくなり、育むものが異なるというねじれが解消されました。授業のねらいも、どんな道徳性の諸様相(道徳的判断力、心情、実践意欲と態度)を育みたいのか、しっかりと精査することが大切です。

朱字で記述された「〇〇学習を通して」の部分が特に大切です。

具体的には、道徳科の特質として、道徳的諸価値の理解を基にしながら、

- 自己を見つめること
- 物事を多面的・多角的に考えることを押さえることがとりわけ大切です。

この特質に根ざして授業を構想・展開し、一人一人の子どもの学習状況や道徳性の成長の様子を見取って、評価することになるのです。



各学年で取り上げる内容項目について、詳しく教えてください。

内容項目の追加	「特別の教科 道徳」の内容の学年段階・学校段階の一覧表参照。 【小・低学年】19項目 「個性の伸長」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」追加 【小・中学年】20項目 「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」追加 【小・高学年】22項目 「よりよく生きる喜び」追加 【中学校】22項目
体系的なものへの改善 手掛かりとなる言葉の付記	記述の仕方について、各学年毎の記述を改め、内容項目毎の記載に変更して、系統性と発展性を意識して指導できるように配慮した。また、「公正、公平、社会正義」などの手掛かりとなる言葉を付記し、指導のしやすさに配慮した。

小学校低学年は19項目(3項目追加)、中学年は20項目(2項目追加)、高学年・中学校は22項目(高学年は1項目追加)です。学習指導要領では「各学年の内容項目について、相当する学年において全て取り上げること」とされていますので、年間指導計画作成の際には、全ての内容項目について漏れのないよう留意してください。

なお、それぞれの内容項目に「公正、公平、社会正義」などの手掛かりとなる言葉(キーワード)を付記することで、指導のしやすさに配慮しています。



小（中）学校学習指導要領第1章総則
第6 道徳教育に関する配慮事項 1 抜粋

- 小·中
共 通

また、「別葉」についても、作成に係るロードマップを作成し、全教員の願いのこもった内容と形式で計画的・組織的に作成したいものです。



- ☐ 各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの
- ☐ 道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの
- ☐ 道徳教育の推進体制や家庭、地域社会等との連携のための活動等が分かるもの

道徳教育全体計画例「下郷町立櫓原小学校」（44頁に記載）

道徳教育全体計画の別葉を作成する際、配慮する点を教えてください。

全体計画の別葉の充実と工夫

【別葉作成上で大切なこと】

- ① 自校の特色や重点を教育活動全体でどのように実践していくか、分かること
 - ② 道徳科の授業以外の指導内容や時期が明確になること
- ※ 今求められている「カリキュラム・マネジメント」の具現化

- A 時系列で、内容項目と教育活動全体との関連を明らかにした別葉
- B 自校の重点を中心に、内容項目の系統性を明確にした別葉
- C 全ての内容項目と学校の教育活動全体の関連を明らかにした別葉
- D 学校オリジナルで使いやすい別葉

(道徳のかけ橋第4号(平成26年12月15日)より抜粋)

道徳のかけ橋第4号では、「別葉」の特集を組み、左のA～Dの形式に大別しています。別葉は、今現在求められているカリキュラム・マネジメントを具現化する有効なツールです。より実効性のある別葉こそが、道徳教育の充実への近道です。ぜひ、全教員が共通認識に立ち、作成してください。A～Dの4つの形式の利点と課題、工夫したい点を列記します。自校の別葉を見直す参考にしてください。

Aの別葉の利点(○)と課題(▲)、工夫したい点(□)

- 時系列で整理しているため、一覧の形で年間の見通しがもてる。
- ▲ 情報が多すぎて使いにくい。重点項目が分からず、共通理解が図りにくい。
- 自校で重点とする内容項目の部分に色をつけ、分かりやすくする。指導後に、記録や改善策を書き加える。

Bの別葉の利点(○)と課題(▲)、工夫したい点(□)

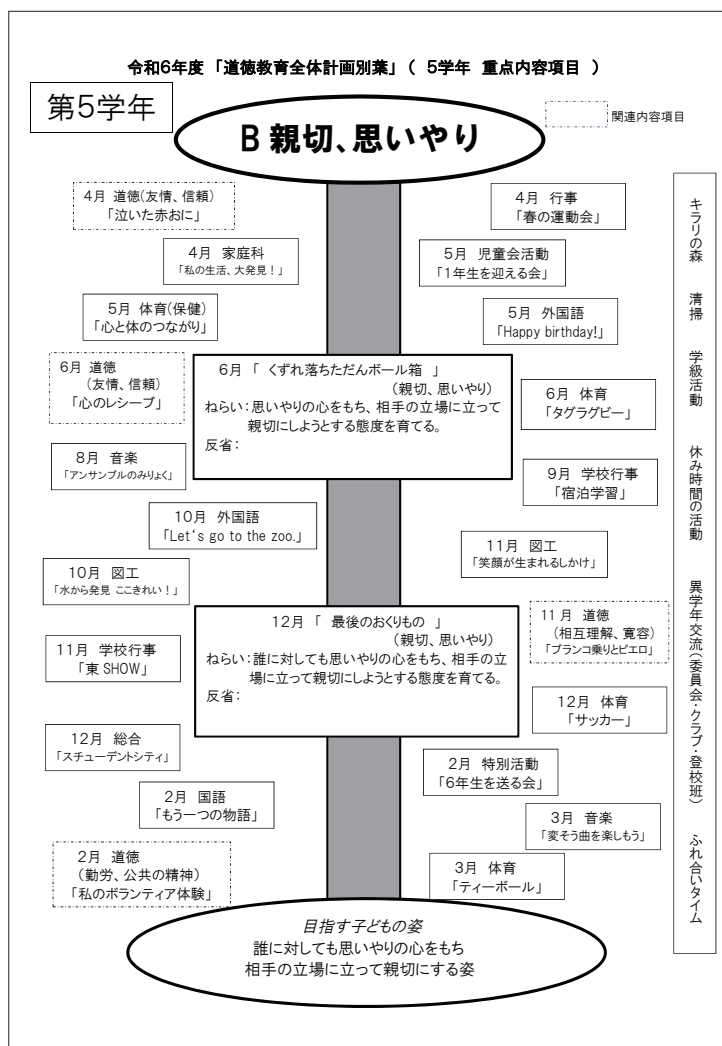
- 重点内容項目を中心に作成しているため、学校全体で重点を意識して教育活動を進めることができる。
- ▲ 時系列になっていないため、年間の見通しが分かりにくい。また、他の内容項目について、どのような場面で取り組んでいくのか分からない。
- 重点項目以外は、実践を通して少しずつ書き込みを加えていく。

Cの別葉の利点(○)と課題(▲)、工夫したい点(□)

- すべての内容項目の関連が分かる。
- ▲ 必要な情報が多く盛り込まれているため活用に向けた共通理解が必要である。
- 道徳教育推進教師を中心に全職員で作成し、一人一人の意見を生かし少しずつ改善していくことで活用に向けた意識を高める。

Dの別葉の利点(○)と課題(▲)、工夫したい点(□)

- 形式がない別葉だからこそ、自校の先生方が日常的に使いやすいものが最良です。形式にこだわらず、今ある計画を少し工夫・改善しながら、「学校ならではの」別葉を作成したいものです。



Dの別葉例「いわき市立中央台東小学校より」



自校の教育課題の解決に向けた取組として参考にしてください。

教科用図書の教材を使用する法的根拠を教えてください。

検定教科書の導入について

法的根拠

教科書の法的根拠	学校教育法34条（教科用図書・教材） 小学校においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する 教科用図書を使用しなければならない 。（中学校等にも準用）
教科書の定義	教科書の発行に関する臨時措置法2条（定義） この法律において「教科書」とは、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及びこれらに準ずる学校において、 教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材 として、教授の用に供せられる児童又は生徒用図書であって、文部科学大臣の検定を経たもの又は文部科学省が著作の名義を有するものをいう。

教科書には「主たる教材」としての使用義務があります。今後は、採択された教科書の教材を中心に、年間指導計画を作成することになります。なお、教材の配列は、今まで通り、各学校の特色や行事、各教科等の関連に応じて配列を工夫することが大切です。



教科用図書以外の教材の年間指導計画の位置付けと活用について教えてください。

ふくしま道德教育資料集等の活用について

（小学校学習指導要領解説第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第4節 道德科の教材に求められる内容の観点 1教材の開発と活用の工夫）

（2）多様な教材を活用した創意工夫ある指導

道德科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもないが、**道德教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となる**。様々な題材について郷土の特色が生かせる教材は、児童にとって特に身近なものに感じられ、教材に親しみながら、ねらいとする道德的価値について考えを深めることができるため、**地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい**。

（同 2 道德科に生かす教材）

（3）多様な見方や考え方のできる事柄を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること（略）

なお、教科用図書以外の教材を使用するに当たっては、「**学校における補助教材の適正な取扱いについて**」（平成27年3月4日 初等中等教育局長通知）など、関係する法規等の趣旨を十分に理解した上で、適切に使用することが重要である。

- 「主たる教材」としての教科用図書教材
⇒ 今後は主題、教材の配列としての「年間指導計画」が極めて重要
- 「副教材」として、ふくしま道德教育資料集をはじめ、市町村発行の道德教育資料集等を積極的に位置付けたい。
⇒ 意図的・計画的・組織的な計画と活用を

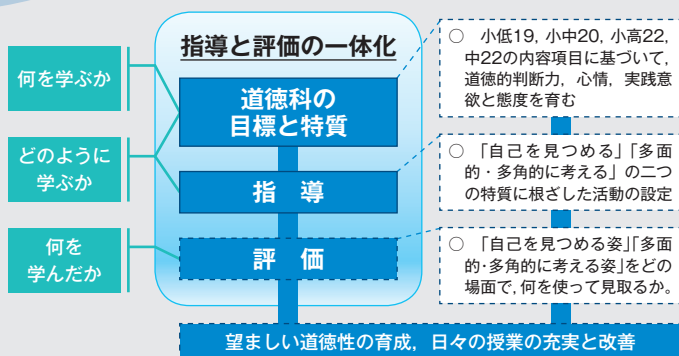
「ふくしま道德教育資料集」「市町村発行の道德資料集」等の教材は、地域に根ざした教材として大切にしたいものです。

また、「私たちの道德（WEB版）」や「小（中）学校 道德読み物資料集（文科省）」等の活用も考えられます。教科書以外の教材を年間指導計画に位置付ける場合は、教科書教材との対応が分かるようにしておくことが望ましいと考えます。

なお、教科用図書以外の教材の年間指導計画への位置付けと活用にあたっては、学年や学校としての組織的な対応と校長の判断はもちろん、市町村教育委員会の指導助言の基に行うことになります。

授業の質的転換のポイントを教えてください。

質的転換＝「指導と評価の一体化」 ～主体的・対話的で深い学びの実現～



指導の充実なくして、評価の充実はあり得ません。もう少し詳しく言うと、児童生徒一人一人のよさや可能性を受け止めて、認め、励ます評価を具現するためには、児童生徒のよさや可能性を引き出し、存分に発揮させる指導の充実が不可欠なのです。

「授業のねらいー指導ー評価」が、「道德的価値の理解を基に自己理解を深めること（自己を見つめること）」「物事を多面的・多角的に考えること」という、道德科の二つの特質に一貫して基づいていることが大切です。



「特別の教科 道徳」における多様な指導方法について教えてください。

問題解決的な学習など 多様な方法を取り入れた指導について

問題解決的な学習の工夫	道徳科における問題解決的な学習とは、ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら、実現するための問題を見付け、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の感じ方や考え方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うことである。
道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れる工夫	道徳的諸価値を理解したり、自分との関わりで多面的、多角的に考えたりするためには、例えば、実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な道徳的行為をして、礼儀のよさや作法の難しさなどを考えたり、相手に思いやりのある言葉を掛けたり、手助けをして親切についての考えを深めたりするような道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れることが考えられる。さらに、読み物教材等を活用した場合には、その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習も考えられる。
特別活動等の多様な実践活動等を生かす工夫	道徳科において実践活動や体験活動を生かす方法は多様に考えられ、各学校で児童の発達の段階等を考慮して年間指導計画に位置付け、実施できるようにすることが大切である。

「小（中）学習指導要領解説「特別の教科道徳編」第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第3節 指導の配慮事項 5 問題解決的な学習など多様な指導を取り入れた指導」より部分抜粋

小（中）学習指導要領では、「児童の発達の段階や特性等に考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること」とされました。

「登場人物の心情理解のみの指導」「主題やねらいが不十分な単なる生活経験の話合い」「読み物教材のあらすじを追うだけの授業」「道徳的価値（内容項目）に基づかない体験的な授業」等が散見されますので、道徳の特質に根ざした授業づくりを心がけることが大切です。

10、11頁に「(H28.7.22) 特別の教科 道徳の指導方法・評価等について（報告）道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」で示された「質の高い多様な指導方法のイメージ」を掲載します。また、過去に「道徳のかけ橋」で紹介した優れた授業実践（小・中・特別支援学級別の事例）を13～14頁に掲載しますので指導の参考としてください。



「特別の教科 道徳」の評価についての基本的な考え方を教えてください。

○ 改訂後の学習指導要領（特別の教科 道徳）

児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。

ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

具体的な方法を、道徳科の評価の在り方に関する専門家会議で検討

(H27.6～H28.7)

【基本的な方向性】

- 数値による評価ではなく、記述式とすること
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価とすること
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価（※）として行うこと
- 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
- 調査書に記載せず、入学者選抜の可否判定に活用することのないようにする必要

※ 専門家会議報告に基づき、道徳科の学習評価の在り方、指導要録の参考様式について、平成28年7月29日付で都道府県教育委員会等に通知

評価の質を高めるため、どのような工夫をすればよいか教えてください。

「特別の教科 道徳の指導方法・評価等について（報告）H28.7.22道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」には、「道徳科の評価の工夫に関する例」も具体的に掲載されています。ぜひ参考にしてください。

道徳科の評価の工夫に関する例（本専門家会議における意見より）

- 児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイル等へ集積して学習状況を把握すること。
- 記録したファイル等を活用して、児童生徒や保護者等に対し、その成長の過程や到達点、今後の課題等を記して伝えること。
- 授業時間に発話される記録や記述などを、児童生徒が道徳性を発達させていく過程での児童生徒自身のエピソード（挿話）として集積し、評価に活用すること。
- 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーション、協働での問題解決といった実演の過程を通じて学習状況や成長の様子を把握すること。
- 1回1回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識して、よい変容を見取ろうとすることは困難であるため、年間35単位時間の授業という長い期間の中でそれぞれの児童生徒の変容を見取ることを心掛けるようにすること。
- 児童生徒が1年間書きためた感想文等を見ることを通して、考えの深まりや他人の意見を取り込むことなどにより、内面が変わってきていることを見取ること。
- 教員同士で互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組むことにより、児童生徒の理解が深まり、変容を確実につかむことができるようになること。
- 評価の質を高めるために、評価の視点や方法、評価のために集める資料などについてあらかじめ学年内、学校内で共通認識をもっておくこと。

道徳科の評価を記入する上での留意点を教えてください。

県内7地区で開催された「平成30年度の『特別の教科 道徳』の実施に向けた地区別研修会」では、評価の演習に取り組み、評価文の事例検討や作成に取り組みました。ここでは、研修会を通じて分かったこと、学んだことを列記します。是非、評価を行う際の参考にしてください。

○ 平成30年度「特別の教科道徳」の実施に向けた地区別研修会の研修から

〈道徳科の評価記入上の留意点〉

学びの事実を基に、飛躍させず、盛り込みすぎず、比較せず、分かりやすく、行動の記録と区別して、文章で記述する

○ 研修会を通じて分かったこと、話題になったこと

キーセンテンス	研修会を通じて分かったこと、話題になったこと
「学びの事実を基に」	なぜそう書いたか、根拠が大切です。「児童生徒の発言」や「学習の様子」「ワークシートやノートへの記述」等を記録・累積しておくことが大切です。
「飛躍せず、盛り込みすぎず」	記録しておいた「発言」や「学習の様子」「ワークシートの記録」といった根拠を曲解して記述したり、数多くの根拠を記述しすぎたりすると誤解を生じ、伝わりにくくなります。
「比較せず」	「誰よりも優れています」といった表現は、一見最大のほめ言葉に感じますが、個人内評価の基本的な考え方からはふさわしくありません。同様に、「以前より理解できるようになった」という表現も誤解を招く恐れがあり、気を付けなければならない表現です。
「分かりやすく」	「道徳的価値の理解」「道徳的判断力の高まり」といった専門用語は、児童生徒や保護者には分かりづらい言葉です。児童生徒や保護者の目線に立って、分かりやすい表現を心がけたいものです。
「行動の記録と区別して」	あくまでも「道徳科」としての授業の評価です。行動に表れている道徳性の記述は、「行動の記録」に記述しますので、明確に区別してください。

以上の考えを基本としながら文章表現で記述します。各学校において、どのように記述するか教職員で共通理解を図りながら、児童生徒一人一人を受け止めて、認め、励ます評価の具現化に取り組んでください。

○ 研修会参加者が作成した評価文

- 「親切・思いやり」や「自然愛護」について考える授業では、友だちの発言にうなずきながら共感して聞いた、根拠に基づいて自分の意見を発言したりしていました。友だちと考えを交流する中で、友だちの考えをもと

にさらに深く考え、自分の考えを書いてまとめることができました。その考えについては、道徳ノートをご覧ください。ご家庭での話題にしていいただければと思います。

- 「〇〇〇」では、登場人物の役になりきって、くじけず最後まで努力することの大切さを表現しました。最後までがんばるためには、周りの応援も必要であることに気付くことができました。
- 「〇〇〇」の授業では、友だちの発言にうなずきながら、熱心に耳を傾ける姿が見られました。話し合いを通して、きまりを守ることの大切さを理解し、これからの学級生活に生かしていこう、という意欲が高まりました。
- 「〇〇〇」の授業では、親切・思いやりの大切さについて考えました。友だちとの話し合いを通して、本当の思いやりとは、相手の気持ちを大切にしながら、自分にできることを行うことだと気付くことができました。
- 「〇〇〇」の授業では、人間も自然界の一員であることを忘れてはならないという意見をもち、自然愛護について自分事として考えることができました。友だちの意見を聞いて、自分の考えをさらに深めようとする積極的な姿勢が見られました。
- 道徳の授業では、規則や友情、国際理解など、様々なテーマについて学び、自分の考えを発表できるようになりました。友だちの考えをよく聞き、意見を交換する中で、自分のことだけでなく、相手のこともよく考えて問題の解決に臨む姿が見られます。
- 「〇〇〇〇〇」の授業では、自分の考えと友だちの考えを比べたり、自分だったらどうするかを考えたりする活動を通して、最後まであきらめずに取り組むことの難しさを感じていました。

授業における評価の視点及び想定される児童生徒の姿について教えてください。

道徳科の授業における児童生徒の評価について

どのような評価の視点が考えられるか。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え、考えようとしている。
- ・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行為を多面的・多角的に考えようとしている。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
- ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している。
- ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動と他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。
- ・道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

今後の道徳科の授業では、「道徳的価値を自己との関わりでとらえることができたか」「物事を多面的・多角的に考えることができたか」の二つであることは、繰り返し述べてきました。今後の道徳科の授業案には、これら二つを具現化した評価の視点を明確に位置付けることが大切です。左のような視点を一例に参考にしながら記述し、しっかりと子どもの姿を見取りたいものです。



道徳科の授業における児童生徒の評価について

どのような児童生徒の姿が想定されるか。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

- ・ねらいとする道徳的価値の様々な面を考えている。
- ・道徳的価値を支える様々な根拠を考えている。
- ・様々な登場人物の立場で考えている。
- ・自分の考えと友だちの考えを比べて考えている。
- ・時間の経過とともに変化する気持ちを考えている。
- ・人間の強さや弱さ等を捉えて考えている。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考えている。
- ・教材の問題点等を自分事として受け止めて考えている。
- ・日常生活や学校生活等を想起しながら考えている。
- ・自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。
- ・自分だったらどうするかなど考えている。

この姿は、あくまでも想定であり、一例に過ぎません。このような姿を目安にしながら子ども一人一人の素敵な学びの姿をたくさん見取り、通知表や指導要録に記載したいものです。



のぞましい評価文について検討していますが、もう少し詳しく教えてください。

評価文の長所と短所を比べてみよう

評価文事例【A】の長所と短所は？

「雨のバス停留所で」では、社会の中におけるきまりについて考え、これまでの自分の体験を想起しながら、自分のことだけでなく、周りの人のことも考えて行動することが大切であることに気づいていました。

評価文事例【B】の長所と短所は？

道徳の教材で学びながら、登場人物に自分を置き換えて生活を振り返ったり、友達の考えを聞いて、一つのことを様々な見方で捉えたりして、今後のよりよい生き方について考えを深められるようになりました。

検討するに当たって、二つの評価文をお示しします。二つの文を比べてみましょう。それぞれ、どのような長所と短所があるでしょうか。

評価文【A】は保護者にとって学習状況がイメージしやすい長所があります。反面、一つの授業の評価であり、成長の様子が感じ取れないという短所があります。

一方、評価文【B】は、継続的な授業の見取りにより、子どもの成長の様子が感じ取れますが、反面、どの子どもにも当てはまり、特徴が見えにくい短所があります。

次の項目で、評価文A、Bそれぞれの長所と短所を踏まえた特徴的な評価文をお示しします。



特徴的な評価文の先行事例があれば教えてください。

これからの評価を考える

評価文事例【C】のよさは？

常に授業では、これまでの自分を振り返り、今後に生かそうとしています。例えば「二人の弟子」の授業では、相反する二人の立場のどちらも自分の心にはあるものとして受け止め、自分自身の弱さに気づき、克服していこうと考えていました。

評価文事例【D】のよさは？

常に自分に厳しい目をもって、授業では自分を振り返り、反省するような考えも観られました。しかし、それは、今の自分はこうあるべきだという自分をしっかり見つめている表れであり、これからの道徳の授業で、どんな自分をつくりあげていくのか、とても楽しみにしています。

先行事例として、特徴的な評価文を2事例（C、D）お示しします。参考にしてください。

Cの評価文は、継続し累積して見取ってきた評価と一つの授業で見取った具体的な評価の二つを合わせた記述となっています。

また、Dの評価文は、教師の的確な見取りを生かした事例です。児童生徒にとって、温かく、勇気づけられる内容となっています。各学校では、先生方の共通理解の基、子ども一人を認め、励ます評価を具現してください。



表現や反応の少ない子ども、学習上の困難さを伴う子どもを十分見取ることができず、不安です。

これから配慮すべきことについて

- 授業中の発言がほとんどない児童生徒
- 文章表現が得意ではない児童生徒
- 表情にも表れにくい児童生徒

- ・ 授業でどのように見取っていくのかを校内で検討しておく必要がある。
- ・ 授業者は、意図的に観察したり、指名したりして、評価できる根拠を集めることが必要である。

発言、文章記述、うなずきやつぶやき、動作や仕草等、その子なりの表現を見取り、授業における学習状況や道徳性の成長の様子を累積していくことが大切です。担任ばかりでなく、他の教員との協力的な指導やローテーション実践等を通じて、共通の見取りの視点を複数の目で行っていききたいものです。また、12頁に「(H28.7.22) 特別の教科道徳の指導方法・評価等について(道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議)で示された「発達障害等のある児童生徒に対する道徳科の指導について(例)」を掲載します。指導の参考としてください。



道徳科における質の高い多様な指導方法について（イメージ）

※ 以下の指導方法は、本専門家会議における事例発表をもとに作成。したがってこれらは多様な指導方法の一例であり、指導方法はこれらに限定されるものではない。道徳科を指導する教員が学習指導要領の改訂の趣旨をしっかりと把握した上で、学校の実態、児童生徒の実態を踏まえ、授業の主題やねらいに応じた適切な指導方法を選択することが重要。

※ 以下の指導方法は、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではない。例えば読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられる。

	×	読み物教材の登場人物への 自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	×
ねらい		教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体に解決するために必要な資質・能力を養う。	
登場人物の心情理解のみの指導	具体例	学習指導要領においては、道徳科の目標を「道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己をみつめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と定めている。この目標をしっかりと踏まえたものでなければ道徳科の指導とは言えない。	問題の発見や道徳的価値の想起など ・教材や日常生活から道徳的な問題をみつめる。 ・自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し、道徳的価値の本来の意味や意義への問いを持つ（原理・根拠・通用への問い）。	道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など ・教材の中に含まれる道徳的諸価値に関わる葛藤場面を把握する。 ・日常生活で、大切さが分かっているにもかかわらず実践できない道徳的行為を想起し、問題意識を持つ。	主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合い
	導入	登場人物への自我関与 教材を読んで、登場人物の判断や心情を自分との関わりで考える。	問題の探究（道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など） ・道徳的な問題について、グループなどで話し合い、なぜ問題となっているのか、問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのかなどについて多面的・多角的に考え議論を深める。 ・グループでの話し合いなどを通して道徳的問題や道徳的価値について多面的・多角的に考え、議論を深める。 ・道徳的な問題場面に對する解決策を構想し、多面的・多角的に検討する。	道徳的な問題場面の把握や考察など ・道徳的行為を実践するには勇気がいることなど、道徳的価値を実践に移すためにどんな心構えや態度が必要かを考える。 ・価値が実現できない状況が含まれた教材で、何が問題になっているかを考える。	
	展開	【教師の主な発問例】 どうして主人公は、○○という行動を取ることができたのだろう（又はできなかったのだろう）。 ・主人公はどういう思いをもって△△という判断をしたのだろう。 ・自分だったら主人公のように考え、行動することができたらどうか。	【教師の主な発問例】 ここでは、何が問題になっていますか。 ・何と何で迷っていますか。 ・どうすれば、（道徳的諸価値）が実現できるのでしょうか。 ・同じ場面に出会ったら自分ならどう行動するのでしょうか。 ・なぜ自分は、そのように行動するのでしょうか。 ・よりよい解決方法にはどのようなものがあるのでしょうか。	問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施など ・ベアやグループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤などを理解する。 ・実際に問題場面を設定し、道徳的行為を体験し、その行為をすることの難しさなどを理解する。	
	終末	振り返り 本時の授業を振り返り、道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それらを交流して自分の考えを深めたりする。	探究のまとめ （解決策の選択や決定・諸価値の理解の深化・課題発見） ・問題を解決する上で大切にした道徳的価値について、なぜそれを大切にしたのかなどについて話し合い等を通して考えを深める。 ・問題場面に対する自分なりの解決策を選択・決定する中で、実現したい道徳的価値の意義や意味への理解を深める。 ・考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。 ・問題の探究を振り返って、新たな問いや自分の課題を導き出す。	道徳的価値の意味の考察など ・役割演技や道徳的行為を体験したり、それらの様子を振り返りしめたことをもとに、多面的・多角的な視点から問題場面や取り得る行動について考え、道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。 ・同様の新たな場面を提示して、取りうる行動を再現し、道徳的価値や実現するために大切なことを体感することを通して実生活における問題の解決に見通しをもたせる。	

	×	読み物教材の登場人物への 自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	×
指導方法の効 果	登場人物の心情理解のみの指導	・子供たちが読み物教材の登場人物に託して自らの考えや気持ちを素直に語る中で、道徳的価値の理解を図る指導方法として効果的。	・出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効。 ・他者と対話や協働しつつ問題解決する中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性。 ・問題の解決を求める探究の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決的なプロセスに価値。	・心情と行為とをすり合わせることにより、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う指導方法として有効。 ・体験的な学習を通して、取り得る行為を考え選択させることで内面も強化していくことが可能。	主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合い
指導上の 留意点		道徳的諸価値に関わる問題について多様な他者と考え、議論する中で、多面的・多角的な見方へと発展し、道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりで深めることが可能。 ・教師に明確な主題設定がなく、指導頼に基づく発問でなければ、「登場人物の心情理解のみの指導」になりかねない。	明確なテーマ設定のもと、 ・多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。 ・上記「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。 ・議論し、探求するプロセスが重視されているか。 といった検討や準備がなければ、単なる「話し合い」の時間になりかねない。	明確なテーマのもと ・心情と行為との齟齬や葛藤を意識化させ、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。 ・上記問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。 といった検討や準備がなければ、主題設定の不十分な生徒・生活指導になりかねない。	
評価		・個人内評価を記述式で行う。 ※児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達段階に応じ励ましていく評価。 ・道徳科の学習において、その学習活動を踏まえ、観察や会話、作文やノートなどの記述、質問紙などを通して、例えば、 ○他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか ○多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか といった点に注目する必要がある。 ・学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するための工夫が必要。 ・妥当性・信頼性の確保のため組織的な取組が必要。			

※ 「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月22日」（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）より

発達障害等のある児童生徒に対する道徳科の指導について（例）

	学 習 上 の 困 難 さ	集中することや継続的な行動をコントロールすることの困難さ	他人との社会的関係の形成の困難さ
困難さの状況	「聞く・話す」はできても、「読む・書く」が苦手なことが多い。 - 文字の認識が困難な場合は、画数の多い漢字の識別や相手の表情を見分けることなどが難しい。など	- 気が散りやすく、注意を集中させ続けることが困難であったり、必要な事柄を忘れやすかったりする。（不注意） - 話を最後まで聞いて答えることや順番を守ることが困難であったり、思いつくままに行動して他者の行動を妨げてしまったりする。（衝動性） - じっとしていることが苦手で、落ち着いて活動や課題に取り組むことが困難な傾向がある。（多動性）など	- 社会性の発達が遅い。相手の心情理解が難しい傾向がある。 - 暗黙のルールが理解できない傾向がある。 - 特定の事物へのこだわり（やめない、変えない、始めない）がある傾向がある。 - 感覚が過敏であることが多い。など
考えられる障害	学 習 障 害 （ L D ） 等	注 意 欠 陥 多 動 性 障 害 （ ADHD ） 等	自 閉 症 等
道徳指導上の困難	- 読み書きの習得については、努力が成果に結びつかない経験をしており、「努力してやり遂げる」ことには消極的になりやすい。 - 読書が苦手で自主的に本を読む習慣がないため、知らない言葉が多い。同年齢の子供であれば理解できると予想されることを理解していない、あるいは誤解している場合がある。 - 自分の気持ちを文字で表現できない（話し言葉であればむしろ流ちょうに表現できる）ことがあり、文字による言語活動を重視した場合、工夫が必要となる。など	- 注意持続が短く、態度が変わりやすいため、気まぐれで誠実ではないように見えることがある。 - 多動性、衝動性により、ルールを守る気がない、安全を軽視していると受け止められることがある。 - 相手の気持ちを考えない、結果がどうなるのが考えないで始めた行動やうっかりミスにより問題が起こることがある。 - ものごとを最後まで注意していないために、結果を記憶していない。「自分ではない」と主張し、それが嘘やごまかしと思われることがある。 - 別のことに注意がそれて、期限や待ち合わせなどの約束を守れない傾向がある。など	- 相手の気持ちを想像することが苦手で、字義通りの解釈をすることがある。 - 明文化されていないもの、暗黙のルールや一般的な常識が理解できないことがある。 - こだわり行動または感覚の過敏により、望ましいと分かっていてもその通りにできないことがある。 - 誤って学習したこと、の修正が困難な傾向がある。など
指導上の必要な配慮	- 言葉の意味や正しい名称を知らないことが多いので、言葉の意味などを丁寧に伝える。 - 提示する教材などには、音声による情報を付け加える。 - 自分の考えを文字で表現したり、文字で書かれた他者の意図を読み取ったりすることが苦手なので、言語コミュニケーションの方法を文字言語のみに限定しない（口頭で答えることも可能とする）。 - 漢字の習得のみが困難な場合には振り仮名を振る。など	- 適度な時間で活動が切り替わり、注意が持続できるようにする。 - 成長が認められる行動や発言があった場合は、行動や発言のあった都度、評価する。 「あと五分」、「ここまでやったら」など、短期的で具体的な見通しを示して努力できるようにする。 - 必要なことをメモする、掲示する、付箋で示すなどして、単純なミスをしないで済むようにする。 - チェックリストや備忘録、スケジュール表などを用意し活用する。 - 対話の工夫や幅広い場面での触れ合いをもち、信頼関係を築く。など	- 他者の心情を理解するために、役割を交代して動作化や劇化を行う。 「〇〇ですと言ったのは、△さんが『～だ』』と書いていたからです」など主語を明確にして説明する。 - わかりやすく伝えるために、イラストにしたりせりふを書き込んだりすることができるようになる。 - ルールは明文化する。同時に、本人が理解してもこだわり等により変えられない場合もあると理解しておく。 - 最初から正しい知識を伝え、途中で修正する必要のないようにする。また、誤った理解をしていないか適宜確認し、できる限りの修正をする。など

※発達障害には上記以外の障害もあるが本専門家会議において発表された学習障害、注意欠陥性多動性障害、自閉症を中心に作成した。
※「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月22日」（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）より

質の高い多様な指導方法を踏まえた実践事例（特別支援学級（知的障がい）版） ～福島市立北沢又小学校の授業実践～

【道徳のかけ橋第22号（令和2年2月20日発行）より抜粋】

主題名

やさしくすると… 【B－（6）親切、思いやり】

ねらい

親切にしたときの気持ちについて体験的に考えることを通して、他者に優しくすると自分も相手も気持ちがよくなることに気づき、身近にいる人に進んで親切にしようとする心情を育てる。

教材

「はしのうえのおおかみ」（「わたしたちの道徳1・2年」文部科学省）

※ 福島県教育委員会オリジナル紙芝居 （画：福島県立福島西高等学校 デザイン科学科3年 小林美歩さん）



こんな子どもたちの姿から授業をつくりました！！



A 集中力を持続させることがむずかしい。

B 気持ちを考えること、言葉で表現することが苦手。

C 一人一人の特性に応じた指導をきめ細やかに行う必要がある。

【学習の概要】

1 他者に優しくできていないオオカミの姿から、本時の学びの視点をもつ。

（1）橋でウサギを追い返した時のオオカミの気持ちを色で考える。

やさしくすると どんなきもちになるのかな？

2 優しくされたり、優しくしたりするオオカミの姿から考える。

（1）橋でクマに渡してもらったオオカミの気持ちを考える。

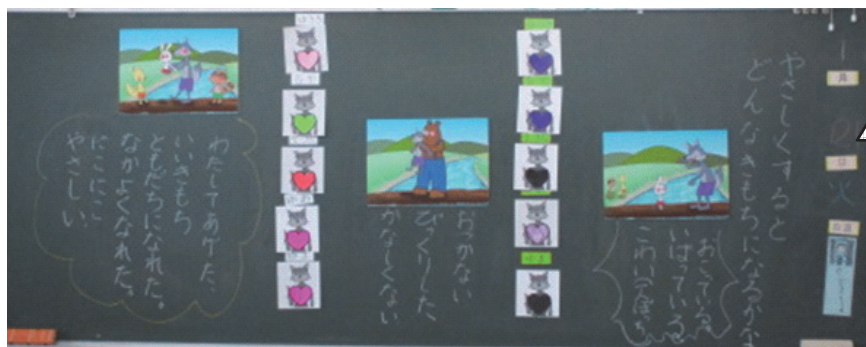
（2）橋でウサギを抱き上げて渡してあげた時のオオカミの気持ちを色で考え、役割演技で確かめる。

3 自分はオオカミに似ているときがあるか考える。



A 導入から終末まで、教材「はしのうえのおおかみ」とつなげながら発問をし、子どもが考えやすいようにしました。

【板書】



学びのノートとして、わかりやすく示しました。

可視化された全員の考えを掲示し、多面的・多角的に考えたり、考えの変化に気づいたりさせました。



授業の実践



A

紙芝居を活用することで、効果的な演出を工夫したり、紙芝居を共通の手がかりにして、話の内容や状況を確認したりしました。

◇ 紙芝居による演出 ◇

- ① 話の内容に合わせてながら、前の紙面を動かし臨場感をもたせた。
- ② 登場人物の動きに合わせて、紙芝居を動かして、場面のイメージを膨らませた。(クマがオオカミを、オオカミがウサギを抱きかかえて橋を渡る場面など)

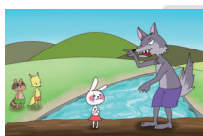
T : (紙芝居を読んでいる途中で) 一本橋って、わかる？
C1 : あの細い丸太でしょ。
T : そうだね。ここの川にかかっている、この木の橋です。

T : このとき、オオカミの顔はどんな顔？
C4 : おこってる。
C2 : いばってる。

場面毎に子どもたちの反応を確かめながら、読み進めました。子どもたちは、紙芝居を指さしたり、紙芝居を見比べたりして考える様子が見られました。



色によって表すことで、言葉による表現が苦手な部分を補ったり、その色にした理由からオオカミの心様子を考えやすくしたりしました。



オオカミが渡ってきて、怖い顔で怒鳴りました。「こらこら、もどれもどれ。」

T : このときのオオカミの気持ちはどんなかな？
C2 : (水色のハート型色紙を合わせて…) ちがうな。(群青色を合わせて…) これだな。
C : (5人全員がオオカミの気持ちの色を決める。)
T : C3さんは、どうしてこの色(黒)にしたの？
C3 : ひとりぼっちだと思って…。友達がない。
C4 : (C4も同じく黒) オオカミは怒っているから黒。
T : どうして怒っているんだろうね？
C4 : 怖いから。ひとりぼっちで、悲しい。



ハート型の色紙を何色も準備しておきました。子どもたちは、ワークシートの上に色紙をおいて自分の考えに合うかどうかを確認しながら考えていました。



オオカミはウサギを抱き上げ、後ろにそっとおろしてあげました。

T : 前のオオカミと違うところはあるかな？
C : (子どもたち5人全員大きくうなずく)(全員、折り紙を使って色を探す。)
T : なんか、みんな色が変わったね。どうしてこの色になったの？
C1 : (ピンク) オオカミは、うれしいから。ウサギと仲良くなれたから。
C5 : (赤) いい気持ちになったから、黒から赤になった。
C2 : (黄緑) 友達になってみんなやさしくなった。オオカミと仲良くなって、オオカミの家に行って、ご飯を食べたかもしれない。
T : オオカミはやさしくなったの？
C : (全員大きくうなずく)
T : やさしい気持ちになると、心はこんなきれいな色になるんだね。
T : このときのオオカミをやってみよう。(役割演技をしたり、見たりする。)

選んだ色を根拠にして、自分の考えを話す姿が見られました。また、全員の考えが黒板に示され、優しいオオカミの心様子を前のオオカミと比べたり、優しくするときの心様子のとらえ方が、一人一人違うことに気付いたりしていました。



一人一人の特性に応じて、問いかけや働きかけを行いました。

- 気持ちを考えることが比較的得意なC1、C4児
～ はじめに発表させることで、他の子どもの手がかりにさせました。また、C1、C4児に対して問い返しを行って、考えを深めさせました。
- 反応が少ないC3児
～ 名前を呼びながら個人的に問いかけを行うようにしました。
- 描材(クレヨン)で遊んでしまいそうなC6児
～ 始めからハート型色紙を提示するよう計画しました。(当日は、C6児は欠席。授業では、最終的に全員がハート型色紙で考えていた。)



授業後の活動を通して、子どもたちの学びを持続させました。

- 授業後の活動も含めて45分間を計画することで、遊びや自由なやりとりの中で道徳の学びを持続させるよう計画しました。

【想定していた活動】

一本橋のごっこ遊び、紙芝居、動物のお絵かき



授業中から紙芝居に興味津々だったC2が、「ぼくが読むよ。」と読み始めました。それを見る児童は、動物の表情などを改めて確認していました。

授業後に、紙芝居を読んだり聞いたりする児童

この授業の学習指導案・紙芝居は義務教育課ホームページに記載します。ぜひ、ご活用ください。

(URL) <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a>



質の高い多様な指導方法を踏まえた実践事例 ～新地町立尚英中学校の授業実践～

【道德のかけ橋第25号（令和4年4月発行）】

深い学びのある道德科の授業をつくろう

道德科における 1人1台端末の活用

1人1台端末が導入され、試行錯誤の日々が続いていると思います。不安や難しさを感じてしまうこともあるでしょう。

本号では、道德科における1人1台端末、ICT活用の事例を紹介します。令和3年度道德教育推進校の新地町立尚英中学校はICT活用を活発に進めている学校です。しかし、常に「この場面で本当にICTが必要だろうか」と考え、生徒の実態を基に授業をつくってきました。特に「道德科の学習では、フェイス・トゥ・フェイスの話し合いを大切にしたい」という教師の思いがありました。

尚英中学校 第2学年3組の授業実践 指導者：平塚健次郎 教諭

主 題 友情を育てるために【友情、信頼】

教材名 ゴール（東京書籍）

ねらい 登場人物5人のそれぞれの思いについて話し合うことを通して、友情を培うために自分はどうかあればよいかを考え、より一層深い友情を築いていこうとする道德的実践意欲と態度を育てる。

教材のあらすじ

本教材は、バスケットボール部に所属する5人の女子中学生の話である。弟が交通事故にあったために練習に身が入らないリカに対し、そのことを知らない美希たちは腹をたてチームに溝ができてしまう。その後、リカが練習に身が入らなかったのは、弟が交通事故にあったからだを知った4人は、リカを誤解していたことに気づき、後悔する。友だち関係の問題や困難を乗り越え、正しく理解することによって、より豊かな人間関係が築かれることを考えることができる教材である。



授業改善のポイント①

教材を自分事として捉えることができるように、生徒の体験と登場人物の気持ちを重ね合わせて考え、自己を見つめることができるようにする。

授業改善のポイント②

多面的・多角的に考えることができるように、構造的な板書やICT（協働学習支援ツール）活用により、意図的指名を行い、話し合いをコーディネートする。

授業の実践（授業レポート）

導 入

● 事前に行った友人関係についてのアンケートの結果を確認する。

教師 「友人に理解してもらって、うれしかったことはあるか。」という質問ですが、どのような結果だと思いますか？

→ほぼ100%が「はい」と回答した。回答の理由「自分のことを分かってもらうことで、以前よりも仲よくなった」を伝え、生徒たちはうなずきながら共感していた。

教師 「友人の気持ちや状況を考えずに発言し、失敗してしまったことはあるか。」についての結果も見てみましょう。

→半数以上が「はい」という答えであった。他のアンケート項目についても紹介し、自己の経験を振り返り考えることができるようにした。

教師 みなさんも、友達に支えられたり、友人関係で失敗したりしたことがあるのですね。今日は、友達関係がうまくいかなかった話を使って友情について考えていきましょう。

アプリのアンケート機能を活用すると、生徒の実態把握がしやすく、集計が効率的にできます！

① 事前のアンケートをきっかけとし、自分の生活を振り返ることにより、本時の学習を自分事として捉えることができましたようにしました。

① この導入をきっかけにして、「アンケート結果」、「教材」、「自分」が重なっていききました。

● 教材「ゴール」の範読を聞き、トラブルが起きた原因について考える。

- 教師 なぜこのような状況になってしまったのだろう。
 生徒 コミュニケーションが足りないと思う。
 教師 どうすればよかったのかな。
 生徒 お互いに説明が足りないからこうなったと思う。
 教師 どうしてそう思うの？
 生徒 キャプテンとして配慮がなさ過ぎるのではないか。
 生徒 誰かを外した LINE グループをつくるのはよくないと思う。

① 教師は、登場人物の心情理解のみにならないように、「教材の中の登場人物が立たされた状況」に共感させ、それと同じような「自分の経験や体験を想起して、自分の気持ちを考える」ことを最後まで大切にしていました。

この段階では、自己と重ねることが難しかった生徒も、友だちとの話合いで「自分は…」と問う姿につながっていききました。

授業改善のポイント②

● 登場人物に共感し、道徳的価値の問題場面について考える。

- 教師 なるほど。友だちとコミュニケーションをとることは大切だとわかっているのに、5人はどんな思いをもっていたのかな。

→ある班の話合いの様子

- 生徒1 友達の様子がおかしい時に、声をかけられない気持ちってわかるな。
 生徒2 それ、あるよね。でもキャプテンなら頑張って声をかけてほしいよね。
 生徒3 SNS でやり取りするからこうなるんじゃない？
 生徒2 このグループチャットをつくること自体がおかしくない？
 生徒3 確かに。面倒になりそうだから、僕だったら入らないな。

平塚先生のこだわり！

② 生徒の考えを対比させたり様々な立場の考えを位置づけたりできるよう、板書を構想しました。しかし、話合いの拠り所となる構造的な板書についてはこれからの課題です。

授業改善のポイント③

● 協働学習支援ツールの効果的な活用

- 教師 でも、友だちだよ。断ることができるの？
 →話合いが次第に、自分を重ね合わせた発言に変わっていく。

- 生徒1 ダメだとわかっているけど実際断れないよね。
 教師 どうしてそう思うの？
 生徒2 でも、自分の知らないところでそんなグループチャットができていたらショックだよ。
 生徒3 このグループチャットをつくらせて、何かいいことあるの？ひどくない？
 生徒1 それはわかるけど、でも自分が誘われたらどうする？
 生徒3僕は入らない。「なんでそんなグループ作るの？」って言う。
 生徒1 本当に言えるの？自分の部活だったらどうなの？
 生徒3 確かに…。難しい…。友だちだから言いづらいか…。

→友達の考えを聞き、自分を見つめ直す姿は、多面的・多角的に考え、自己を見つめる姿である。

② 教師は協働学習支援ツールによって、生徒全員の考えを手元のタブレットで把握しています。

多面的・多角的に考えが広がるように、授業全体をとおして意図的に指名しました。このようなことが瞬時にできるもの、ICTのメリットの1つです。



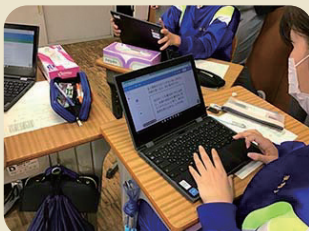
ICTと板書を効果的に活用している平塚教諭

授業改善のポイント④

● 自己を見つめる学習活動の工夫

- 教師 今の自分から、過去の自分に手紙を書いてみましょう。
 →過去に友人関係で失敗してしまった経験を想起し、その時の自分に手紙を書くことで、これからの自分の生き方について考える場とした。

① 自己を見つめることができるよう、活動を工夫しました。話合いをとおして、再度、自分を見つめ直し、自分の考えを深める大切な時間です。



生徒のワークシートから
(協働学習支援ツールで共有)

まず、自分の気持ちを相手に伝えてみるという。相手も、誤解しちゃっているところがあると思うし、伝わるとスッキリすると思う。そしたら、相手の気持ちをよく聞いてみよう。自分が誤解しているところや、本当の気持ちがわかると、もっと仲よくなれると思う。



道徳科における ICT 活用の注意点！

子どもの意見が一律に共有されることはとても便利です。しかし、共有されることに抵抗感をもつ子どもも中にはいるかもしれません。目の前の子どもの実態を考慮し、活用方法を検討してください。また、ワードクラウド（出現頻度が高い単語を複数呼び出し、その頻度に応じた大きさで図示する）機能は、大きな文字で現れたものがあたかも正解のように、多数決的に感じる子どももいます。使い方によっては「自分の考えは間違っていた」という誤解を与えてしまう可能性があります。道徳科では、言葉にならなくても何とか絞り出した心の声や表情を教師が見取り、話合いにつなげることが大切です。試行錯誤しながら、よりよい道徳科の授業づくりを進めていきましょう。

質の高い多様な指導方法を踏まえた実践事例 ～福島市立平田小学校の授業実践～

【道徳のかけ橋第26号（令和5年4月発行）より抜粋】

道徳科の特質を踏まえた情報モラルに関する授業実践



社会の情報化が進展する中、子どもは、学年が上がるにつれて、次第に情報機器を日常的に用いる環境の中に入っており、学校や子どもの実態に応じた対応が学校教育の中で求められています。これらは、学校の教育活動全体で取り組むべきものですが、道徳科においても同様に、情報モラルに関する指導を充実する必要があります。

道徳科の特質を踏まえた情報モラルに関する授業について、一緒に考えてみませんか。

授業について

福島市立平田小学校 第4学年の授業より 指導者 嶋原 則子 教諭

- 主 題 名 自ら信じることにしたがって
- 内 容 項 目 A(1)〔善悪の判断、自律、自由と責任〕
- 教 材 名 「カマキリ」(出典：新・みんなの道徳4 学研)
- ね ら い 正しくないと考えられることを人から勧められる場面を役割演技で疑似体験をし、そのときの「ぼく」や「友達」の心の中を考えることを通して、よく考えて正しいと判断したことは、周りに流されないで行うことの大切さに気づき、自信をもって行おうとする態度を育てる。
- 児童の実態 学級で小さなトラブルが起きると、自分たちで話し合い、原因を考えたり行動を改めたりする姿がある。その中で善悪を判断する場面があるが、友達関係や自分の弱さから、正しい行動ができないこともある。また、正しくないという判断をして自分はその行動を起こさなかったとしても、友達の行動をとめることはより難しい。

○ 指導の意図（児童の実態を踏まえて）

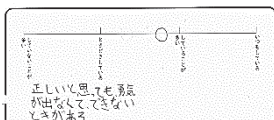
正しいことを行えないときの後ろめたさや正しいことを行ったときの充実した気持ちを振り返り、正しいと信じて判断したことを行おうとする態度を育てたい。



〈あらすじ〉

主人公の「ぼく」がインターネットを使う際、自分の判断は正しいと思いながらも周りの友達に流されて個人情報を入力してしまい、自分の行動に後悔の念を抱いてしまうという話である。

ここがポイント！ 子どもが「問題意識をもって授業に臨む」ために



〈事前アンケート〉



〈事前アンケートの提示〉

〈事前アンケート〉

「正しいと思うことをいつでもしているか」について、心のものさしを使って事前アンケートを行いました。

〈導 入〉

アンケート結果を、一つの心のものさしに集約したものを提示しました。

「どうして正しいと思っても、できないことがあるのかな。」

「自分だけじゃない。」

「人によって位置が違うな。」

友達の考えや全体の傾向を知ることで、「善悪の判断」に係る子どもの問題意識が高まりました。そこで、本時の学習課題「正しいと分かっているのに…」が設定されました。

道徳は、教材の内容を理解させることに終始せず、教材を活用して生き方を学ぶ時間です。だからこそ、子どもが「問題意識をもつ」ことが大切になります。



ここがポイント！「多面的・多角的に考える」ために

主人公が友達とインターネットでカマキリを検索していると、先に進むためには名前を入れなければならない画面に遭遇します。授業者は、この状況を**役割演技で、疑似体験**をさせたいと考えました。PC上に、カマキリの画像や、「ご利用ありがとうございます。お名前をご登録しました。」という文章が並ぶ画面を作成し、臨場感のある状況を設定しました。

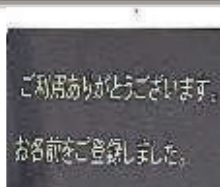
〈役割演技1回目〉 「ぼく」役：子どもたち 「友達」役：教師

〈役割演技2回目〉 「ぼく」役：A児 「友達」役：A児以外の子どもと教師

【評価の視点】 個人情報を入力をめぐる場面のぼくや友達の心の中について、それぞれの立場で考えている。 (発言)



〈PCに作成した画面〉



〈役割演技を通して考える姿〉

〈2回目の役割演技より（一部抜粋）〉

友達役： 早くやって、やって。（みんなで）

ぼく役： 見たくても無理。

友達役： 見たいなあ。見ようよ。（みんなで）

教師： すごい写真があるかもしれないよ。もっとす

(友達役) ごい新聞ができるよ。（ゆさぶり）

ぼく役： 変な請求がきたら困るから、自分の気持ちを優先した方がいいな。

友達役： いい新聞を作るって約束したでしょ。下の名前だけなら大丈夫だよ。大丈夫だよ（みんなで）

ぼく役： ん…。

〈役割演技後に〉

教師： ぼく役のAさん、やってみてどうでしたか。

ぼく役： さっきまで、個人情報だからいけないと思っていただけど、みんなに言われて、すごく迷った。まっ、いいかなって気持ちになった。

教師： 周りにいた友達は、ぼくの心の中はどうだったと思いますか。

友達役： だめって電源を切ったら嫌われるし、絶交される。嫌われたくないって思ったと思う。（続く）

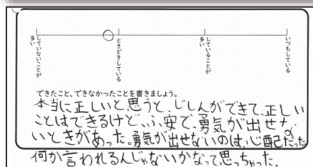


単にPC操作を目的として行うのではなく、役割演技を通して友達に勧められるとなかなか実行できない自分の心の弱さに気付くことができるようにしたり、役割を交代することでぼくと友達のそれぞれの立場から考えることができるようにしたりしていることが素晴らしいですね。

ここがポイント！「自己を見つめる」ために

「これまでの自分は、正しいと判断したことは自信をもって行っていましたか。」と投げかけ、心のものさしを使いながら、自己を見つめることができるようにしました。また、子どもにとって身近な友達関係や情報モラルに関わる経験を、具体的に想起できるような言葉掛けをしました。

【評価の視点】 正しいと判断したことを実行しているか、自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。 (ワークシート、発言)



ぼくより小さい子に、「ろうかは走らないよ。」と、正しいと思ったことを言えた。

ぼくがまだ小学生ではないときに、友達がからかわれていて、ぼくは、助けたかったけれど、ぼくもからかわれたらどうしようと思って、自信をもてなかった。（続く）



授業者は、「できた体験」「できなかった体験」の両面について振り返るように促していました。具体的な体験と結び付けて考えることで、子どもたちは知的な理解に止まらずに、自分との関わりで実感をもって考えを深めることができていました。



◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 道徳科の特質を踏まえた情報モラルに関する授業とするために ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

道徳科で行う情報モラルの学習は、**情報機器の使い方やインターネットの操作、危機回避の方法やその際の行動の具体的な練習を行う時間ではなく、内容項目（例えば「礼儀」や「親切、思いやり」）について「自分はどうかろう」と自己を見つめることを通して、自分の価値観を明らかにしていく時間**です。具体的に意思決定していく学級活動（2）の特質との違いを明らかにして授業をつくります。（学習指導要領解説p97参照）

道徳科の目標に「自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して」とありますが、子ども一人一人が実感を伴いながら考えを深めるためには、どんなことに気を付けたらよいのですか。



授業を振り返り、自己を見つめる時に、こんなことはありませんか。

- ・ 振り返りの時間が無くなってしまった。
- ・ 子どもに何を書かせるかがあいまいで、とりあえず本時の感想を書かせている。
- ・ 子どもが「これからはこうしたい！」と前向きなことを振り返るので自己を見つめていると思う。

道徳科のねらいに迫り、道徳性を育成していくためには、自己を見つめる時間がとても重要です！

一見、自己を見つめているようでも、先生が求めている答えのようなものに近づけようとしていたり、決意表明をしたりすることが道徳科のゴールになっていることが考えられます。

ちょっと立ち止まって考えてみましょう。

- ☐ 道徳的価値の意義を問うなど、教材から離れて自分の生活や体験等を振り返るようにしていますか。
- ☐ 子どもは、道徳的価値について自身のこれまでの経験や価値観と照らし合わせて考えを深めていますか。
- ☐ 子どもは、「自分はこうだと思ふけれど迷う。」「分からなくなってきた。」「自分には難しい。」等人間の心の弱さに気付いていますか。
- ☐ 子どもが道徳的価値について他者の考えと比べたり、様々な見方から考えたりできるように構造的な板書を工夫するなどの手立てを考えていますか。

これらのことに気を付けながら、自己を見つめる時間をつくっていくことが大切です。子どもが、「あの時は〇〇〇と考えて、□□□したな。」と、これまでの具体的な経験とつなげることで、「今思うと・・・」あるいは、「だから・・・」と、実感を伴いながら考えを深めることができるようにしていきます。

「自己を見つめる」ことを大切にしている先生方の実践を紹介します。



振り返りの時間を大切にしています！



本校では、1時間の授業の10～15分を「自己を見つめる時間」として振り返りの時間を設定しています。

始めは何も振り返ることができない子どももいて悩みました。そこで、心のものさしを使って考えるなど、子どもが自分の考えを示すことができるような工夫から始めました。振り返りでは、自分の考えや話し合いをもとに、「これまでの自分はどうか」を振り返っています。

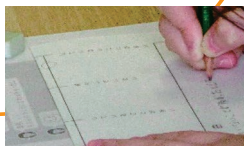
マイナス面を書くことをためらう子どももいましたが、どんな考えも認め合える学級の雰囲気できてきたので、次第に素直な言葉があふれてきました。1年間繰り返すことで、自己内対話が深まっているように感じています。今では、振り返った後に、自然と振り返りを共有し認め合う姿が見られるようになりました。



こんな時は・・・

「自己を見つめる」時にはワークシートを活用しています！

私の学校では、自分を客観的に見つめじっくりと考えたことを表出できるよう、ワークシートに書く活動を取り入れ累積しています。



- 振り返りを書くことができない。
 - ・ 授業中の発言に着目してみましょう。
 - ・ 授業後にどのように考えていたか、そっと問いかけて見取ることもできます。
 - ・ 焦らず、長期スパンで見取るようにしましょう。
- 振り返りが前向きでない。
 - (例) 今の自分は、みんなのようにできないと思う。
 - ⇒ 今の自分には実現することが難しいと感じている、自分に気付いている姿です。自己を見つめる姿を認め、長期スパンで道徳性に係る成長の様子を見取っていきましょう。

学校、家庭、地域が連携した道徳科の授業をどのように進めればよいのですか？

学習指導要領には、家庭や地域社会との連携による指導が明記されています。

家庭や地域社会との共通理解を深め、道徳教育を進めることで、子どもの豊かな道徳性の育成につながります。各学校、学級の実態をしっかりと捉えた上で、家庭や地域との連携を探っていきましょう。



道徳教育推進校で進めた家庭との連携の取組例

- 1 道徳科の授業の前に、家庭で教科書を保護者と共に読む活動を設定する。その後、感想を話し合う。



教材文が長く、一読に時間がかかる教材の場合は、事前に読むことで自分の考えを整理しやすくなります。一方、全員で確認しながら読むことのよさ、初めて読む楽しさもありますので、実践には吟味が必要です。



親子で感想を交流したり、保護者の考えを聞いたりすることは、道徳性の育成につながる家庭での道徳教育となります。

- 2 授業への参加を依頼する。

○ゲストティーチャー（以下G T）として参加

地域人材：郷土の伝統を守ろうと努力をしている地域人材
自然保護に取り組んでいる町役場の人
これからの町づくりのために活動している人 等

保護者：内容項目に関わる仕事や経験をもつ人
人々の生活を支えている医療現場で働いている人
震災を経験した立場としてその時の様子や感じたことを話すことができる人

○ロールプレイに参加

※令和2年度「道徳のとびら」参照

○心のものさしに保護者や地域の人も考えを示すなど学習活動に参加



1 単位時間の全てをG Tに依頼するのではなく、内容項目について子どもが話し合う時間や話し合いを経て自己を見つめる時間をしっかりと確保することが重要です。

教材を通して、子どもが考えを広げ、自己を見つめるきっかけとなるような活用ができるようにしましょう。

- 3 道徳科の授業後に家庭で保護者と共に考える学習を設定する。

家庭学習として、教材やワークシートを持ち帰り、子どもが自分の考えを伝え、保護者の考えをインタビューする 等

- 4 道徳科の授業の様子や子どもの道徳性に関わる成長の様子やエピソード等を学校便り、ホームページで発信する。



これらの家庭、保護者との連携を、学校行事や総合的な学習の時間との関連を図りながら進めることが大切です。道徳科は道徳教育の要の時間です。学校教育全体で行う道徳教育との関連を見極めて、自校の実態に合わせた連携を考えていきましょう。



1～4を全て実施することが必要なわけではなく、あくまでも各学校の実態に応じた連携の在り方を見いだしていくことが大切です。

校長先生から「道德教育推進教師」に任命され、解説87～88頁を読みました。でも、何から手をつけたらよいか、よくわかりません。

学校の先生方みんなの力を借りて、わかりやすく推進することを心掛けてみませんか。一緒に考えてみましょう。



学習指導要領解説には、道德教育推進教師を中心とした指導体制の充実が明記されています。解説87～88頁で確認しましょう。

授業を実施する上での悩みを抱えた教師の相談役になったり、情報提供をしたりして援助することや、道德科に関する授業研修の実施、道德科の授業公開や情報発信などを、道德教育推進教師が中心となって協力して進めることが考えられる。

道德教育推進教師は、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育においても調整役などの役割を果たすことになるが、道德科においてその充実を図る際も、校長は学校として道德教育推進教師の位置付けを明確にし、適切な人材を充てるとともに、そのリーダーシップや連絡調整の下で全教職員が主体的な参画意識をもってそれぞれの役割を担うように努めることが重要である。中でも、道德科の指導力向上のために全ての教師が、授業の準備、実施、振り返りの各プロセスを含め、道德科の学習指導案の作成や授業実践を少なくとも年に1回は担当して授業を公開するなど学校全体での積極的な取組も望まれる。そのために、例えば、道德科の授業改善を推進するための推進委員会などの組織を設けることも大切である。

道德教育推進教師ははじめの一步

1 自校で「どのような子ども」を育てるのかを設定します。

- ☐ 教育目標の具現化を図り、目指す子どもの姿を描きます。
- ☐ 学校運営ビジョンを基に、道德教育部会や管理職と相談しながらつくりま

2 重点内容項目を設定します。

- ☐ 目指す子どもの姿から、道德の19～22ある内容項目の中で、特に関わりのある内容をいくつか選びます。重点なので、できる限り絞り込むことがポイントです。
- ☐ 家庭や地域の願いを基に設定することも大切です。

3 1、2について全教職員、家庭や地域と共通理解を図ります。

- ☐ 選定した「重点内容項目」に関わる指導を、教育活動全体を通じてみんなで指導するという共通理解を図ります。
- ☐ それぞれの学年や部会ごとに、どのような場面で「重点内容項目」に関わる指導ができそうかを考えます。
→このための指導計画で、指導の内容と時期を具体的に示したものが、全体計画「別葉」になります。
- ☐ 家庭や地域へも、共に取り組んでいくことを依頼します。

4 実践します。

- ☐ 各教科等の授業の中で、あるいは、生徒指導等をとおして、子どもたちに指導していきます。



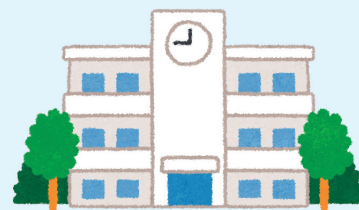
「目指す子どもの姿」を基に、重点内容項目を選定していくことが、はじめの一步なのです。みんなで推進していくために、重点内容項目に限定した「わかりやすく活用したくなる別葉」を作成してみたいと思います。

道徳教育推進教師としての様々な取組を紹介することも役割の一つです。
まずは、できそうだと思うことから、一つ決めて取り組んでみましょう。



道徳教育推進アイデアノート

- 重点内容項目から教育活動を構想する
 - ・PDCAサイクルで振り返りましょう。
- 道徳教育に関わる情報提供
- 掲示物、教材コーナーの整備
 - ・場面絵のストック
 - ・板書写真の掲示 等
- ワークシート等のデータを共有フォルダに累積
- 道徳科の授業を開く（互見授業のコーディネート）
- 道徳便りの発行
 - ・道徳教育における情報の発信
 - ・求める子どもの姿
 - ・一人の人間として内容項目について考えたこと 等



道徳教育推進教師の先生の声



小学校

推進教師になった時は、これを機会に勉強してみようと思い、ワクワクしました。それでも、道徳科の授業には課題を感じていました。

そこで、始めに取りかかったのは、自分の悩みや課題について整理してみようということです。私は、「発問」「問い返し」に課題意識をもっていたので、本の情報や授業の考察を道徳便りで発信しました。自分の考えを整理する意味でもとても良かったです。

また、目指したのは、年間35時間いつでも誰でもできる範囲の中で毎回の授業の質を上げていくことです。いかに短い時間で効率よく効果的な準備をできるかを考えました。毎回とはいきませんが、板書写真や子どものワークシートを職員室に掲示することで、授業について自然と職員間で語り合うようになりました。推進教師として取り組んだことで、子どもとつくる授業の大切さ、子どもの成長を実感することができました。



中学校

私は正直なところ、道徳科に苦手意識がありました。でも、若い先生方が進んで研究授業に取り組むので、一緒に授業づくりをしてきました。私が取り組んだことは、校内研究のコーディネートです。改まった研修の場ではなくベテランの先生も若い先生も、普段から相談できる体制があることも本校の研究を進める強みとなりました。ある先生は、何度も授業を繰り返すことで、板書がどんどん変化していきました。

推進教師として特別なことをしたわけではなく、聞き役になり授業改善を応援してきました。学校みんなで一丸となって取り組めたので、これからも校内で研究を深めていきたいです。



「みんなの力を借りて」という言葉が、心に響きました。
焦らずに、取り組んでいきたいと思います。



道徳教育推進教師に関わる実践事例 ～令和5年度道徳教育推進校の取組～

【道徳のかけ橋第29号（令和6年7月発行）より抜粋】

『あなただからこそできる』道徳教育推進教師～自分の強みを生かす～

道徳教育推進教師とは？

道徳教育推進教師とは、一言で言うと「学校の道徳教育の中心的な役割を果たす教師」のことです。

道徳教育推進教師を中心に、自校の実態や課題等に応じて、学校として推進すべき事項を明らかにした上で、実効性のある指導体制を構築し、全ての教師の協力の下、組織的に道徳教育を推進することが大切です。

こんな悩みや迷いはありませんか？



Q:そもそも、私にできるのでしょうか…
→「A-1」へ



Q:何から手をつけたらよいか分かりません…
→「道徳の礎」p21へ



Q:どんな取組がありますか？
→「A-2」へ

A-1：あなたの「強み」を生かして、『あなただからこそ』の推進をしていきましょう

「任された役割をしっかりと行いたい」という道徳教育推進への思いを胸に秘めながらも、道徳教育推進教師の役割が広範囲で多岐にわたるため、「どうすればよいのか…」という悩みや迷いが生じている先生方は多いのではないのでしょうか。そこで提案です。あなたの得意なことや好きなことといった「自分の強み」を、道徳教育推進教師としての取組に生かしてみませんか。『あなただからこそ』できる道徳教育の推進へのきっかけを次の中から見つけてみましょう。

学習指導要領（第3章 第6節 1（1）道徳教育の指導体制）

- ・ 道徳教育の指導計画の作成に関すること
- ・ 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
- ・ 道徳科の充実と指導体制に関すること
- ・ 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
- ・ 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
- ・ 道徳科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
- ・ 道徳教育の研修の充実に関すること
- ・ 道徳教育における評価に関すること など

集める・記録する【コレクター】

必要な教材 場面絵、ワークシート等の収集や累積

伝える・広げる【スポークスマン】

理解と協力を得るための資料や広報誌の発行、説明

「自校ならではの」をつくる【デザイナー】

重点目標の設定、特色を生かした推進を構造的に描く

同僚と一緒に考える【アドバイザー】

道徳科の効果的な指導法や指導案の検討、アドバイス

道すじを考え提案する【プランナー】

全体計画や年間指導計画の作成、授業研究会の企画

推進の雰囲気をつくる【ムードメーカー】

学校全体に推進への意気込みや雰囲気を醸成する

改善の方向を示す【ナビゲーター】

目標に向かっているか見届け、導き、評価して改善する



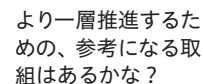
フォロアーのススメ ～推進は「独り」よりも「教職員みんな」で～

道徳教育推進教師が役割を全て独りで担うには限界があります。ぜひ、皆さんがそれぞれの立場から道徳教育推進教師をフォローして「チーム」で推進していきましょう。



A-2：令和5年度 道徳教育推進校は、こんな取組をしていました 詳細は「道徳の礎」を参照ください

令和5年度の道徳教育推進校では、様々な組織的取組が行われました。道徳教育の推進を主に担当している教師や校長先生がどのような取組をどんな思いで行っていたのかをご紹介します。



 「思いをつなぐ」「教師も自分事として」～道徳教育推進教師の思い～ (令和5年度)

【玉川村立須釜小学校 道德教育推進教師】

道徳教育推進教師として、年度初めは不安でいっぱいだったが、学校全体で道徳教育に取り組んでみて、その大切さ・奥深さを感じた。推進教師として二つの思いがあった。一つは、「みんなと授業を共有したい」ということ。授業の資料や道徳的価値について、みんなで考えて構想シートをつくったり、授業後の事後研究会で自由に話し合ったりすることを大切にしてきた。もう一つは、「子どもの実態を一番知る授業者の思いを大切にしたい」ということ。授業者の思いと先生方の考えをつなぐこと、経験年数に関係なく、授業について自由に語り合う場をつくることを意識して取り組んだ。

【南相馬市立原町第一中学校 道德教育推進教師】

心がけたことは、組織的に道德教育を推進することだ。そのために、先生方にどのように道德教育に関わってもらうかを意識してきた。道德の授業はもちろん、ゲストティーチャーとしての役割を果たしたり、授業改善の視点を明確にして道德の授業について話し合ったりすることができるようにした。一人一人が担任、担任外に関わらず自分事として道德の授業について考えることができるようにしたいと考え、実践に取り組んだ。

「管理職も一緒に」「『やってごらん』と背中を押す」 ～校長の思い～ (令和5年度)

【玉川村立須釜小学校 校長】

先生方に、学校全体で取り組む道徳教育であることを伝え、特別なことを始めるのではなく、今まで取り組んできたことを振り返り、道徳教育の視点から取組を価値付け、よりよい取組にしていく過程を紹介していくと働きかけた。まず、管理職も一緒に、研究の取組かきとなりように「先生方の道徳の授業を撮影し、アーカイブにしておく互見授業を進める」推進教師とともに、より使いやすく、これからも使い続けられる別業の形式を提案する「授業の構想シートづくり」に管理職も参加することを行った。さらに、学校の道徳教育を地域や保護者に知ってもらうために「参観日の全大会で保護者に道徳科の授業体験（校長が授業者）」「来校者に学校の道徳教育を知ってもらえるよう、校長室・職員室付近に道徳コーナー設置」「学校だよりを通して学校で推進している道徳教育の様子の発信」に取り組んだ。

【南相馬市立原町第一中学校 校長】

心がけてきたことは、道徳教育推進教師をはじめとした先生方の主体性を大切にすることだ。教師が「やってみたい」と考え、提案してきたものを受け止め、県の施策や学習指導要領を踏まえた指導助言をしつつ、どのようにすれば提案した教師の思いが実現できるかを考えてきた。先生方が「できるかな」と感じている背中を「やってごらん」とポンと押してやり、その中で多くのことを学んでほしいと考えている。

「指導を振り返る」のススメ ～2学期を見据えた組織的取組～

目の前の子ども達の姿について、全教職員が集まる会議等の際に、「育てたい子どもの姿」や重点内容項目に照らして、これまでの指導を振り返ってみましょう。

その上で、別葉を活用して「いつ（授業や行動等）」「どのような」指導をすれば、子ども一人一人の道徳性を養うことにつながるかをみんなで考えてみましょう。



(令和 5 年度版)

【実践編】

令和6年度道德教育推進校報告



県北地区道徳教育推進校「本宮市立本宮第二中学校」実施報告書

1 学校紹介



学校名	本宮第二中学校
所在地	本宮市荒井字団子森 2 8
校長名	佐藤 聡
教育目標	共生 立志 健康
学級及び児童生徒数	学 級 数 1 1 生 徒 数 3 2 3 名

2 研究テーマ

自分の生き方を深く見つめ直し、主体的に生きようとする生徒の育成
～多様な他者との関わりを通して～

3 研究テーマ設定の理由

本校は県北地区の南部に位置し、生徒は学区内 2 校の小学校から進学してくる。本校の生徒は、「共生 立志 健康」の学校目標と「花には水を、人には思いやりを、自分には高い志を」のスローガンの下、自分のもてる力を発揮するために努力を続けることができる。

本校では、生徒同士がお互いの意見に耳を傾けながら話し合い、協力し合って様々な活動に積極的に取り組んでいる。本校の強みである「他者との関わり」という部分を生かしていくために「多様な他者と関わる」ことを学びの方法として設定した。「多様な他者」とは、学級の仲間や先輩、後輩、教職員、保護者、地域の方等である。他者との関わりを通して自らの人間としての生き方について深く見つめ直し、主体的に生きようとする生徒の育成を目指したいと考え、本研究テーマを設定した。多様な他者との関わりの中から、本校生徒のよさである、頑張る仲間へ寄り添う姿や、互いに励まし合いながら協力して活動する姿、自分たちに向けられた地域の方の善意や支えに気付く、感謝の気持ちを深めていく姿を、今年度の重点内容項目である「思いやり、感謝」と結び付け価値付けることで、生徒のよりよく生きたいという意欲を高めていきたい。

4 研究計画

月日（曜日）	主な研究内容
4 月 2 日（火）	全体協議会
6 月 1 2 日（水）	校内道徳部会（※内容を回覧にて全教職員へ通知）
7 月 1 8 日（木）	第 1 回校内授業研究会（第 3 学年 三本木 駿 教諭） 指導助言 本宮市教育委員会 指導主事 坂本 浩一 様 指導助言 県北教育事務所 指導主事 甚野 美穂子
8 月 2 1 日（水）	指導案検討会
8 月 2 2 日（木）	指導案検討会
9 月 1 1 日（水）	第 2 回校内授業研究会（第 1 学年 渡邊 知弘 教諭） 講 師 秋 田 公 立 美 術 大 学 副 学 長 毛 内 嘉 威 様 指導助言 福島県教育庁義務教育課 指導主事 江花 洋介
9 月 3 0 日（月）	第 3 回校内授業研究会（第 2 学年 遠藤 恵 教諭） 指導助言 本 宮 市 教 育 委 員 会 指導主事 坂本 浩一 様
1 0 月 2 5 日（金）	講演会 講師 上越教育大学 教授 阿部 隆幸 様
1 1 月 2 7 日（水）	道徳教育地区別推進協議会（県北地区）3 学級授業公開 講演 講師 秋 田 公 立 美 術 大 学 副 学 長 毛 内 嘉 威 様 指導助言 福島県教育庁義務教育課 指導主事 江花 洋介

5 研究推進にあたって

【視点1】道徳教育の組織的取組について

① 道徳教育全体計画、別葉の充実と活用

〈全体計画、別葉の充実を目指した作成上の工夫点、配慮点〉

- 家庭や地域との連携を図り、生徒のよさを生かした道徳教育を推進することができるように、今年度、特に意識したい重点内容項目を「思いやり、感謝」と設定する。
- 別葉については、「思いやり、感謝」に焦点化を図り、各教科や家庭・地域とのつながりを関連付けて捉えられるようにする。

〈全体計画、別葉の活用上の工夫点、配慮点〉

- 別葉の作成にあたっては体験的な活動との関連を重視した。体験的な活動の中で見られた「思いやり、感謝」に関わる生徒の姿から内面を見取り、道徳科の授業に生かすことで、生徒一人一人の道徳的価値についての自覚を促すことができるようにする。

② 道徳教育推進教師を中心とした組織的取組

- 道徳教育推進教師が各学年の道徳科担当教員と連携して、ローテーション授業の予定表を作成及び改善することを通して、生徒の学習状況をより多面的・多角的に把握できるようにする。

③ 授業で活用する資料等の共有

- 学年毎に道徳科フォルダを作成し、授業で活用したワークシートや資料を全職員で共有できるようにする。

【視点2】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫

- ① 中心発問について考える場面では、深い学びにつながる生徒の考えを見取り、全体で共有してから問い返したり揺さぶったりすることで、ねらいとする道徳的価値について生徒一人一人の考えを深めることができるようにする。

- ② 振り返りの場面では、「心のものさし」を手掛かりに、ねらいとする道徳的価値についてこれまでの自分の体験や思いを想起しながら振り返ることで、自己を見つめることができるようにする。

【視点3】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

- ① ローテーション授業を行うにあたり、評価の視点と見取り方について確認する。
- ② 全学年共通の「学びの記録」を用い、生徒の学びを累積することで、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る。

【視点4】「ふくしま道徳教育資料集」等の活用について

① 地域との関連を図る

- 地域に直接関連する教材を取り上げることで、地域と東日本大震災に対する生徒の関心を高め、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

② 「ふくしま道徳教育資料集」の共有

- 「ふくしま道徳教育資料集」のPDFファイルをタブレットの学習支援ソフトで配信し、生徒自身が授業以外の場でも積極的に活用できるようにする。

【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について

- ① コミュニティスクールの協力を得ながら地域のゲストティーチャーをリストアップし、積極的に招聘することで、地域と連携した道徳教育を推進する。
- ② 生徒の「学びの記録」を保護者と共有し、学習内容について家庭でも話題にしてもらうことで、家庭と連携して道徳教育を推進できるようにする。
- ③ 授業参観で、道徳科の授業を実施する。

6 「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

学校で推進している道徳教育の取組について保護者や地域の方と共通理解を図り、連携することで、道徳教育の充実に資する。

【概要】

学校から情報を発信したり、保護者や地域の方に授業に参加していただいたりすることで、多様な他者と関わり合いながら生徒に道徳性を育むことができるようにした。

【成果と課題】

- 保護者や地域の方に道徳科の授業に参加していただく機会を設定したことで、生徒が道徳的価値をより自分事として捉え、多様な思いや考えに触れながら学びを深めることができた。
- 全ての学級において生徒の「学びの記録」を保護者と共有し、連携しながら授業を進めてきたことで、家庭と連携した道徳教育の推進体制が構築されてきた。
- 家庭・地域とのつながりを明記した別葉を生かしながら、ゲストティーチャーの活用や保護者との連携を計画的に位置付けていく必要がある。また、連携の在り方について検討していきたい。



〈保護者の思いに触れる姿〉

〈ワークシート〉

7 成果と課題

- 本校生徒のよさを生かしながら「思いやり、感謝」を重点内容項目として学校教育全体で行う道徳教育を推進してきた。生徒が相手を思いやる姿は、学校生活の中で多く見られるため、全教職員でその都度価値付けたり、道徳科の授業で行為を裏付ける思いを考えたりしたことで、思いやりや感謝の気持ちが広がっていると感じる。
- 道徳科の授業で、学習した道徳的価値についてこれまでの自分を振り返る学習活動を位置付けてきた。その中で、生徒が自分や友達のよさに気付いたり、これからの自分の生き方に課題を見つけたりする姿が見られた。
- 全学年共通の「学びの記録」を使うことで、生徒の振り返りや学びの様子を学年の教員と共有することができた。同じ内容項目や関連する内容項目を扱うときに、学びの記録に書かれた振り返りや生徒の姿を取り上げたり、意図的指名に生かしたりすることで、生徒がより自分事として考える姿が見られた。
- 全教師の共通理解の下、生徒の変容を複数の目で見取ることができるとような体制を構築できるように、ローテーション授業の予定表を改善していく必要がある。
- 今後も、教育活動全体で行う道徳教育と要である道徳科を関連させながら、生徒のよさを見取り、価値付けたり学校や学級全体で思いを共有したりするなどして励ましていきたい。

令和6年度 道徳教育全体計画

日本国憲法・教育基本法 学校教育法・学習指導要領・いじめ防止対策推進法・福島県／本宮市教育委員会指導の重点		学校の教育目標 ○ 共生 思いやりと感謝の心 ○ 立志 学び続ける強い意志と実践 ○ 健康 たくましい心身の鍛練		・時代や社会の要請 ・生徒の実態 ・保護者や地域のねがい ・教師のねがい	
特別活動		道徳教育の目標 よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。		各教科 ○ 指導内容・方法の改善、充実を図り、生徒一人一人の感じ方、考える力の育成に努める。 ○ 生徒一人一人の個性や能力に応じた指導の展開に努めるとともに相互に協力し合い、励まし合う学習態度の育成に努める。 ○ 各教科の指導内容、教材等で、道徳教育に深くかかわるものを通して、道徳性を養う。 ○ 見学、実験、観察などの学習方法やペア及びグループ学習など、学習形態の工夫を通して道徳性を養う。 ○ 指導する教師の行動や態度を通して、望ましい人間関係のあり方を感化していく。 ○ ふくしま道徳教育資料集の活用を通して、たくましく生きる力を育む。	
学級活動	学級や学校の生活の充実と向上に努め、日常生活や学習への適応及び健康や安全に関する基本的な態度を育てる。	道徳教育の重点目標 A 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつ生徒の育成 B 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深める生徒の育成 C 勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献する生徒の育成 D 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見出す生徒の育成			
生徒会活動	学校生活向上のための諸問題を話し合い、自主的・実践的に解決し、生徒相互の連帯意識を育てる。	各学年の重点目標			
学校行事	具体的実践の場である学校行事に積極的に参加し、集団への所属感を深め、豊かな体験を通して自主的・実践的の態度を育てるとともに、内面に根ざした道徳性を育てる。	1 学年		2 学年	
		3 学年			
生徒指導		学級経営		総合的な学習の時間	
校内 挨拶・言葉遣い等の基本的生活習慣を身に付け、楽しい学校生活を送る態度を育てるとともに、教育相談との関連を図る。 校外 家庭、地域との連携をとりながら道徳実践の深化、拡大を図る。		一人一人を大切にする学級集団づくりをめざし、人間尊重の精神を深める。 心の交流を図り、互いに認め合う関係づくりに努める。		生徒自らが課題を見つけ、よりよい生き方や、より積極的な生き方を求めつつ、人間としての生き方についての自覚を深めていく態度を育てる。	
特別の教科 道徳		豊かな体験活動		家庭・地域等との連携	
○ 生徒一人一人の実態を把握し、個に応じた指導法の展開を工夫し、道徳的判断力を高める。また、その様子を評価として家庭に知らせることができるように記録を蓄積する。 ○ 豊かな体験活動を通して、自分の生き方を深く見つめさせ、道徳の実践意欲と態度を育てる。 ○ 他の教育活動との関連を考え、道徳的なものの見方・考え方、感じ方を育てる。		○ 基本的生活習慣を重視する。 ・ 挨拶、返事、言葉、整理整頓、服装 ○ 人とのふれあいを深める。 ・ 奉仕体験活動（ボランティア活動、職業体験活動等）、生徒会活動、部活動、学校行事等を通して、思いやり、感謝、友情、愛校心、自立、礼儀などの道徳性を養う。 ○ 自然とのふれあいを深める。 ・ 美化作業、緑化作業などの活動を通して環境保全、自然愛護等の道徳性を育てる。 ○ 生徒相互の信頼関係を深める。 ・ 特別活動や部活動などの教育活動を通して、自主性、協調性を育てる。		○ 学校、家庭、地域三者の相互理解を深め、交流を密にし、協力体制を整える。 ・ 学校公開日、授業参観、保護者会 ・ 学校便り、PTA広報の作成・発行 ・ 地域行事への積極的な参加 ・ 授業参観で道徳科の授業を公開 ・ 学び（ワークシート）の共有	
教育環境の整備		国際理解教育			
物 落ち着いた生活環境、正しい言語・掲示環境を通して潤いのある生活態度を育てる。 （植え込みや鉢植え、プランターの美化、各教室環境の充実、図書館の整備と充実、タブレットの活用） 人 学級経営を基盤とし、同学年や異学年との交流を通して、人間関係を深め、互いに信頼し協力し合う態度を育てる。		○ 世界平和の認識を深め、基本的人権を尊重する態度を育てる。 ・ 国際交流			
特色ある学校づくりを目指す県北の教育					
うつくしま豊かな心成長支援事業					

目指す子どもの姿

自分の生き方を深く見つめ直し、主体的に生きようとする子ども

教科等

道徳科

家庭・地域とのつながり

2

すすめる

4月 行事 [新入生歓迎会]

- 「新入生」という立場に配慮し、楽しんでもらえるように考える。

6月 [中体連壮行会]

- 選手に対して励ましの言葉をかける。

6月 行事 [中体連支部大会]

- 部活動を支える人たちへの感謝の気持ちをもって大会に参加する。

9月 行事 [中体連新人戦大会]

- 部活動を支える人たちへの感謝の気持ちをもって大会に参加する。

11月 特別活動 「思いやりの心を届けよう」

- 困っている人のために、自分たちができることを考える。

1月 家庭科 「持続可能な住生活を目指して」

- 快適に長く住めるようにするために、環境に配慮した生活について考える。

3月 行事 [3年生を送る会]

- 卒業を迎える3年生に感謝の気持ちをもって準備や運営を行う。

7月 主題名「支え合いの中で」 教材名「愛」

[ねらい]

健おじさんの姉の命を大切に思う気持ちや深い愛情について考えることを通して、思いやりの根底には人間尊重の精神があることを理解し、ともに助け合い、協力し合って生きていこうとする心情を育てる。

[振り返り]

5月 行事 [親子奉仕作業]

- 校庭を使う人のことを考えて校庭の除草をする。

7月 総合的な学習の時間 単元名「職場体験」

- 働く体験をさせてもらった感謝を手紙に表して渡す。

9月 行事 [親子奉仕作業]

- 校舎に対する感謝の気持ちをもって清掃を行う。

10月 行事 [風の丘祭]

- お互いを思いやりながら声を掛け合い、合唱祭の成功を目指す。

11月 主題名「気持ちをこめて」 教材名「心に寄りそう」

[ねらい]

患者さんの優しさに触れた主人公の思いを考えることを通して、「心に寄りそう」ことのよさに気づき、思いやりの心をもって人と接しようとする心情を育てる。

[振り返り]

[学年全体の振り返り]

【資料】

○ 学年によるローテーション授業

16	12	宝塚方面行きー西宮北口駅	佐原 10/1	9月④	11-2	恵	11-3	担任小針	10	昇平
17	13-1	白ご飯を目指してー萩野公介	發智 10/9	10月①	11-1	賢章	13	發智	付4	小針
18	13-2	不安な気持ちを整えてみよう	10/11/14	10月②	11-3	担任恵	12	佐原	11-3	担任賢章
19	14	ゴール	小針 10/23	10月③	17	五十嵐	14	小針	15	恵
20	15	四十七年に感謝を込めて	恵 10/30	11月①	27	小針	16	賢章	17	五十嵐
21	16	「注文をまちがえる料理店」	賢章 11/6	11月②	16	賢章	15	恵	14	小針
22	17	六千人の命のピザ	五十嵐 11/13	11月③	19	恵	8	小針	28	賢章
23	18	冬の使者「マガン」	佐原 11/20	11月④	22-2	五十嵐	19	恵	27	小針
24	19	今度は私の番だ	恵 11/27	12月①	28	賢章	27	小針	19	恵
25	20	渡良瀬川の鉈毒	恵 12/4	12月②	18	佐原	22-2	五十嵐	25	發智
26	21	夜は人間以外のものの時間	賢章 12/11	12月③	8	小針	28	賢章	18	佐原
27	22-1	自分を信じて生きるとは……	担任 12/18	1月①	25	發智	18	佐原	22-2	五十嵐
28	22-2	本当の私	五十嵐 1/8	1月②	22-1	担任	22-1	担任	22-1	担任
29	23-1	我、ここに生きる	担任 1/15	1月③	14	小針	25	發智	20	恵
30	23-2	「小説家の夢」から「作家の夢」にメッセージを伝えよう	// 1/22	2月①	26	佐原	20	恵	8	小針
31	24	左手でつかんだ音楽	發智 1/29	2月②	20	恵	付3	五十嵐	24	發智
32	25	普通パフォーマンスの挑戦	發智 2/5	2月③	21	賢章	24	發智	付3	五十嵐
33	26	赤土の中の真実	佐原 2/19	2月④	付3	五十嵐	26	佐原	21	賢章
34	27	心に寄りそう	小針 2/26	3月①	24	發智	21	賢章	26	佐原
35	28	「いいね」のために?	賢章 3/5	3月①	23-1,2	担任	23-1,2	担任	23-1,2	担任
36	付1	金語楼さんのこと		予備	付1		付1		付1	
37	付2	田老の生徒が伝えたもの		予備	付2		付2		付2	
38	付3	宇宙人	五十嵐	予備	付3		付3		付3	
39	付4	書かれなかった遺書	小針	予備	付4		付4		付4	

ローテーション授業を行うにあたり、学年の道徳科担当教員が予定表を作成し、学年間で共通理解を図りながら道徳科の授業を進めている。

ローテーション授業を実施することで、担任が自分の学級の道徳科の授業を参観することが可能となり、生徒の新たな一面を発見することができた。また、指導のポイントを共有したり評価について共通認識をもったりして、生徒の変容を複数の教員で見取ることができるというよさも実感している。

○ 全学年共通の「学びの記録」

教材番号	教材名	内容項目	今日の道徳も振り返って学びを付ける	学習日	私の気づき
9	花火と灯ろう流し	C(17)我が国の伝統と文化の尊重	1 2 ③ 4	11/2	授業をして、花火の意味について知れたし、祭りなどの行事はこれからも残していくべきなのではないかと思いました。これから春祭にも行事が残り続けていってほしいなと思いました。
10	早朝ドリブル	A(2)節度、節制	1 2 ③ 4	6/11	授業をして、毎日だらけなくて、自分ですぐに決めたことをしっかりやて、一日一日大切に過ごしていけると思いました。そして、明日やうまいき業は頑張りたいなと思いました。
11	ハッチを開けて、知らない世界へ	D(21)感動、畏敬の念	1 2 ③ 4	10/2	授業をして、野口さんが宇宙に行きたいという気持ちで、宇宙に行ったとき見た地球がとても輝いて見えて、地球が美しいことも感じる事ができたことについて学ぶことができました。
12-1	生まれてきてくれて、ありがとうー助産師からのメッセージ	D(19)生命の尊さ	1 2 3 ④	7/17	授業をして自分だけでなく人の命に支えられて今まで生きてこれたので感謝の気持ちを忘れず生きていきたいと思いました。赤ちゃんが生まれる瞬間にどれだけうれしい気持ちになるんだと思います。
12-2	くちびる	D(19)生	1 2		

	1学期 保護者印	2学期 保護者印
私の気づき		

学期ごとに保護者に見てもらって押印する部分がある。

生徒が、授業で学習した道徳的価値について、これまでの自分の生活を想起しながら考える振り返りと区別して、本時の授業全体を振り返る「学びの記録」を累積している。

メリットとして、以下の3点が挙げられる

- ① 生徒の振り返りや学びの様子を学年の教員と共有することができる。また、「学びの記録」から見取った生徒の考えを、同じ内容項目や関連する内容項目を扱う自分の道徳科の授業に生かすことができる。
- ② 生徒自身が自分の学びを振り返ることができる。
- ③ 保護者にも見てもらうことで、家庭と連携して道徳教育を推進することにつながる。

県中地区道徳教育推進校「福島県立湖南高等学校」実施報告書

1 学校紹介



学 校 名	福島県立湖南高等学校
所 在 地	郡山市湖南町福良字車ノ上8453-1
学 校 長	野口 智行
教 育 目 標	生徒一人ひとりを真に大切に、人間性の育成や能力の伸長と、地域から信頼され愛される学校づくりを目指します。
学級及び生徒数	学級数 3 生徒数 59名

2 研究テーマ

地域と共に育む生徒の心 ～「自己肯定感」「主体性」「社会性」「郷土愛」～

3 研究テーマ設定の理由

本校は平成30年度から1学級本校化となり、現在、全学年1クラスの小規模校である。令和2年度にコミュニティ・スクール（以下、CSと略）の指定を受け、新体制への移行を進め、地域有志や保護者と共に、地域課題解決学習に取り組んでいる。

CSへの移行を受け、「過去の自分にとらわれず、新たな自分を発見し成長させる力を持つ生徒」「夢の実現に向け、何をすべきか自ら考え、判断し、決してあきらめることなく行動できる生徒」「人間としての優しさや思いやりを持ち、常に他人に気配りができる生徒」「湖南に関心を持ち、積極的に関わり行動することができる生徒」をグラデュエーション・ポリシーに掲げ、教育活動に取り組んでいる。

本校に入学する生徒には、人と関わったり、大人数で学習に取り組んだりすることに苦手意識をもっている生徒が多い。そのため、本校入学後、いかに生徒の自己肯定感を培い、学びに向かう主体性を養うかが本校の課題となっている。その課題解決のために、生徒が主体性を発揮できる環境を作ること、学校が生徒の居場所となること、その基盤となる生徒一人一人の心の育成が必要である。そこで、本校の特色であり、強みでもある地域課題解決の取組を通し、対人関係や礼儀、他者への共感や配慮する力など道徳の基盤となる素養を身に付けるために、現行での取組の精選と体系化、継承の仕組み等を見直していく必要があると考える。

以上のことから、これまでの成果を振り返り総括しつつ、探究活動を軸とした取組の効果や持続性等の精度を高めながら、本校生徒の心の育成にどのように寄与できるかを考察するため、本テーマを設定した。

4 研究計画

月 日 (曜日)	主な研究内容	備考
5月 9日 (木)	道徳教育全体計画の教職員への提示と共有	(1)互見授業 6月及び11月に互見授業週間を設定
5月28日 (火)	米粉プロジェクト：田植え(44名参加)*城北埼玉高校47名との協働作業	
7月 9日 (火)	校内研修1 講師：郡山人権擁護委員協議会 桑名佐奈恵様・渡邊良子様	
7月11日 (木)	校内研修2 講師：秋田公立美術大学 毛内 嘉威様	
8月 2日 (金)	蕎麦プロジェクト(種蒔き)全校参加 校内研修3 指導案検討会	
8月23日 (金)	校内研修4 指導案検討会	
8月30日 (金)	「モラル・エッセイ」コンテストへの参加	
9月 2日 (月)	湖岸清掃【湖南小中学校共同活動】※台風第10号の影響により中止	
9月13日 (金)	校内研修5 指導案検討会	
9月24日 (火)	先進校視察(広島県立瀬戸田高等学校)	
9月30日 (月)	校内研修6 授業研究会 授業者：森 修 教諭「公共」2学年 指導助言者 県中教育事務所 指導主事 安齋栄理子 渡邊卓也	(2)毎週5・6校時「総合的な探究の時間」
10月17日 (木)	校内研修7 授業研究会 授業者：半澤拓真「ロングホームルーム」 (ふくしま道徳教育資料集の活用) 3学年 指導助言者 福島県教育庁義務教育課 指導主事 江花洋介	
10月25日 (金)	蕎麦・米粉プロジェクト(収穫)全校参加*城北埼玉高校47名との協働作業	
10月31日 (木)	道徳教育地区別推進協議会 1・2・3学年授業公開「総合的な探究の時間」 講演 講師：秋田公立美術大学 毛内 嘉威様	
11月 3日 (日)	湖南町文化祭・商工祭への参加	
11月21日 (木)	道徳教育校内研修(研修成果の全体共有)・・・定例会	
12月17日 (火)	蕎麦プロジェクト(蕎麦打ち)全校参加	
2月 4日 (火)	除雪ボランティア(42名参加)	
2月 7日 (金)	雪灯籠まつり実施(地域交流) 全校参加*城北埼玉高校50名との協働作業	

5 研究推進にあたって

【視点1】道徳教育の組織的取組について

① 道徳教育全体計画の充実と活用

＜全体計画の充実を目指した作成上の工夫点・配慮点＞

- ・ 本校生徒の実態や課題を踏まえ、学校運営ビジョンで示された「めざす生徒像」の実現に向けて全体計画を作成する。
- ・ カリキュラム・マネジメントの観点から、各教科、総合的な探究の時間、特別活動、学校行事等を系統立てることで、生徒に他者と協働し主体的に物事に取り組む態度を育む。

＜全体計画の活用上の工夫点・留意点＞

- ・ 職員会議で「道徳教育全体計画」の内容を共有すると共に、それぞれの目標を達成できるよう計画的に授業を行う。
- ・ ルーブリックを活用することで、生徒が自ら振り返り、成長するための学習活動に位置付けたり、生徒の主体性と意欲を引き出したりすることができるようにする。

② 道徳教育推進教師を中心とした組織的取組

- ・ 道徳教育が全ての教科、特別活動、学校行事等において関連することを全職員に周知することで、組織として道徳教育に取り組む体制を構築する。

③ 組織的取組の具体策：地域カダイ探究

- ・ 1年生の総合的な探究の時間に「地域カダイ探究」を位置付ける（1年生6月まで）。CSの特性をいかし、生徒が地域において、地域の人と共に歩み、地域の課題について考えることで、他者と関わる力やよりよい社会を構想する力を身に付ける。

【視点2】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳教育の工夫

① 地域での学びの充実化

- ・ 学校の教育活動の様々な場面において社会性を向上させる取組を進めるため、地域の方や外部の指導者に講師として入っていただき、地域と共に地域課題解決に取り組む活動を可能な限り多く計画する。

② グループ活動の充実と学びを深めるためのPDCAサイクルの確立

- ・ グループ活動等の対話する学習活動を位置付けることで、生徒が多様な見方や考え方に触れ、物事を多角的にとらえる視点を培う。
- ・ 実施した学習活動に対し、ルーブリックを活用して自己評価を行い自己の到達点、他者との協働状況、学習の課題について内省する機会を設ける。

【視点3】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

① 自己肯定感を高めるための評価の工夫

- ・ 習熟度別授業や放課後補習を実施し、義務教育段階でつまづき習得できなかった基礎的な学習内容の学び直しを行う。これらの取組を通し、自己の基礎学力の向上をはじめ、生徒相互の「学び合い」に取り組むことで、生徒が互いに認め合うとともに、自己肯定感を高め主体的に学習に向かう態度を養う。

② ルーブリック評価の活用

- ・ 総合的な探究の時間や学校行事等での学習活動後にルーブリックを活用した自己評価を行う。その結果について、年2回実施する面接週間を活用し、フィードバックを行い生徒自身が自己実現や他者との関わり方について思索する機会を設定する。

【視点4】「ふくしま道徳教育資料集」等の活用について

① ふくしま道徳教育資料集を活用することで、生徒の自己肯定感を育み、人とのつながりの大切さや命の尊さについて考える機会とする。

② ロングホームルーム活動の時間に教材として活用し、自らが育った地域に対する愛情を育み、福島県民として地域のためにどのような貢献ができるかを考える機会とする。

③ 朝学習の時間にテキストとして活用することで、震災を経験した県内の各地域で復興に尽力する人々の生の声を理解し、この学習での記憶を将来に継承する機会とする。

【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について

① 地域の大自然や四季折々の風土や風習、食をはじめとした伝統文化、農業を中心とした産業など幅広い地域資源を、各教科や学校行事等で活用するとともに、地域人材をゲストティーチャーとして招聘することにより、生徒自身が地域社会の一員としての自覚を持ち、生徒に郷土愛を育み、将来にわたり道徳的判断力を養う取組とする。

② 「モラル・エッセイ」コンテストへの参加を通して、社会の中で他者と共に生きる意味について考え、自己を見つめ直し、自己の課題を再確認するとともに、自己の考えを自分の言葉で表現する主体性を養う取組を進める。

【ねらい】

- ## 【概要】

- ## 【成果と課題】

- 〔蕎麦の収穫後の集合写真〕

〔各教科にKDGsを取入れた年間指導計画〕

令和6年度 道徳教育全体計画

福島県立湖南高等学校 全日制の課程 普通科

グラデュエーション・ポリシー

- (1) 過去の自分にとらわれず、新たな自分を発見し成長させる力を持つ生徒（自己肯定感を育む）
- (2) 夢の実現に向け、何をすべきか自ら考え、判断し、決してあきらめることなく行動できる生徒（主体性を育む）
- (3) 人間としての優しさや思いやりを持ち、常に他人に気配りができる生徒（社会性を育む）
- (4) 湖南に関心を持ち、積極的に関わり行動することができる生徒（郷土愛を育む）

【生徒の実態】郡山市街地からの通学生が8割を超え、学力面・生活面において多様化が進んでいる。読み・書き・計算等の基本的な能力や、思考力・判断力・表現力等を始め、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等の点で、その育成が課題となっている。

【学校・地域の実態】本校は、中核市である郡山市西部の丘陵地域・湖南町に立地し、豊かな自然に囲まれている。湖南町は郡山市の約20%の面積を占めるが、人口は約1.4%弱と、過疎化が進んでいる。古くからこの地に住んでいる人が多く、地域の教育力が存在する。

【重点目標(基本方針)】

- (1) 規範意識を身につけた社会人として生活していくために自律心の涵養を図る。
- (2) 地域社会の一員としての自覚をもち、勤労や奉仕の精神をもって郷土の発展に努め、人間としてより良い生き方や好ましい在り方を恒久的に模索しようとする意欲を喚起する。
- (3) 「友情」をはぐくみ、他者に対する思いやりの心をもった集団のより良い形成者としての資質の伸長を図る。

【各教科・科目との関連】学習指導要領には、すべての教科・科目において、道徳教育「人間としての在り方生き方に関する教育」の基盤となる目標が掲げられており、授業を通じ、それぞれの目標及び特質を十分に考慮し、その所期の目的が達成できるようにする。

国語科	論理的に意見を述べたり、目的や場面などに応じて表現したりすることによって、主体性や想像力を育てる。また、目的に応じて的確に他者の意を読み取り、お互いの立場や考えを尊重することによって、豊かな心の育成を図る。
地歴科	歴史上の人物の生き方を手がかりに、自己の課題と結びつけ、生き方について熟考し、自己の理想に向かって努力しようとする意欲と態度を養う。また、文化や伝統を大切に、郷土や国を愛する豊かな心、自然を守り豊かな環境を後世に伝えていく使命感を育む。
公民科	公民たる資質の涵養に努めることで、自らが社会を形成する有為な存在であることの自覚と責任を喚起し、共同体の在り方を深く考え、他者との共生・協働の生き方を育てる。
数学科	身近な事象を数学的に考察し、処理するとともに、論理的思考能力、想像力及び直感力などの創造性の基礎を育成することにより、より良い人間関係を構築し、自己の在り方を自ら追い求めていく姿勢を養う。
理科	身近な自然現象と科学文明の成り立ちを理解することを通して、生命を尊重する態度を養う。また、人類と他の生物種との共存を目指し、地球環境の保全とエネルギー資源の有効活用的重要性を学ぶ。
英語科	外国語を通して、異なる言語や文化に対する理解を深め、寛容の精神、他を尊重する態度を育む。
保体科	健康・安全・運動についての理解と実践を通して、自らの生涯にわたる健康を保持・改善していく資質や能力、実践力を育む。
音楽科	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、豊かな情操を養う。
家庭科	人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義について理解させるとともに、男女が協力して家庭生活や地域との関係を創造する能力と「よりよく生きる」ための実践的な態度を育てる。
情報科	昨今の情報化社会の中で、「情報」に対する考え方を深め、情報収集能力、情報加工・活用能力などを高めるとともに、ネット社会におけるモラルやマナーを身につけることで、情報化社会の生き方について、考える力を培う。

【総合的な探究の時間との関連】次の体験的な活動を通して「郷土を愛する心」や「奉仕の精神」、更に、2年次にはインターンシップを実施し、働くことの意義や健全な「勤労の精神」の涵養に努める。

- ① 湖岸清掃 ② 花壇整備 ③ インターンシップ ④ 除雪ボランティア ⑤ 雪灯籠祭り

【特別活動との関連】次の講話や体験を通して「規範意識」の定着及び深化を図る。また、生徒会行事を通して「友情」を育み「集団のより良い形成者としての個の在り方」に対する意識を涵養する。

- ① 交通安全教室 ② 薬物乱用防止教室 ③ 体育祭 ④ 春・秋・冬の遠足 ⑤ 菱の実祭（実施年度）

【LHRとの連携】友情の大切さや他者に対する思いやりの心など今後の社会生活を営む際に求められる好ましい人間としての資質の伸長を図り、それぞれの発達段階で遭遇することが予測される解決すべき課題を計画的に設定し、3年間を通して全人格的な人間性の陶冶を目指す。

【家庭・地域等との連携】各家庭への文書配付、PTA組織との協力や保護者会の開催等を通して、各家庭や各地域との連携を図り、道徳教育の目的が達せられるようにする。また、学校ホームページを積極的に活用し、家庭・地域への効果的な情報発信を行う。

【生徒指導等における関連】日々の様々な教育活動を通して、生徒理解に努めるとともに、その発達段階に相応しい生徒指導を行い、生徒が人間としての在り方生き方を主体的に考察する手助けをし、規範意識を育て、その基本となる道徳性を養うことで、社会の一員としての自覚を促す。

【学習の評価】数値的な評価は行わず、活動や学習の過程に見られる学習の状況や成果について記載する。

県南地区道徳教育推進校「白河市立東北中学校」実施報告書

1 学校紹介



学校名	白河市立東北中学校
所在地	白河市泉田南之内 1
校長名	邊見 浩
教育目標	自信と誇りをもち自立に向かう生徒
学級及び児童生徒数	学 級 数 6 生 徒 数 1 1 5 名

2 研究テーマ

互いに認め合い、よりよく生きようとする生徒の育成
～自己を見つめ、他者との関わりを通じて、考えを深める道徳教育を通して～

3 研究テーマ設定の理由

本校は白河市北部に位置する農村地域であり、都市部に比べ穏やかな雰囲気がある。本学区の地域では福島県の重要無形民俗文化財に指定されている「安珍歌念仏踊り」が有名で、踊りを通して地域の方々と深い交流があったり、年 2 回の地域の清掃活動にも意欲的に取り組んだりなど、郷土に高い関心をもっている。本校の生徒は学区内 2 つの小学校から入学してくる。学校生活では素直で、何事にも真面目に取り組むことができる良さがある。一方で、積極性や周囲への配慮、協調性等にかかわる問題が見られ、限られた人間関係での生活に起因する課題と受け止められる。

そこで、今までの自分の考えや価値観を見つめ直し、他者と関わりをもつ機会を意図的に設け、認め合うことの重要性を理解させるために、本テーマを設定した。生徒一人ひとりが自分の考えをもって相手に伝える、そして相手の話を聴いて自分の考えを深めることで他者との関わりを深められるようにしていきたい。授業だけでなく、教育活動全体を通して、互いを認め合える関係性を構築し、より充実した学校生活を送れるように取り組んでいく。

4 研究計画

月 日（曜日）	主な研究内容	備 考
5 月 1 日（水）	第 1 回校内研修全体協議会	研修委員会を毎週金曜日に行う。
6 月 4 日（火）	道徳教育推進協議会	
6 月 2 4 日（月）	第 1 回校内授業研究会（3 年 深澤 涼耶 教諭） 講師 秋田公立美術大学副学長 毛内 嘉威 様	学期に 1 回、互見授業を実施する。
6 月 2 6 日（水）	道徳科授業充実パワーアップ第 1 回研修会	
6 月下旬	第 1 回ローテーション道徳	
7 月 1 2 日（金）	PTA 教育講演会	
9 月 2 日（月）	ゲストティーチャーによる講演会 講師 フリーアナウンサー 大和田 新 様	
9 月 1 8 日（水）	道徳科授業充実パワーアップ第 2 回研修会	
9 月 2 4 日（火）	第 2 回校内授業研究会（2 年 佐久間 理奈 教諭） 指導助言 白河市教育委員会指導主事 益子 朗 様 県教育庁義務教育課指導主事 江花 洋介 県南教育事務所指導主事 松本 聡二	
1 0 月 2 2 日（火）	第 3 回校内授業研究会（1 年 柴崎 仁志 教諭） 指導助言 白河市教育委員会指導主事 益子 朗 様 県教育庁義務教育課指導主事 江花 洋介 県南教育事務所指導主事 松本 聡二	
1 0 月 2 5 日（金）	先進校視察 新潟大学附属新潟中学校	
1 1 月 2 9 日（金）	道徳教育地区別推進協議会 講師 秋田公立美術大学副学長 毛内 嘉威 様	
1 2 月 1 0 日（火）	ゲストティーチャーによる講演会 講師 久保木 豊店 社長 久保木 史朗 様	
1 月中旬	第 2 回ローテーション道徳	
1 月 2 9 日（水）	第 2 回校内研修全体協議会（研究のまとめ）	

5 研究推進にあたって

【視点1】道徳教育の組織的取組について
①道徳教育全体計画、別葉の充実と活用 〈全体計画、別葉の充実を目指した作成上の工夫点、配慮点〉 ○ 生徒や地域の実態、保護者・教師の願いを受け止めた道徳教育全体計画を作成する。重点目標を達成するために、指導の重点を明確にし、各教科や特別活動等で生徒が意欲的に取り組めるように配慮する。 ○ 別葉の作成は、道徳教育と各教科等との関連が明確になるように位置づける。 〈全体計画、別葉の活用上の工夫点、配慮点〉 ○ 教育計画や別葉の拡大版を職員室に掲示し、全職員でいつでも確認できるようにする。 ②道徳教育推進教師を中心とした組織的取組 ○ 道徳教育推進教師がローテーション道徳や互見授業を提案し、管理職や学年教師を含めて教職員全員で授業を実践する。 ○ 校外で行われる研修会に参加し、得られた情報を全職員で共有し、授業の改善や指導力の向上に生かす。 ③組織的取組の具体策 ○ 研修委員会や放課後の時間を活用して、道徳の授業検討会を行う。 ○ 道徳教育や道徳科に関する書籍を購入し、授業づくりの一助とする。 ○ 全職員と生徒のリーダーを集めて議論する「生き生き協議会」で道徳教育に関する議題を提案し、話し合う。 ○ 校長の指導の下、自分の考えを伝え、相手の考えを聴くことを目的とした「書く活動」の充実を図る。
【視点2】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫
①自己を見つめるための工夫 ○ 導入で生徒の興味・関心を高めるような発問や調査結果を提示し、自分事として捉えられるようにする。 ○ 授業開始時の自分や相手の考えを聴いて自分の価値を振り返ることができる。 ②他者の考えに触れさせる活動の工夫 ○ 目的に合った学習形態を工夫し、自分の考えを相手に伝える、相手の考えを聴く活動の在り方を意識して、話し合いのコーディネートを工夫する。 ③考えを深めるための発問の工夫 ○ 問題意識や疑問をもたせる発問をすることで自分事として自らの生き方についての考えを深めることができるようにする。 ○ 生徒の多様な考えに触れられるよう発問を精選する。 ○ 生徒の考えをつなぎ、多面的・多角的な見方につなげることができるようにする。
【視点3】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について
○ 学年単位で生徒一人ひとりの成長を見取り、共有し、適切に評価できるようにするために学年会などを通して、共通理解を図る機会を設ける。 ○ 授業の振り返りを累積することで、内面的な変容を見取れることができるようにする。変容が見られた生徒に対して、学びや成長を認め、励ますようなコメントを書く。
【視点4】「ふくしま道徳教育資料集」等の活用について
①年間指導計画の位置づけ ○ 各学年で「ふくしま道徳教育資料集」の教材を年間で1回位置づけて実践する。 ②防災教育との関連 ○ 防災教育を中心とした各種教育活動と関連させながら、活用していく。 ○ ゲストティーチャーを招いた講演会を設定する。
【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について
○ 学校だよりやホームページ等で道徳の授業の様子や取組を発信する。 ○ 授業参観において、全学級で道徳の授業を設定する。 ○ 学校運営協議会委員との意見交流会や道徳の授業参観等を設定する。

6 「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

家庭・地域とのつながりを通して、地域のために活躍できる生徒を育成するとともに、地域に貢献していきたいと思う道徳性の育成を図る。

【概要】

- ・ 授業参観で保護者にも参加してもらう道徳科の授業を実施した。学校だよりやホームページ等で道徳科の授業の様子を発信し、学校と家庭・地域のつながりを深めていく。
- ・ 小中連携ボランティア活動において、地域の方にも参加してもらい、一緒にゴミ拾い活動を実施することで、地域との関わりを意図的に設けた。
- ・ 学校運営協議会や地域の代表、学校のリーダーが地域貢献の視点で話し合う場を設定した。まとまった意見の中から1つずつ実践につなげる。

【成果と課題】

- 今までのボランティア活動は校内での縦割り活動が主となっていたが、小学生、地域の方と一緒に活動することで、意欲的に取り組む姿が見られた。
- 地域の方と意見交換会を実施することで、地域の方が日頃から見守っていることを改めて実感し、地域のために何かできることはないのか真剣に考えることができた。その後の生き生き協議会では要望としてあげられた「あいさつの活性化」と「安全な自転車の乗り方」について協議を進めた。
- 学校だよりやホームページ等で道徳科の授業の様子を発信することができたが、今後さらに情報を発信していく方法を模索していきたい。



＜授業参観の様子＞



＜ボランティア活動の様子＞



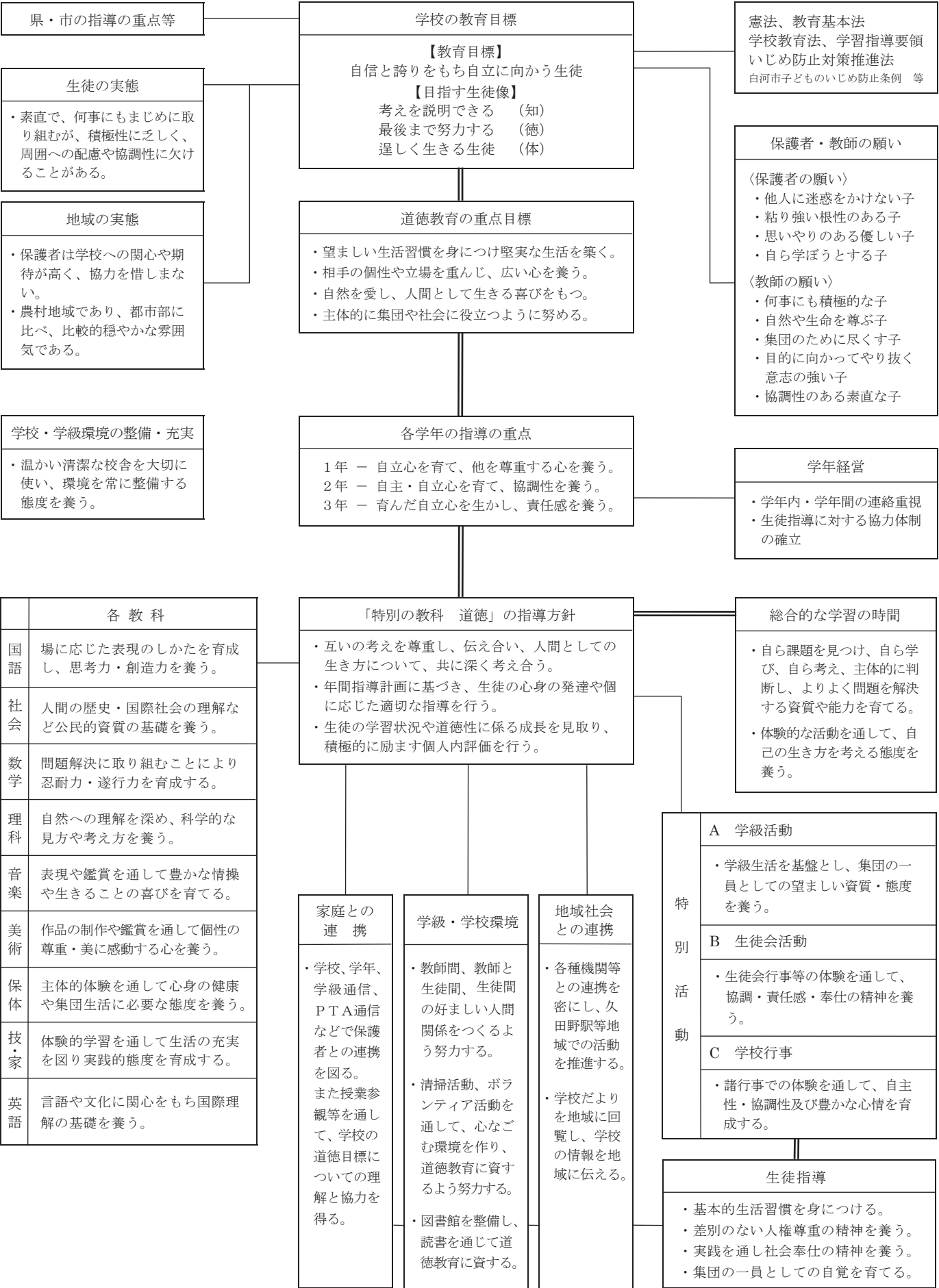
＜意見交換会の様子＞

7 成果と課題

- ローテーション道徳を実施したことで、他の教師の指導方法を学ぶことができた。また、違った視点で教師と生徒の対話、生徒同士の対話をじっくり見ることができ、生徒の新たな一面にも気づくことができた。同じ教材を複数の学級で実施することで、授業改善がしやすくなった。
- ICTの効果的な活用方法を考えたことで、導入や展開での時間短縮につながり、自分の考えを書く時間を多く設けることができた。また、発問を電子黒板に提示することで生徒が何について考えればよいのかが明確になった。
- 書く活動の充実を図ったことで、自分の考えを抵抗なく書くことができるようになった。自分の考えをもつ、自分の考えを発表する、相手の考えを聴くことをこれからの授業でも実践していきたい。
- 教師の問い返しやコーディネート の技量をあげていくことが大切であると感じた。予想される生徒の反応を予想し、発問を考えることができるのか、普段から学級の実態を把握しておく必要がある。
- 来年度の道徳教育全体計画にゲストティーチャー講演会や小中連携ボランティア等を組み込むためにも、会議で実践の反省をして時期や内容を検討していく必要がある。



＜ICTの活用＞



全体計画別業（各教科等との関連表） 第3学年

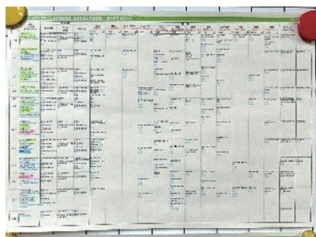
◎道徳教育の重点目標 ・暮らしの生活習慣を身につけ賢明な生活を築く。 ・自然を愛し、人間として生きる喜びをもつ。 ・相手の個性や立場を重んじ、広い心を養う。 ・主体的に集団や社会に役立つように努める。

内容 月	道徳 『中学道徳 あすを生きる3』	学級活動	生徒会 活動	特別活動	学校行事	国語 『国語3』 光村	書写	社会（歴史）	社会（公民）	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術	家庭	英語	総合的な 学習の時間	地域・家庭 との連携
							【中学書写】 光村	【新しい社会歴史】 東書	【新しい社会公民】 東書	【新しい数学3】 東書	【新しい科学3】 東書	【音楽2・3下/音楽】 東書	【美術2・3下/美術】 東書	【新しい保健体育】 東書	【新しい技術】 東書	【家庭分野】 開隆堂	【NEW HORIZON 3】 東書		
4月	1 風立つライオン D-122よりよき生き喜び 2 銀メダルから得たもの A-6の希望と希望、喜びと強い意志	新入生歓迎会 C-153 専門委員会・生徒会 朝会 A-11	新入生歓迎会 C-153 専門委員会・生徒会 朝会 A-11	安全指導・避難訓練 A-42	始業式 A-4 入学式 C-153 健康診断 A-12 安全指導・避難訓練 A-42	世界はようつくいて C-120 選手 B-6	文字を思い分ける C-122	開国と近代日本の歩み C-188	『新しい社会公民』 東書	多項式の計算 A-5	水溶液とイオン A-5	独立ものの日に C-4 C-15 燃焼・フレントへ C-18	学びの探求と未来 学びの意義 井浦南 D-221 あの日を忘れない C-18 D-19 D-20 D-22	体つり運動 A-2 文化としてのスポーツ C-17 C-18 D-22	ミソジ・制敵のプログラム ミソジによる問題解決 C-11 A-5 C-12	Unit 0 Three interesting facts about Languages Unit 1 Sports for Everyone D-22 D-22	◇学習計画に当たって 学習計画の立案 A-11 C-188 C-189 C-190 C-191 C-192 C-193 C-194 C-195 C-196 C-197 C-198 C-199 C-200 C-201 C-202 C-203 C-204 C-205 C-206 C-207 C-208 C-209 C-210 C-211 C-212 C-213 C-214 C-215 C-216 C-217 C-218 C-219 C-220 C-221 C-222 C-223 C-224 C-225 C-226 C-227 C-228 C-229 C-230 C-231 C-232 C-233 C-234 C-235 C-236 C-237 C-238 C-239 C-240 C-241 C-242 C-243 C-244 C-245 C-246 C-247 C-248 C-249 C-250 C-251 C-252 C-253 C-254 C-255 C-256 C-257 C-258 C-259 C-260 C-261 C-262 C-263 C-264 C-265 C-266 C-267 C-268 C-269 C-270 C-271 C-272 C-273 C-274 C-275 C-276 C-277 C-278 C-279 C-280 C-281 C-282 C-283 C-284 C-285 C-286 C-287 C-288 C-289 C-290 C-291 C-292 C-293 C-294 C-295 C-296 C-297 C-298 C-299 C-300 C-301 C-302 C-303 C-304 C-305 C-306 C-307 C-308 C-309 C-310 C-311 C-312 C-313 C-314 C-315 C-316 C-317 C-318 C-319 C-320 C-321 C-322 C-323 C-324 C-325 C-326 C-327 C-328 C-329 C-330 C-331 C-332 C-333 C-334 C-335 C-336 C-337 C-338 C-339 C-340 C-341 C-342 C-343 C-344 C-345 C-346 C-347 C-348 C-349 C-350 C-351 C-352 C-353 C-354 C-355 C-356 C-357 C-358 C-359 C-360 C-361 C-362 C-363 C-364 C-365 C-366 C-367 C-368 C-369 C-370 C-371 C-372 C-373 C-374 C-375 C-376 C-377 C-378 C-379 C-380 C-381 C-382 C-383 C-384 C-385 C-386 C-387 C-388 C-389 C-390 C-391 C-392 C-393 C-394 C-395 C-396 C-397 C-398 C-399 C-400 C-401 C-402 C-403 C-404 C-405 C-406 C-407 C-408 C-409 C-410 C-411 C-412 C-413 C-414 C-415 C-416 C-417 C-418 C-419 C-420 C-421 C-422 C-423 C-424 C-425 C-426 C-427 C-428 C-429 C-430 C-431 C-432 C-433 C-434 C-435 C-436 C-437 C-438 C-439 C-440 C-441 C-442 C-443 C-444 C-445 C-446 C-447 C-448 C-449 C-450 C-451 C-452 C-453 C-454 C-455 C-456 C-457 C-458 C-459 C-460 C-461 C-462 C-463 C-464 C-465 C-466 C-467 C-468 C-469 C-470 C-471 C-472 C-473 C-474 C-475 C-476 C-477 C-478 C-479 C-480 C-481 C-482 C-483 C-484 C-485 C-486 C-487 C-488 C-489 C-490 C-491 C-492 C-493 C-494 C-495 C-496 C-497 C-498 C-499 C-500 C-501 C-502 C-503 C-504 C-505 C-506 C-507 C-508 C-509 C-510 C-511 C-512 C-513 C-514 C-515 C-516 C-517 C-518 C-519 C-520 C-521 C-522 C-523 C-524 C-525 C-526 C-527 C-528 C-529 C-530 C-531 C-532 C-533 C-534 C-535 C-536 C-537 C-538 C-539 C-540 C-541 C-542 C-543 C-544 C-545 C-546 C-547 C-548 C-549 C-550 C-551 C-552 C-553 C-554 C-555 C-556 C-557 C-558 C-559 C-560 C-561 C-562 C-563 C-564 C-565 C-566 C-567 C-568 C-569 C-570 C-571 C-572 C-573 C-574 C-575 C-576 C-577 C-578 C-579 C-580 C-581 C-582 C-583 C-584 C-585 C-586 C-587 C-588 C-589 C-590 C-591 C-592 C-593 C-594 C-595 C-596 C-597 C-598 C-599 C-600 C-601 C-602 C-603 C-604 C-605 C-606 C-607 C-608 C-609 C-610 C-611 C-612 C-613 C-614 C-615 C-616 C-617 C-618 C-619 C-620 C-621 C-622 C-623 C-624 C-625 C-626 C-627 C-628 C-629 C-630 C-631 C-632 C-633 C-634 C-635 C-636 C-637 C-638 C-639 C-640 C-641 C-642 C-643 C-644 C-645 C-646 C-647 C-648 C-649 C-650 C-651 C-652 C-653 C-654 C-655 C-656 C-657 C-658 C-659 C-660 C-661 C-662 C-663 C-664 C-665 C-666 C-667 C-668 C-669 C-670 C-671 C-672 C-673 C-674 C-675 C-676 C-677 C-678 C-679 C-680 C-681 C-682 C-683 C-684 C-685 C-686 C-687 C-688 C-689 C-690 C-691 C-692 C-693 C-694 C-695 C-696 C-697 C-698 C-699 C-700 C-701 C-702 C-703 C-704 C-705 C-706 C-707 C-708 C-709 C-710 C-711 C-712 C-713 C-714 C-715 C-716 C-717 C-718 C-719 C-720 C-721 C-722 C-723 C-724 C-725 C-726 C-727 C-728 C-729 C-730 C-731 C-732 C-733 C-734 C-735 C-736 C-737 C-738 C-739 C-740 C-741 C-742 C-743 C-744 C-745 C-746 C-747 C-748 C-749 C-750 C-751 C-752 C-753 C-754 C-755 C-756 C-757 C-758 C-759 C-760 C-761 C-762 C-763 C-764 C-765 C-766 C-767 C-768 C-769 C-770 C-771 C-772 C-773 C-774 C-775 C-776 C-777 C-778 C-779 C-780 C-781 C-782 C-783 C-784 C-785 C-786 C-787 C-788 C-789 C-790 C-791 C-792 C-793 C-794 C-795 C-796 C-797 C-798 C-799 C-800 C-801 C-802 C-803 C-804 C-805 C-806 C-807 C-808 C-809 C-810 C-811 C-812 C-813 C-814 C-815 C-816 C-817 C-818 C-819 C-820 C-821 C-822 C-823 C-824 C-825 C-826 C-827 C-828 C-829 C-830 C-831 C-832 C-833 C-834 C-835 C-836 C-837 C-838 C-839 C-840 C-841 C-842 C-843 C-844 C-845 C-846 C-847 C-848 C-849 C-850 C-851 C-852 C-853 C-854 C-855 C-856 C-857 C-858 C-859 C-860 C-861 C-862 C-863 C-864 C-865 C-866 C-867 C-868 C-869 C-870 C-871 C-872 C-873 C-874 C-875 C-876 C-877 C-878 C-879 C-880 C-881 C-882 C-883 C-884 C-885 C-886 C-887 C-888 C-889 C-890 C-891 C-892 C-893 C-894 C-895 C-896 C-897 C-898 C-899 C-900 C-901 C-902 C-903 C-904 C-905 C-906 C-907 C-908 C-909 C-910 C-911 C-912 C-913 C-914 C-915 C-916 C-917 C-918 C-919 C-920 C-921 C-922 C-923 C-924 C-925 C-926 C-927 C-928 C-929 C-930 C-931 C-932 C-933 C-934 C-935 C-936 C-937 C-938 C-939 C-940 C-941 C-942 C-943 C-944 C-945 C-946 C-947 C-948 C-949 C-950 C-951 C-952 C-953 C-954 C-955 C-956 C-957 C-958 C-959 C-960 C-961 C-962 C-963 C-964 C-965 C-966 C-967 C-968 C-969 C-970 C-971 C-972 C-973 C-974 C-975 C-976 C-977 C-978 C-979 C-980 C-981 C-982 C-983 C-984 C-985 C-986 C-987 C-988 C-989 C-990 C-991 C-992 C-993 C-994 C-995 C-996 C-997 C-998 C-999 C-1000	◇学習計画に当たって 学習計画の立案 A-11 C-188 C-189 C-190 C-191 C-192 C-193 C-194 C-195 C-196 C-197 C-198 C-199 C-200 C-201 C-202 C-203 C-204 C-205 C-206 C-207 C-208 C-209 C-210 C-211 C-212 C-213 C-214 C-215 C-216 C-217 C-218 C-219 C-220 C-221 C-222 C-223 C-224 C-225 C-226 C-227 C-228 C-229 C-230 C-231 C-232 C-233 C-234 C-235 C-236 C-237 C-238 C-239 C-240 C-241 C-242 C-243 C-244 C-245 C-246 C-247 C-248 C-249 C-250 C-251 C-252 C-253 C-254 C-255 C-256 C-257 C-258 C-259 C-260 C-261 C-262 C-263 C-264 C-265 C-266 C-267 C-268 C-269 C-270 C-271 C-272 C-273 C-274 C-275 C-276 C-277 C-278 C-279 C-280 C-281 C-282 C-283 C-284 C-285 C-286 C-287 C-288 C-289 C-290 C-291 C-292 C-293 C-294 C-295 C-296 C-297 C-298 C-299 C-300 C-301 C-302 C-303 C-304 C-305 C-306 C-307 C-308 C-309 C-310 C-311 C-312 C-313 C-314 C-315 C-316 C-317 C-318 C-319 C-320 C-321 C-322 C-323 C-324 C-325 C-326 C-327 C-328 C-329 C-330 C-331 C-332 C-333 C-334 C-335 C-336 C-337 C-338 C-339 C-340 C-341 C-342 C-343 C-344 C-345 C-346 C-347 C-348 C-349 C-350 C-351 C-352 C-353 C-354 C-355 C-356 C-357 C-358 C-359 C-360 C-361 C-362 C-363 C-364 C-365 C-366 C-367 C-368 C-369 C-370 C-371 C-372 C-373 C-374 C-375 C-376 C-377 C-378 C-379 C-380 C-381 C-382 C-383 C-384 C-385 C-386 C-387 C-388 C-389 C-390 C-391 C-392 C-393 C-394 C-395 C-396 C-397 C-398 C-399 C-400 C-401 C-402 C-403 C-404 C-405 C-406 C-407 C-408 C-409 C-410 C-411 C-412 C-413 C-414 C-415 C-416 C-417 C-418 C-419 C-420 C-421 C-422 C-423 C-424 C-425 C-426 C-427 C-428 C-429 C-430 C-431 C-432 C-433 C-434 C-435 C-436 C-437 C-438 C-439 C-440 C-441 C-442 C-443 C-444 C-445 C-446 C-447 C-448 C-449 C-450 C-451 C-452 C-453 C-454 C-455 C-456 C-457 C-458 C-459 C-460 C-461 C-462 C-463 C-464 C-465 C-466 C-467 C-468 C-469 C-470 C-471 C-472 C-473 C-474 C-475 C-476 C-477 C-478 C-479 C-480 C-481 C-482 C-483 C-484 C-485 C-486 C-487 C-488 C-489 C-490 C-491 C-492 C-493 C-494 C-495 C-496 C-497 C-498 C-499 C-500 C-501 C-502 C-503 C-504 C-505 C-506 C-507 C-508 C-509 C-510 C-511 C-512 C-513 C-514 C-515 C-516 C-517 C-518 C-519 C-520 C-521 C-522 C-523 C-524 C-525 C-526 C-527 C-528 C-529 C-530 C-531 C-532 C-533 C-534 C-535 C-536 C-537 C-538 C-539 C-540 C-541 C-542 C-543 C-544 C-545 C-546 C-547 C-548 C-549 C-550 C-551 C-552 C-553 C-554 C-555 C-556 C-557 C-558 C-559 C-560 C-561 C-562 C-563 C-564 C-565 C-566 C-567 C-568 C-569 C-570 C-571 C-572 C-573 C-574 C-575 C-576 C-577 C-578 C-579 C-580 C-581 C-582 C-583 C-584 C-585 C-586 C-587 C-588 C-589 C-590 C-591 C-592 C-593 C-594 C-595 C-596 C-597 C-598 C-599 C-600 C-601 C-602 C-603 C-604 C-605 C-606 C-607 C-608 C-609 C-610 C-611 C-612 C-613 C-614 C-615 C-616 C-617 C-618 C-619 C-620 C-621 C-622 C-623 C-624 C-625 C-626 C-627 C-628 C-629 C-630 C-631 C-632 C-633 C-634 C-635 C-636 C-637 C-638 C-639 C-640 C-641 C-642 C-643 C-644 C-645 	

【資料】

<実践紹介>

○ 別葉の掲示



拡大印刷した別葉を職員室の後方に掲示し、いつでも情報共有したり、見返したりできるようにした。

○ 生き生き協議会



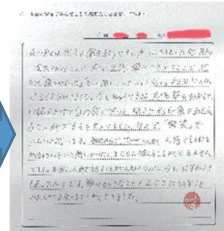
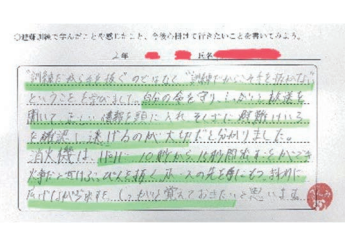
学校のリーダーが集まり、学校生活での諸問題について話し合う場を年3回実施した。

○ ローテーション道徳



学年でローテーション道徳を実施した。1つの教材を2クラスで取り組み、授業改善を図った。

○ 「書く活動」の充実



学校行事等の反省を5分程度で書いて発表する。発表を共感的な姿勢で聴くことを意識して取り組んだ。

○ ゲストティーチャーによる講演会



フリーアナウンサーの大和田新さんによる講演会を実施し、東日本大震災を教訓とした講話をいただいた。

○ 指導案検討会



模擬授業をした後に教材の分析や発問、授業の流れ等の検討会を実施して、全員で道徳の授業に関わった。

◎ 学習七箇条の改訂

学習七箇条（現行）

- 1 1分前着席を心がけよう
- 2 授業の始めと終わりのあいさつを大きな声で行おう
- 3 背筋を伸ばし正しい姿勢で授業を受けよう
- 4 先生の指示や説明に顔を向けて聞こう
- 5 先生の発問に対して積極的に発言しよう
- 6 授業の集中（雰囲気）を崩さないようにしよう
- 7 次の授業の準備をしてから休み時間をとろう

学習七箇条（改訂）

- 1 始業前に学習用具を準備して、1分前着席をしよう
- 2 授業の始めと終わりのあいさつを大きな声で行おう
- 3 教師の問いかけに対して、自分の考えをもとう
- 4 声の大きさ、速さ、目線に気を付けて話そう
- 5 話をしている人を見て、共感的な態度で聴こう
- 6 大切なことや必要なことはメモをとろう
- 7 学習したことを家庭学習につなげよう

研修委員会で既存の学習七箇条の達成状況を協議した結果、他者との関わりをさらに深めていくための手立てを加えるために改訂した。

会津・南会津地区道徳教育推進校「下郷町立檜原小学校」実施報告書

1 学校紹介



学校名	下郷町立檜原小学校
所在地	下郷町大字豊成字山崎 6 4 0 7 - 2
校長名	國分 洋克
教育目標	心身ともにたくましく 人間性豊かな子供の育成
学級及び児童 生徒数	学 級 数 6 児 童 数 4 7 名

2 研究テーマ

「親切や思いやりの心をもち、互いを尊重しながらよりよく生きる児童を求めて」
～友達と考えを交流し、多面的・多角的に考える道徳科の授業を通して～

3 研究テーマ設定の理由

「いで湯と溪谷の里」下郷町。その中心部に位置する本校は、現在児童数47名の学校である。教育目標に「心身ともにたくましく 人間性豊かな子供の育成」を掲げ、日々教育活動に取り組んでいる。

本校児童は、全体的に穏やかで、大きな生徒指導上の問題はないが、幼少期から同じ集団の中で生活しているため、人間関係が固定化していることに起因する小さなトラブル（心の問題）は存在する。そこで、「誰にでも優しく」を基本に、「豊かな人間性」の育成にもつながる「親切、思いやり」を今年度の重点内容項目として、道徳科の授業を要にし、学校教育全体を通じた道徳教育の中で指導していくことにした。

特に道徳科における指導では、さまざまな問題を自分事として捉え、友達の多様な考えに触れ、物事を多面的・多角的に考えながら、自己を見つめ直し、よりよく生きていくとする児童を目指していく。

以上のことから、研究テーマを「親切や思いやりの心をもち、互いを尊重しながらよりよく生きる児童を求めて」～友達と考えを交流し、多面的・多角的に考える道徳科の授業を通して～として研究を進めることにした。

4 研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	備考
4月下旬 5月上旬 6月27日（木）	○研究テーマ、研究内容、実態調査等の検討 ○実態調査アンケート（児童・教師） ○道徳科校内授業研究会Ⅰ	
7月 4日（木）	：3学年（塩生文子：道徳教育推進教師） 講師：南会津教育事務所 指導主事 三瓶 克	
9月 6日（金）	○要請訪問Ⅰ道徳科：3学年（高橋由紀子） 講師：南会津教育事務所 指導主事 万崎公彦	
9月20日（金）	○校内授業研究会Ⅱ：6学年（大野早苗） 講師：南会津教育事務所 指導主事 万崎公彦	
10月17日（木）	○校内授業研究会Ⅲ：2学年（渡部優子） 講師：秋田公立美術大学副学長 毛内嘉威 様 福島県教育庁義務教育課 指導主事 江花洋介	
10月18日（金）	○小教研道徳科部会県大会参加（矢吹町文化センター）2名	
11月11日（月）	○道徳教育推進校視察（会津若松市立鶴城小学校）1名	
11月25日（月）	○校内授業研究会Ⅳ：4学年（松本奈美） 講師：南会津教育事務所 指導主事 万崎公彦	
	○研究公開：5学年（黒澤大河） 講師：秋田公立美術大学副学長 毛内嘉威 様 福島県教育庁義務教育課 指導主事 江花洋介	
12月上旬	○変容把握（児童・教師）	
12月中旬	○反省・研究のまとめ	

5 研究推進にあたって

【視点1】道徳教育の組織的取組について

- ① 道徳教育全体計画、別葉の充実と活用
 - 〈全体計画、別葉の充実を目指した作成上の工夫点、配慮点〉
 - 全体計画では、児童の実態や保護者・教員の願い等から「親切、思いやり」、「生命尊重」を学校全体の重点内容項目として掲げる。特に今年度は、各学年の重点内容項目を「親切、思いやり」に絞り、内容項目の焦点化を図りながら教育活動を展開していく。
 - 別葉は、道徳教育が学校教育全体を通じて行われるよう、重点的に取り組む内容項目を基に、各教科や学校行事等との関連が時系列で分かるようにしていく。
 - 〈全体計画、別葉の活用上の工夫点、配慮点〉
 - 全体計画は、週指導計画の中に綴じ、重点目標や他教科、行事等との関連や目指す児童像を強く意識して指導することができるようにしていく。
 - 別葉は、いつでも確認することができるよう、教室の教師用机の上に置くと共に、途中で加除修正を行い、次年度に生かすことができるようにする。
- ② 道徳教育推進教師を中心とした組織的取組
 - 現職教育主任が道徳教育推進教師も担うことにより、二つの研究がより効果的に深まることを目指す。
 - 担任全員が、講師を招聘する授業を行い、道徳科授業力を高めることができるようにする。また、道徳科の授業における板書を撮影し、職員室に掲示するようにする。
- ③ mini互見授業
 - 教師が自身の課題と考えている授業場面に重点を置き、相互に授業を見合う機会を設定する。

【視点2】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫

- ① 本時の内容項目に関わるアンケートを実施して児童の価値観を把握し、その結果を発問づくりに生かしたり、導入や展開で活用したりすることを通して、問題を自分事として捉えることができるようにする。
- ② ペアやグループで考えを交流する場面を意図的に設定したり、児童の発言を他の児童に広げる発問をしたりすることを通して、他者の考えに触れ、物事を多面的・多角的に考えることができるようにする。
- ③ 振り返りの時間を十分に確保したり、振り返りの際に、「今までの自分」という視点を与えたりすることを通して、自己を見つめ、考えを深めることができるようにする。

【視点3】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

- ① 道徳性の高まりを評価するために、ワークシートや道徳ノートを活用して累積し、児童の学習状況の様子や成長の様子を捉える。
- ② 児童の考えや思いを共感的に受け止めて称賛するとともに、一人一人の心の動きや学習の深まりを捉え、道徳科あるいは教育活動全体の中での指導に生かす。
- ③ 評価に関する校内研修を実施し、評価の視点が児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子であることの共通理解を図り、全校で、認め、励ます個人内評価をすることができるようにする。

【視点4】「ふくしま道徳教育資料集」等の活用について

- ① 各学年の年間指導計画に「ふくしま道徳教育資料集」の活用を位置付ける。
- ② 児童に身近な「ふくしま道徳教育資料集」を、ふくしまの昔、今、これからを考えることができるよう、学級文庫に配架したり、家庭学習の一環として、親子で読む機会を設定したりする。

【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について

- ① 保護者に道徳科の授業に参加していただいたり、親子読書の題材に道徳科の読み物教材を指定したりして、親子で考えを交流する機会を設定する。（親子道徳）
- ② 道徳教育の様子を、学校・学級だよりやホームページ等で積極的に発信することで、目指す姿を共有し、道徳教育に対する関心を高める。
- ③ 各教科や行事等で、震災語り部の方等をゲストティーチャーとして招くなど、様々な人材を活用した道徳教育を実践する。

6 「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

保護者や地域の方に道德教育に関わっていただくことで、児童が物事をより多面的・多角的に考えることができる機会を設けたり、家庭・地域に、本校道德教育に対する理解を深めていただいたりすることができるようにする。

【概要】

- ・ 保護者に道德科の授業に参加していただいたり、児童と同じ教材文を読んで、感想を書いていただいたりする「親子道德」を行い、親子で考えを交流する機会を設ける。
- ・ 役場総合政策課商工観光係の方をゲストティーチャーとして招聘し、郷土を大切にすることについて学ぶ。
- ・ 震災語り部の方を招聘し、東日本大震災・原子力発電所事故について学ぶ。
- ・ 道德教育推進の様子を学校ホームページや学校・学級だよりを通して発信する。



〈親子道德〉

【成果と課題】

- 「親子道德」を実践したことで、児童が多様な考えに触れることができたとともに、道德的価値についてより深く考えることができた。
- 役場総合政策課商工観光係の方から話を伺うことは、郷土のために働く人がいるということや自分たちとは異なる視点からの郷土への思いがあることを知る機会となり、郷土をさらに大切にしたいという心情を育むことにつながった。
- 震災語り部の方の話を伺い、新聞やテレビでは伝えきれない被災当時の様子や被災地の現在、そして被災者の思いを知ることができ、被災者の気持ちに寄り添うことができた。
- 保護者の道德教育への関心がさらに高まるよう、「親子道德」の実施、情報発信の充実を継続して行っていきたい。



(ゲストティーチャーの話を聞く4年生)

7 成果と課題

- 児童の実態から「親切、思いやり」に重点を置いて作成した別葉を手がかりとして指導にあたったことで、学校教育全体を見通した道德教育を進めることができた。
- 導入で事前アンケートを活用し、児童が自分たちの現状に目を向けることで、学習課題を自分事として捉えることができた。また、アンケートの集約や提示にICTを活用したことで、短時間でアンケートをまとめたり、結果をグラフ化して視覚的に分かりやすい提示をしたりすることができた。アンケートは、児童の実態を把握したり、授業中の問い返しの材料として活用したりする上でもとても有効であった。
- 心情メーターや心情円、Yチャートなど、目的に合った思考ツールを活用することで、児童が友達との共通点や相違点に気付くことができた。さらに、それぞれの立場の理由を問うことで、多面的・多角的な考えを引き出すことができた。
- 毛内先生のご指導により、児童の道德性を育む授業にするための「発問」の研究を深めることができた。授業が「考え、議論する道德」に改善されてきている。
- 振り返りの場面では、ワークシートを用いて、自己を見つめ、考えを深めることができるように心がけた。しかし、時間を充分に取ることができなかつたり、「これからはこうしたい」というような行動目標を決める意思決定になってしまつたりすることもある。「これからの自分」ではなく「これまでの自分」を見つめることで、授業内での自分自身の成長に気付くなど、その時感じたことを素直に表現することができる働きかけをしていく必要がある。

令和6年度 下郷町立榎原小学校道德教育全体計画

児童の実態
・全体的に穏やかである。 ・よいことを進んで行うことができる子供もいる。 ・固定化された人間関係から序列が生まれ、それによるトラブルがある。 ・規範意識の低い子供がいる。 ・全体的に自分の考えをもつこと、それを交流すること、表現することに課題がある。

保護者の願い
・生命や自然、物を大切にしたいやりのある子供 ・正しく判断して行動できる子供 ・進んであいさつができ、人に感謝できる子供 ・くじけず最後までやりぬく子供

評価計画
道德教育：子供一人一人の人間的な成長を見守り、よりよい生き方を求めていく努力を評価する。 道德科：年間を通して、子供の学習状況（学んでいる姿）や成長の様子を見取り、認め、励ます評価となるようにする。教師は、授業改善に役立てる。

特別活動における 道德教育の指導計画	
学級活動	自らの生活を振り返り、自己の目標を定め、粘り強く取り組み、よりよい生活態度を身に付けようとする態度を育てる。
児童会活動	異年齢によるよりよい人間関係の形成やよりよい学校生活づくりに参画する態度を育てる。
クラブ活動	異年齢によるよりよい人間関係の形成や個性の伸長、よりよいクラブ活動づくりに参画する態度を育てる。
学校行事	よりよい人間関係の形成、自律的態度、心身の健康、協力、責任、公德心、勤労、社会奉仕などに関わる道德性を養う。

生徒指導における 道德教育の指導計画
道德教育で養われた道德性を、生きる力として日常の生活場面に具現できるように援助する。

教育目標
心身ともにたくましく 人間性豊かな 子供の育成
道德教育の重点目標
○誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすることができる子供を育てる。 ○生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重することができる子供を育てる。 ○安全に気を付けることや生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がけることができる子供を育成する。 ○誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接することができる子供を育てる。

各学年の重点目標			
	低学年	中学年	高学年
親切 思いやり	身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。	相手のことを思いやり、進んで親切にする。	誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。
生命の 尊さ	生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。	生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。	生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。
節度、 節制	健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。	自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする。	安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。
公平、公正、 社会正義	自分の好き嫌いでとらわれないで接する。	誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接する。	【よりよい学校生活、集団生活の充実】 先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努める。

道德科指導方針
道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めることができるよう、指導に当たっては以下のことを大切にしたい。 ・内容項目に係る実態を把握すること。 ・問題意識をもたせること。 ・自分との関わりで考えさせること。（自我関与） ・友達や大人との対話を通して、様々な見方や考え方に触れさせること。 ・自己内対話の時間を十分に確保すること。 また、児童の発達段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道德的行為に関する体験的な学習を適切に取り入れていく。

特色ある教育活動・豊かな体験活動
・集団生活を通して協力して役割を果たすことの大切さなどを考える集団宿泊活動の充実 ・社会の一員であるという自覚と互いが支え合う社会の仕組みを考え、自分自身をも高めるためのボランティア活動の充実 ・自然や動植物を愛し、大切にすることを育てるための自然体験活動の充実 ・地域の歴史や文化を大切にしようとする態度を育てる活動の充実

家庭・地域社会との連携
・道德教育の方針を家庭や地域社会に伝え、理解と協力を得る。 ・学校運営協議会制度を活用し、道德教育の成果などを具体的に報告し、それについて意見を得るようにする。

教育環境の整備
・「正しくあたたかい言葉づかい」を重点とした言語環境の充実 ・安心・安全な学校生活のための学校、教室環境の充実・整備 ・整然とし、かつあたたかな掲示物の工夫 ・植物の栽培

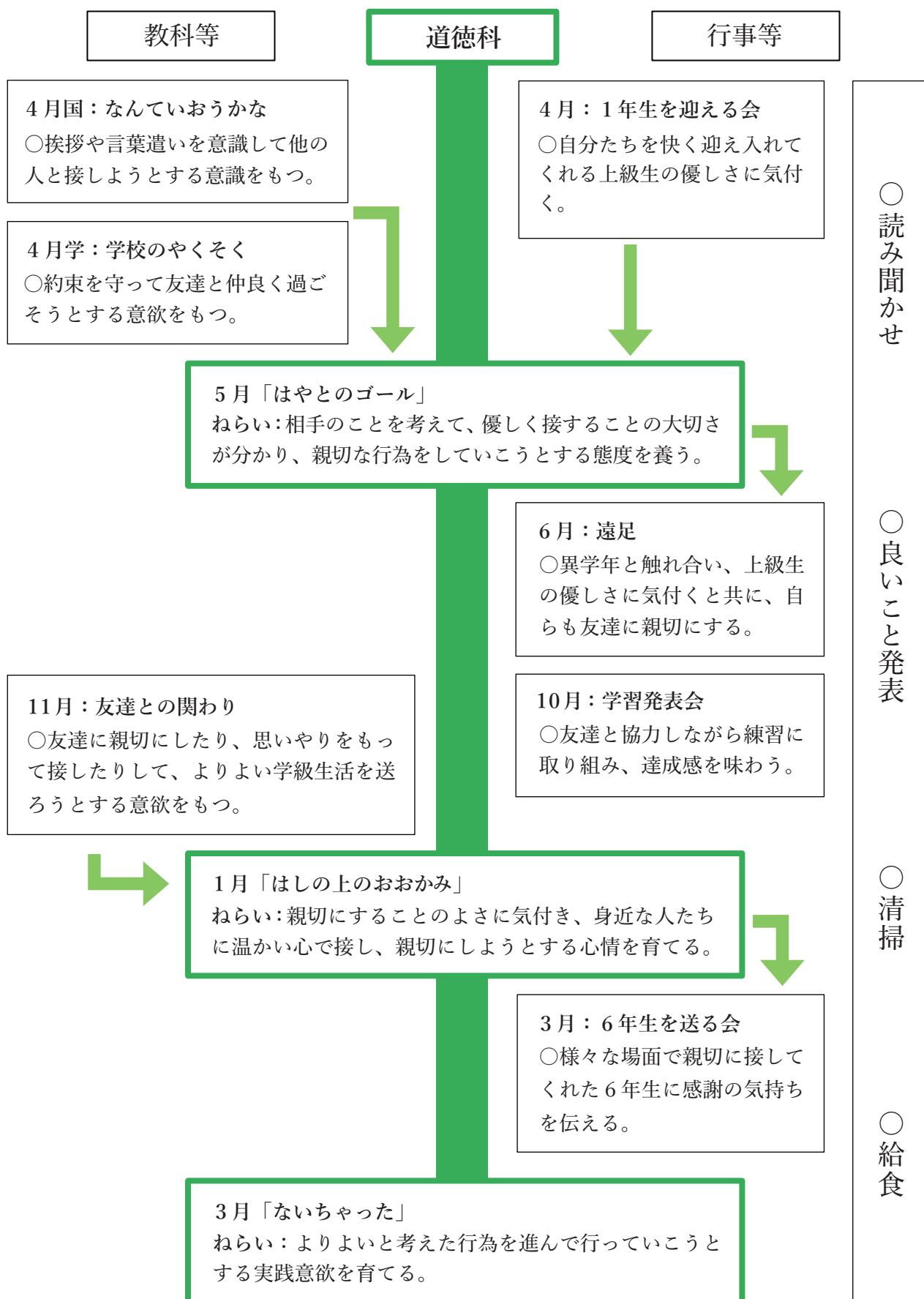
日本国憲法 教育基本法 学校教育法 いじめ防止対策推進法 学習指導要領 南会津・下郷町の教育方針・施策
研修計画
・実態把握アンケート実施 ・各学年1回の講師を招聘しての校内授業研究会と地域への公開授業 ・道德科指導法についての研修 ・変容を見取るアンケート実施 ・取組の評価と改善

各教科における 道德教育の指導計画	
国語	人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高める。思考力や想像力及び言語感覚を養う。
社会	地域社会への誇りと愛情、我が国の国土と歴史への理解と愛情を育てる。平和で民主的な国家・社会の形成者としての自覚をもち、自他の人格を尊重し、社会的義務や責任を重んじ、公正に判断しようとする態度や能力などの公民的資質の基礎を養う。
算数	日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てる。数理的にもそのことを考えたり処理したりすることを生活や学習に活用しようとする態度を育てる。
理科	体験活動を通して自然を愛する心情を育てる。見通しをもって観察、実験を行うことや、問題解決の能力を育て、科学的な見方や考え方を養う。
生活	自然とのかかわりに関心をもたせる。自分自身について考えさせる。生活上必要な習慣を身に付け、自立への基礎を養う。
音楽	音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を育てる。美しいものや崇高なものを尊重する心や豊かな情操を養う。
図工	つくりだす喜びを味わわせる。美しいものや崇高なものを尊重する心や造形的な創造による豊かな情操を養う。
家庭	日常生活に必要な基礎的な知識や技能を身に付け、生活をよりよくしようとする態度を育てる。家庭生活を大切にしたい気持ちを育む。
体育	粘り強くやり遂げる、きまりを守る、集団に参加し協力する態度を養う。健康・安全について理解させる。
外国語	外国語の背景にある文化への理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

外国語活動
言語やその背景にある文化への理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

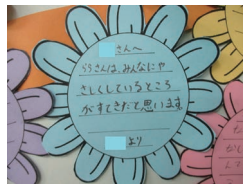
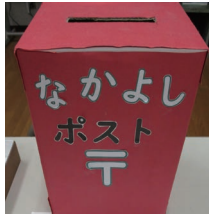
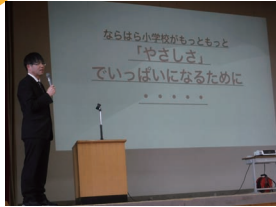
総合的な学習の時間における 道德教育の指導計画
主体的に判断して学習活動を進めたり、粘り強く考え解決しようとしたりする資質や能力、自己の目標を実現しようとしたり、他者と協調して生活しようとしたりする態度を育てる。

1年 B「親切、思いやり」



〈今年度の主な取組〉

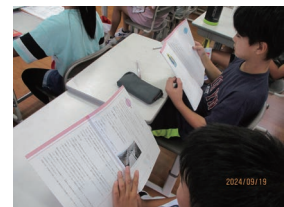
〈「優しい人が集まる学校」づくり〉



「優しい小学生になろう」「優しい人が集まる学校にしよう」を合言葉に、学校教育全体の中で、重点とする内容項目「親切、思いやり」の道徳性を養ってきた。全校集会の校長講話で「やさしさ」について取り上げる、各担任が見取ったやさしさの場面を称賛する、児童同士で互いのよさを認め合う場を設定する等、学校生活の中に意図的・計画的に位置付けた。これらの取組と道徳科授業の実践の相乗効果で、温かい人間関係が培われている。

「ふくしま道徳教育資料集」をさらに積極的に活用するために、学級文庫に配架した。また、「道徳の日」を設定し、朝の読書の時間に全校生で「ふくしま道徳教育資料集」を読む時間を設けた。低学年は担任が読み聞かせをする。中学年は担任が指定した読み物を読む。高学年は自分で選んだ読み物を読むなど、学年に応じた取組を行った。読み物を事前に読んでおくことで、実際に道徳科の授業で活用する際、問題場面の把握がしやすくなるといった効果もあった。

〈道徳の日〉



〈mini互見授業〉

道徳 mini互見授業カレンダー

月日	曜	時間	1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	6校時	備考
11月1日	金								
11月2日	土								
11月3日	日								
11月4日	月								
11月5日	火								
11月6日	水								
11月7日	木								
11月8日	金								
11月9日	土								
11月10日	日								
11月11日	月								
11月12日	火								
11月13日	水								
11月14日	木								
11月15日	金								
11月16日	土								
11月17日	日								
11月18日	月								
11月19日	火								
11月20日	水								
11月21日	木								
11月22日	金								
11月23日	土								
11月24日	日								
11月25日	月								
11月26日	火								
11月27日	水								
11月28日	木								
11月29日	金								
11月30日	土								

※ 道徳の時間が変更になった場合は、職員室裏板のカレンダーに書き込みをお願いします。



教師の指導力向上を図るため、互いの道徳科の授業を参観する取組を行った。45分間すべてを参観するのではなく、参観したい時間、参観できる時間に気軽に参観するという意味で、「mini互見授業」と名付けた。各学年で道徳の授業を行う日を月毎に提示しておくことで見通しがもて、参観しやすくなった。低学年担任など、学級から離れることが難しい教師もいることから、板書内容を写真に撮って職員室に掲示しておくことで、授業の流れが分かり他学年の取組を共有することができるよう工夫した。

いわき・相双地区道徳教育推進校「いわき市立中央台東小学校」実施報告書

1 学校紹介



学校名	いわき市立中央台東小学校
所在地	いわき市中央台高久2-24
校長名	松崎 健一
教育目標	未来を奏でる きらめく感性をもつ児童の育成
学級及び児童生徒数	学級数 11 児童数 259名

2 研究テーマ

「自ら動きだす学び」～考え 議論し、自己を見つめる道徳教育の実践～

3 研究テーマ設定の理由

本校は「未来を奏でるきらめく感性」を育むことを学校目標とし、「自ら動きだす学び」を現職教育の研究主題としている。本校児童の大きな課題は「主体性」である。「授業や学校生活での学びを自分事として捉え、実生活に生かそうとしているか」という点に課題があることを、本校教職員は感覚として感じてきただけでなく、非認知面のデータにも数値として表れていた。「自ら動きだす」とは、実感を伴った学びが土台にあり、気づきや考えを基にして、自らの意思や判断で動きだそうとする児童の「内面的な動き」である。また、動く中で学びを得ることも考えられる。そこで「考え 議論し、自己を見つめる学び」のある道徳科の授業実践と、「全職員による全教育活動を通した道徳教育」のサイクルを研究の根幹に位置付けた。気づき、考え、行動することを目指し、児童の主体性を高め、児童自身が自分に問いかけ「自分を創る」こと、児童が自ら自分達の「学校を創る」ことをチームで目指していきたい。

4 研究計画

月 日 (曜)	主な研究内容
4月 5日 (金)	ビジョンミーティング①「本校の実態、非認知面のデータから」
4月9日・12日	現職教育部会・現職教育全体会
5月 1日 (水)	道徳ミーティング①「各学年の別葉②作成」
5月17日 (金)	道徳ミーティング②「一単位時間(45分間)の学習過程」
5月20日 (月)	児童用道徳アンケート①実施・結果の分析
5月24日 (金)	道徳ミーティング③「発問と問い返し」
5月28日・6月14日	第1回校内授業研究会事前研究会(ブロック・全体)
6月28日 (金)	第1回校内授業研究会 5年2組 長谷川俊教諭 福島県教育庁義務教育課 指導主事 江花洋介 福島県教育庁いわき教育事務所 指導主事 黒津牧花
7月 5日 (金)	道徳ミーティング④「教材分析と自我関与、思考ツール」
7月19日 (金)	ビジョンミーティング②「1学期の児童の様子から」
8月10日 (土)	東京学芸大学道徳授業パワーアップセミナー参加(1名)
8月30日 (金)	道徳ミーティング⑤「伝達講習、個別最適な学び」
8月30日・9月6日	第2回校内授業研究会事前研究会(ブロック・全体)
10月 9日 (水)	第2回校内授業研究会 3年2組 佐藤結花教諭・全学級道徳公開 十文字学園女子大学 教授 浅見哲也 様
10月18日・25日	授業公開事前研究会(ブロック・全体)、児童用道徳アンケート②実施と結果の分析
11月28日 (木)	地区別推進協議会授業公開 4年2組 関根知佳教諭・6年2組 久保木壮平教諭 十文字学園女子大学教授 浅見哲也様 義務教育課指導主事 江花洋介 いわき教育事務所指導主事 黒津牧花 相双教育事務所指導主事 高玉宏太郎
12月13日 (金)	ビジョンミーティング③「児童の様子、非認知面のデータから」
12月23日 (月)	I C T講習「タブレット端末の効果的な活用法」
2月上旬～下旬	令和6年度研究集録、令和7年度現職教育全体計画の作成

5 研究推進にあたって

【視点1】道徳教育の組織的取組について
① 道徳教育全体計画、別葉の充実と活用 - 全教職員によるビジョンミーティング①において課題として挙げた「児童の主体性」を高め、いくことを目指し、研究主題を「自ら動きだす学び」と設定して共通理解をもって取り組む。 - 全校の重点項目「親切、思いやり」と「希望と勇気、努力と強い意志」を育むことを目指し、各学年の実態を把握した上で学年毎に重点項目を決め、別葉を作成し意識して取り組む。 ② 道徳教育推進教師を中心とした組織的取組 - 授業づくりについて道徳教育推進教師が率先して学び、授業実践をして発信し、共有を図る。 ③ チームで取り組む道徳教育の実践 - 教師自身が自主性をもち、授業づくりの工夫点や課題点を全担任が互いに発信し、学び合うため、(45分間のうちの)15分間の互見授業を継続して取り組む。 - 授業研究部、資料統計部、ICT活用部、掲示教育部、ふれあいタイム担当、記録部、道徳Book担当、研究会担当等、教職員の役割を細分化し、教師自身の自主性を高める。
【視点2】自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫
① 教材への自我関与 - 導入における対話を通した学習課題の設定、教材文との出合わせ方や範読直前・直後の教材提示の工夫、教材における重点の精選や発問の吟味、役割演技の方法などを工夫する。 ② 多面的・多角的な話し合い - 登場人物の立場や行為、心情、判断について様々な視点から児童が考えられるよう教材文を分析し、考えさせたい点を明確にした「発問」と「問い返し」を吟味・精選する。 - 児童との話し合いの中で、児童の発言を受容し肯定的な姿勢で認め、考えさせたい視点で問い返ししながら、議論を広げ深めていくコーディネートをする。 - 話し合いの形態(ペア・グループ・全体)を、目的に応じて取り入れて学習過程を工夫する。 - 板書を生かして、教師が問いかけたり、児童が視覚的に捉えたりできるよう構造的な板書にする。 ③ 自己を見つめる - 事前アンケートや、授業内での実生活に関する発問、授業後の様子の見取りなど、授業を要とした実生活における児童の思考のサイクルを教師が意識する。 「自分事」として捉えさせるために、実生活との往還を考えた発問や問い返しを工夫し、自分事で考えて話し合ったり書いたりする場面(展開後段)を設定する。 - 授業の「書く終末」の機会を大切に、児童が自分なりに本時の学びを整理できるようにする。
【視点3】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について
- 一人一人の発言に耳を傾け、受容的・肯定的な姿勢で認め、個々の考えを大切にする。 - 授業のワークシートには、担任が毎回全て目を通し、自分の考えをもてたことを認め励ます。 - 日常生活における児童の「自ら動きだす」姿、「キラリ」の森への自主的な記述、「帰りの会」で児童同士が称賛し合う機会など、児童の様子を教師が日常的に見取り、認め励ます。
【視点4】「ふくしま道徳教育資料集」等の活用について
- 道徳科の年間指導計画の中に「ふくしま道徳教育資料集」を扱った授業を全学年3回程度位置づけ、積極的な活用を図る。 - 家族が震災による被害(津波・原発事故)を受けた児童がいることを配慮し授業内容を工夫する。 - 防災教育や放射線教育、震災関連施設への見学学習等と関連付けながら授業に取り組む。
【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について
- 学校だよりや学校HP、学年だよりを通して、日々の児童の様子を発信し、家庭と共有する。 - 道徳科の授業参観や通知表、個別懇談の機会を生かし、道徳科の様子を保護者へ伝える。 - ワークシート等に保護者からコメント(「勤労」についての考え方、児童の「個性」について等)をいただき、道徳科の授業で扱い、学びを深める。 - Google formを活用し、学校行事の際に来校した保護者から児童への称賛や励ましのコメントをいただき、拡大紙に印刷して掲示する。 - ゲストティーチャーを招聘し、地域の人材を活用した教育活動を行う。

6 「家庭・地域との連携」について

【ねらい】

道德教育の様子を発信すると共に、学校・家庭・地域が一つになって児童の道德性を育む。

【概要】

- ・ 全学級の道德科の授業を公開し、自由に保護者に参観していただいた。
- ・ 授業公開や学習発表会でQRコードを配付し、子どもたちへの励ましのコメントをいただいた。
- ・ 授業のワークシートに家庭からメッセージを記入していただき、授業で活用した。
- ・ 学校だよりや学年だより、ホームページを活用した児童の様子や道德科授業の具体的な様子、道德教育の取組を発信した。
- ・ 個別懇談で児童の道德ファイルを見せて称賛し、授業の様子を具体的に伝えた。
- ・ 教材「ふろしき」(4年)から発展して呉服店店主による「風呂敷講座」を実施した。
- ・ 人権教育(5年)では、ネットやSNSでのいじめについて講話をいただいた。
- ・ 卒業生(高校生)による実体験に基づいたメッセージ動画を授業(生命の尊さ)で活用した。
- ・ 「きぼうのとりプロジェクト」による読み聞かせや「震災語り部(中央台南中4名)」「そなえるふくしま」出前講座、震災関連施設(いわき・双葉・三春)への見学学習など、震災についての学習と「ふくしま道德教育資料集」での授業を関連づけた。
- ・ 市内の医師によるキャリアの学習を通して、生き方や職業について講話をいただいた。



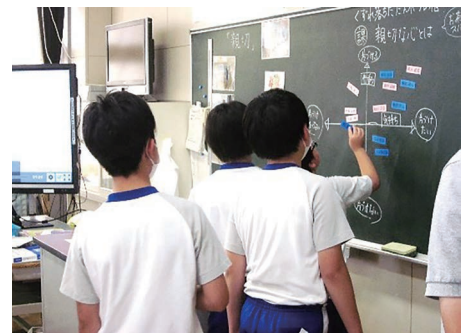
＜医師によるキャリアの学習＞

【成果と課題】

- 保護者からの称賛のコメントを校舎内に掲示したことで、子どもたちの喜びにつながっていた。授業のワークシートへのメッセージも効果的だった。
- 担任だけでは難しい専門的な学習も、ゲストティーチャーによる講話を実施することで子どもたちの理解が深まり、道德教育と関連付けることができた。
- 家庭や地域へ「発信」するだけでなく、さらに「連携」することを目指していくために、効率的かつ効果的な方法と「家庭・地域との道德教育」の視点を研究し、さらに児童の道德性を育むことを目指していきたい。

7 成果と課題

- 全教職員がチームになって研究に取り組み、道德科の授業づくりについてたくさん協議することができた。互いに助言し合える雰囲気が高まってきた。
- 授業研究において、「発問と問い返し」を協議の根幹に置いて指導案を検討してきたことにより、手段ありきの研究に捉われず、児童同士・教師と児童の対話的な学びを目指すことができた。
- 児童が自分を見つめられるよう、道德科と道德教育(実生活)との往還を意識して授業づくりを進めてきたことで、児童自身が体感を伴って考えを広げ深める姿が見られるようになってきた。
- 道德科と道德教育のサイクルを充実させていくために、新たなことだけでなく、これまで取り組んできた教育活動の中にも道德教育につながるものを見つめ直す。
- 道德教育は学級経営や生徒指導、学校行事と深く関係することを踏まえ、教える・指導することよりも、教師が児童に考えさせる・問う・聴くための視点や、認め励ます視点を明確にする必要がある。
- 評価については、授業での発言・記述だけでなく、児童の道德性に係る成長の様子にさらに目を向け、職員間でも共有しながら、児童を認め、励ましていきたい。



＜思考ツールを活かした話し合い＞

令和6年度 道徳教育全体計画

いわき市立中央台東小学校



第5学年

B 親切、思いやり

関連内容項目

4月 道徳(友情、信頼)
「泣いた赤おに」

4月 家庭科
「私の生活、大発見！」

4月 行事
「春の運動会」

5月 体育(保健)
「心と体のつながり」

5月 児童会活動
「1年生を迎える会」

5月 外国語
「Happy birthday!」

6月 道徳
(友情、信頼)
「心のレシーブ」

**6月「くずれ落ちただんボール箱」
(親切、思いやり)**
ねらい：思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする態度を育てる。
反省：

6月 体育
「タグラグビー」

8月 音楽
「アンサンブルの
みりよく」

9月 学校行事
「宿泊学習」

10月 外国語
「Let's go to the zoo.」

11月 図工
「笑顔が生まれるしかけ」

10月 図工
「水から発見 ここきれい！」

11月 道徳
(相互理解、寛容)
「ブランコ乗りと
ピエロ」

11月 学校行事
「東SHOW」

**12月「最後のおくりもの」
(親切、思いやり)**
ねらい：誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする態度を育てる。
反省：

12月 体育
「サッカー」

12月 総合
「スチューデント
シティ」

2月 国語
「もう一つの物語」

2月 特別活動
「6年生を送る会」

2月 道徳
(勤労、公共の精神)
「私のボランティア体験」

3月 音楽
「変そう曲を楽しもう」

3月 体育
「ティーボール」

目指す子どもの姿

誰に対しても思いやりの心を持ち
相手の立場に立って親切にする姿

キラリの森

清掃

学級活動

休み時間の活動

異学年交流(委員会・クラブ・登校班)

ふれ合いタイム

2

すすめる

【資料】

対話的に学ぶ

実生活との往還

発問と問い返し

自己を見つめて

担任だから
できること

道徳科

要

「自ら動きだす学び」

道徳科と道徳教育の
サイクルを意識して

道徳教育

チームだから
できること

ビジョンミーティング
道徳ミーティング

心を育む環境づくり
(掲示物・道徳BOOK)

15minute互見授業 5-2
5月20日月曜日2校時
教材名 お父さんは救急救命士
9:45~10:00
導入 展開 (終末) ○をつける
見てほしいポイント 家庭との連携
教師の説話ではなく、関連動画等で
価値理解にせめていけばと考えております。

互見授業を気軽に

児童企画のイベント
(委員会活動)

ふれあいタイム
(異学年交流)

震災と道徳教育
(卒業生「語り部」)

地域の人材
(風呂敷講座)

全学級道徳「道徳の日」
(保護者自由参観)

本宮第二中学校第3学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和6年11月27日（水）第4校時

授業者：本宮市立本宮第二中学校 教諭 三本木駿

授業テーマ	社会をよりよくしようとする人たちの思いについて考える活動を通して、身近な社会において積極的に役立とうという心情を育てる授業
-------	---

- 1 主題名 自ら社会参画を C社会参画、公共の精神
- 2 教材名 社会からの無言の賞賛を感じる感性（出典：新訂 新しい道徳3 東京書籍）
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

「社会参画の意識」とは、共同生活を営む人々の集団である社会の一員として、その社会における様々な計画に積極的に関わろうとすることである。個人が安心・安全によりよく生活するためには、社会の形成を人任せにするのではなく、主体的に参画し、社会的な役割と責任を果たすことが大事になる。自分が生きている身の回りを含めた社会に関わることの意義を理解し、実際に関わっていこうとする態度を育てていくことが求められる。

(2) 生徒の実態（子ども観）

本学級は、素直な生徒が多く、物事に前向きに取り組むことができる。また、市のボランティアに参加を申し込んだ生徒が7名おり、地域に貢献しようとする献身的な生徒も多い。一方、大人数で活動する際に「自分がやらなくても、誰かがやってくれるだろう」と、どこか人任せの感覚をもつ生徒も少なくない。このような生徒が、社会参画や社会連帯についての考えを深め、社会の一員としての自覚を深める機会としたい。

(3) 教材及び指導について（教材観及び指導観）

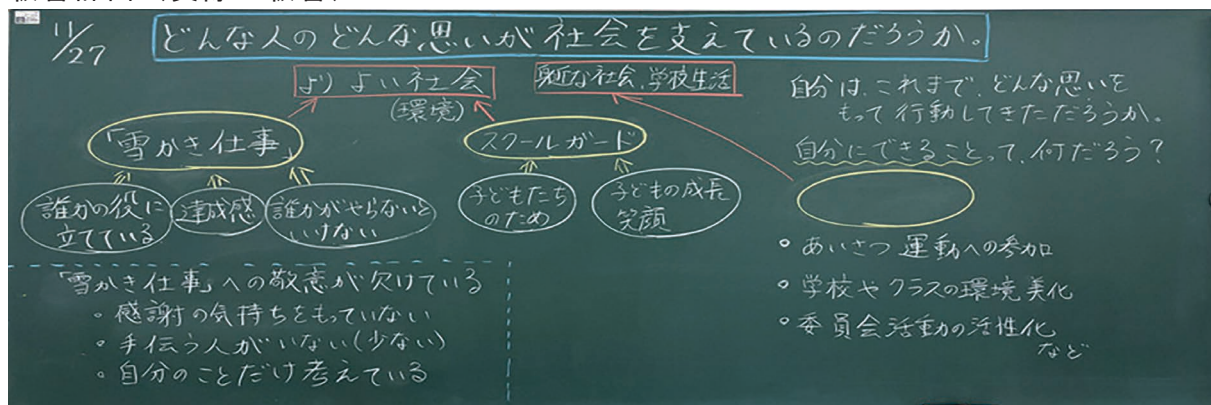
本教材は、雪かきをする人たちについて考えることを通して、ねらいに迫るものである。雪かきは誰かを喜ばせるための活動ではなく、人々が普段どおり安全に歩くことができるようにするための活動である。他者からの賞賛はないが、このような活動を引き受けてくれる人がいることで社会全体がうまく回っている。誰かが行わなければならないことを引き受ける人の気持ちを理解し、社会のために役立つことについて考えを深めることができる教材である。

指導にあたっては、まず雪かきをする人たちの思いを考え、やりがいや充実感に気付くことができるようにする。その上で、雪かきをする人に対して、人々の敬意が欠け、当たり前感覚となっていることに触れ、よりよい社会を実現しようとするための行為が大切にされていないことに気付かせたい。また、スクールガードの取組について話し合うことで、生徒の身近にある誰かのためになる行為を意識できるようにしたい。終末では、これまでの自分が社会（地域や学校・学級）や誰かのために役立つことができているかを振り返り、「社会をよりよくすること」について自己を見つめ直して考えることができるようにしたい。

4 本時のねらい

「雪かき仕事に対する敬意が欠けている」という内田氏の思いを考えることを通して、当たり前だと思っていたことが誰かの善意で成り立っていることに気付く、社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めようとする道徳的心情を育む。

5 板書計画（実際の板書）



6 學習過程

学習活動・内容 (◎中心発問・予想される生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※評価の視点
1 本時の学習テーマをつかむ。 (1) アンケートの結果から、地域や学校生活をよりよくするために行動した事例を紹介する。 ○ そのときどんな気持ちだったか。 ・ みんなや社会の役に立ちたい。 (2) 学習テーマをつかむ。 どんな人のどんな思いが社会を支えているのだろうか。	5	○ 社会や誰かのために行動した経験についてのアンケート結果を提示し、その時の気持ちを想起することで、ねらいとする道徳的価値に対する問題意識を高めることができるようにする。 ○ アンケート結果をGoogleフォームで提示し、全体で共有する。
2 教材文を読んで考える。 ○ 雪かきをする人は、どのような気持ちで行っているのだろう。 ・ みんなや社会の役に立ちたい。 ・ 誰かがやらないといけない。 ・ 仕方ない気持ちでやっている。 ◎ 内田氏の『雪かき仕事』に対する敬意が欠けている」にはどのような思いが含まれているのだろう。 ・ 「雪かき仕事」をしていてくれる人への感謝の気持ちをもっていない。 ・ 「雪かき仕事」を手伝う人が少ない。 ・ 自分のことしか考えていない。	20	○ 話合いの範囲をペア→グループ→フリーと段階を追って広げることによって、生徒が多様な考えに触れることができるようにする。 ○ 誰もが本当に前向きな気持ちで取り組んでいるのかを問い、揺さぶることで、多様な考え方を引き出すことができるようにする。 ○ 「幸せの青い鳥」のストーリーを取り上げ、雪かきされた道を歩けることは当たり前のことではなく、誰かの善意のおかげであることに気付くことができるようにする。 ※ どんな人のどんな思いが社会を支えているのかについて、自分の考えと友達の考えを比べて考えているか。 (記述・発言)
3 スクールガードの取組について話し合う。 ・ 自分たちのために活動してくれている人が身近なところにいる。 ・ 自分にもできることはないだろうか。	8	○ 地域の方へのインタビューを聞き、思いを知ることで、誰かのためになることを主体的に引き受ける人の気持ちに共感し、その思いが社会をよりよくすることにつながっていることに気付くことができるようにする。
4 これまでの自分を振り返って考える。 ○ これまでの自分は、地域や学校生活をよりよくするために主体的に行動していただろうか。 ・ 地域のボランティア活動に参加したことがある。 ・ 自分から地域や学校をよくしようと考えたことがなかった。 ○ 今日の学習を振り返り、学んだこと、感じたことを書こう。 5 教師の説話を聞く。	15	○ 心のものさしを使うことで、これまでの自分を客観的に見つめることができるようにする。 ○ 振り返った経験を共有し、多様な考えに触れることを通して、地域や学校生活をよりよくすることについての一人一人の考え方を深めることができるようにする。 ※ 地域や学校生活をよりよくすることについて、自分の生活を見つめ、振り返りながら考えているか。 (記述・発言)
	2	○ ごみ拾いをする日本人の記事を紹介し、よりよい社会の実現について考えを深める。

自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫の視点から

(1)「自分事として考えを深められるような発問」について

- 自分が多くの人たちの善意によって支えられていることに気付いていない生徒が多い実態を踏まえ「雪かき仕事に対する敬意が欠けている」という内田氏の思いについて考えた。生徒は、雪かきされた道を歩けることが当たり前のことではないことに気付き、自分の生活を支えている人たちに感謝の気持ちをもつことについて、自分事として考えることができた。



〈友達と考えを交流する姿〉

T: 内田氏の「『雪かき仕事』に対する敬意が欠けている」にはどのような思いが込められているのかな。

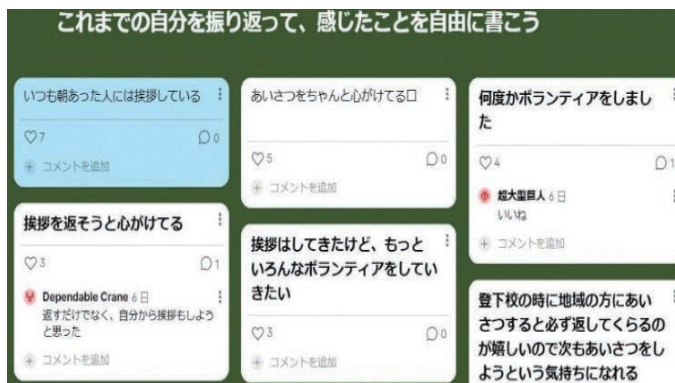
C: 僕たちの知らないところで雪かきしてくれている人がいるのに、そのことも考えず雪かきしてあるのが当たり前であるかのように、その道を通勤通学している人はどうなのだろうか、ということ言いたいのだと思います。

C: 僕も「感謝すべき」だと考えました。

- 話合う活動において、生徒が自分の考えを伝え合うだけになってしまった。生徒の考えに対して「見返りがなくても行動するのはなぜなのか。」といった補助発問をしたり、教師が生徒同士の考えをつなげるようなコーディネートをしたりすることで、ねらいとする道徳的価値について生徒一人一人の自分の生き方についての考えを深めることができたと考える。発問に対する生徒の反応を予想し、考えを深めるための補助発問を準備しておくことが大切である。

(2)「自己を見つめる振り返り」について

- 友達の考えを見ることができる掲示板アプリを活用したことで、多様な価値観や考えに触れながら、自分の生き方を考える生徒の姿が見られた。
- 地域の方のインタビューを聞いた後に生徒が掲示板に書き込んだ内容と、その後、心のものさしを使って振り返った内容がほぼ同じだった。書く活動や内容を精選し、振り返りの時間を十分に確保することが大切である。



〈生徒の考えを共有した掲示板〉

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

- 掲示板を活用して、生徒同士がお互いの振り返りを読み、相互評価できるようにしたことで、生徒が自分のよさや可能性に気付き、主体的に学ぶ意欲を高めることにつながっている。
- 生徒同士の相互評価について、相手が友達関係で固定されがちなので、より多くの考えに触れることのよさを生徒が実感できるように、まずは教師自身が生徒一人一人の考えを受け止められるようにしたい。

湖南高等学校第3学年「総合的な探究の時間」学習指導案

日 時：令和6年10月31日（木）第3・4校時

授業者：福島県立湖南高等学校 教諭 半澤拓真

授業テーマ	臓器提供をテーマに、生命の尊さについて様々な立場で話し合うことを通して、主体的に考え続ける態度を育む授業
-------	--

1 単元名 命と主体的な判断

2 単元の目標

- (1) 課題の発見と解決に必要な知識・技能を身に付けている。【知識・技能】
- (2) 実社会との関わりの中から問を発見し、自分で仮説を立て考察することができる。
【思考力・判断力・表現力等】
- (3) 探究に主体的に関わり、他者と協働し課題解決に取り組んでいる。
【学びに向かう力・人間性】

3 単元設定の理由

(1) 単元について

今後多くの生徒が取得する運転免許証の裏面には、臓器提供の意思表示欄があることから、身近な場所に重要で大きな判断をする機会があることに気付かせる。

戦争や災害、病気、事故などを主題に、死や命の尊さについて考える機会は、学校教育の中や日常生活の中で様々あるが、自らやその家族の命について考えて判断する、または他人から受け取るとも言える臓器提供は、特異な形であり考える場面は少ない。考える時間があり判断を下すということは、ある意味では避けられない形の死よりも、過酷なものであるとも言える。今後それぞれが新しい家族を持つ世代となることもあり、生徒に主体的に考える機会を提供したいと考えた。

(2) 生徒の実態について

男子11名、女子5名の16人の学級である。日々の生徒の姿から、素直な感受性があり、それを表現することへの抵抗も少ないように感じている。生徒の様々な実態を踏まえつつ、素直な感受性を引き出しながら、授業に対する意欲を高めたり、読書の魅力に気付いたり、社会情勢に目を向けたりする機会を意図的に設けている。

本単元の内容は、生徒にとって、自らの命と判断について考える機会として重要なものになると考える。

(3) 指導について

公益財団法人日本臓器移植ネットワークのホームページを主として、統計や制度などの正確な情報を伝える。啓発用の意思表示カードの提供もあるので、実際に手に取ってリアルに感じられるよう活用する。また、「臓器提供＝人助け＝すべき」と短絡的な思考にならないよう、数は多くないが提供側の葛藤について書かれた新聞記事も使用し、揺れ動く様々な思考をさせる。「提供する」ことが正しい答えのようになってしまうことが予想されるので、「目を向ける」ことが大切な一歩目であり、「提供拒否」を悪としない、多様性を受け入れられるよう展開する。

4 中学校道徳科の内容項目との関連

「A 自主、自律、自由と責任」

自立の精神を重んじ、主体的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

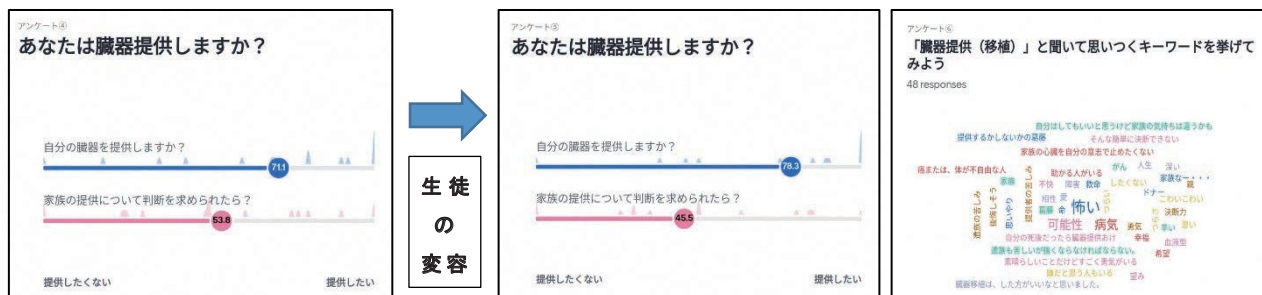
「D 生命の尊さ」

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

5 本時のねらい

臓器提供をテーマに他の生徒と話し合うことを通して、生命の尊さを再確認し、正解のない問いに対して自身の経験や価値観をもとに主体的に考え続けることができる。

6 板書計画（実際の板書）



7 学習過程

学習活動・内容 (○発問・予想される生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
1 Mentimeter を使用し「命」「人助け」で思い付くキーワードを挙げる。	5	○ 個人活動にして、多様な意見や多数意見を可視化できるようにする。
2 運転免許証を見て、臓器提供意思表示欄の存在について知る。	5	○ ここまでの中で「臓器提供」のワードが挙がらなくても誘導はせず、自由に発想することができるようにする。
3 本時の内容と目標を確認する。 目標「命の決断に目を向ける」	5	
4 Mentimeter を使用し臓器提供のイメージを挙げる。	5	○ イメージの結果は非公開とし、まとめ活動での結果と併せて公開し、変化を感じられるようにする。
5 教師からの説明で、臓器提供の制度、現状についての知識を深める。	5	○ 簡潔かつ、推進するようなものや、感情的な情報が入らないように注意する。
6 現時点での提供意思を確認する。 (アンケート形式で集計⇒結果を公開⇒班で意見交換⇒全体共有)	10	○ 提供拒否の生徒がいても、批判されないように配慮する。
7 提供に関する手記を読み、6と同様の流れで考えを深める。	15	○ 自分と家族とで意思が異なる場合、その違いについて議論が深まるようにする。
8 後悔や葛藤を綴った記事を読み、6と同様の流れで考えを深める。 ○ あなたの気持ちの変化はなぜ起きた/起きなかったのだろう。	10 休憩 15	※ 6～8 その時々での意見を理由とともに説明し、考えを深めようとしているか。
9 4と同様に今のイメージを挙げ、4と合わせて公開し変化を考える。	10	
10 本時の目標の再確認をする。	5	○ 「提供」ではなく「目を向ける」ことが目標であることを再確認することができるようにする。
11 KDGs で自己評価し、共有して振り返る。(班で意見交換⇒全体共有)	10	※ ルーブリック評価

8 考察

自己を見つめ、深い学びを実践する視点から

(1) 「自己を見つめる場の設定」について

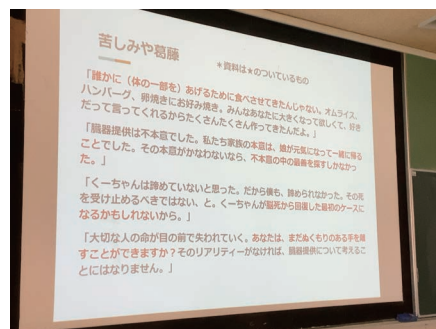
- 2時間連続で実施したことによって、じっくり資料を読み込み、自己と対話する場面を複数回設定できた。初めての試みであったが、1時間ずつ2週連続で行う授業ともまた異なる生徒の内面の変化が、鮮明に見られたと思う。もちろん時間が空くことによって思考の整理がつくこともあるので、今後も題材によって使い分ければ、有効な授業形態であると感じた。



〈生徒同士で考えを述べ合う場面〉

(2) 「深い学びを実践する場の設定」について

- 「臓器提供＝人助け＝肯定」という短絡的な思考に陥らないように、普段あまり目にすることのない情報（学習過程の8）を提示し、生徒の考えが揺さぶられることを期待した。異なる視点で物事を捉える体験をさせることで、ねらい通りの変化が見られ、臓器提供についてより多角的に考えることができた。
- 意思表示の自主性と、生命の尊さが中学校道徳科との関連であったが、それらが明確に分けられた発問を設定することができなかった。分けることによって、生徒の中にある葛藤や倫理観を明確にすることに繋がれた可能性もあると考える。道徳教育との関連を考える上で、今後の課題としたい。
- 途中で再度班分けを行うことで、様々な意見に触れることができた。
- 途中で意見を集約し意図的に班内で意見が割れるよう班分けを操作すれば、話し合いが活性化し、生徒一人一人が自分の考えをさらに深められたのではないと思う。

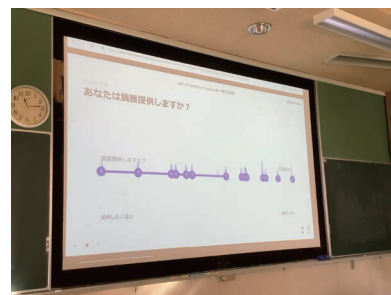


〈ICTを活用した資料の提示〉

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

(1) 振り返りの場の確保

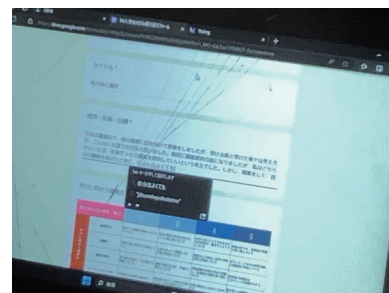
- 授業中の心境の変化を可視化するためにアンケートを3回行い、同時にグループ内で意見共有をさせた。最後の振り返りまでに、要所で思考をまとめ、言語化することによって、90分の授業ではありながら、最後に生徒自身が授業全体を俯瞰して振り返ることに繋がられた。



〈メンチメーターで全体共有〉

(2) 生徒を認め励ます評価について

- この授業内で臓器提供の意思表示をすることが目標ではなく、考えを深めることが目標であることを、授業の最初と最後で強調した。大人であっても迷いなく決断することが容易ではないテーマだが、だからこそ「決めなくてよい」という安心できる前提の下で、考える時間が取れたことにこの授業の意義があったと考える。ルーブリックには素直に葛藤や不安が書かれており、生命の尊さを改めて感じるとともに、正解のない問いに自分事として向き合うことができたと思う。
- 振り返りの記述を授業内で共有し、クラスメイトにも同じように葛藤や不安があることを伝えられれば、最後に安心感を持って授業を終えられたのではないかと考える。



〈ルーブリック（KDGs）の活用〉

白河市立東北中学校第2学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和6年11月29日（金） 第5校時
授業者：白河市立東北中学校 教諭 佐久間理奈

授業テーマ	井上選手の心情の変化について考える活動を通して、困難を乗り越えて目標の達成に向けて努力し続けようとする道徳的意欲を育む授業
-------	---

- 1 主題名 困難を乗り越える A 希望と勇気、克己と強い意志
- 2 教材名 初心（出典：中学道徳 あすを生きる2 日本文教出版）
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

自分自身で目標を設定し、その達成を目指すことは、日々の生活を充実したものにする。しかし、目標の実現には、様々な困難を乗り越えなければならない。困難を乗り越えて、目標の達成に向けて努力し続けるためには、希望と勇気を失わない前向きな姿勢が大切である。中学生の時期は、希望と勇気をもって困難を乗り越える生き方に憧れをもつ時期である。しかし、理想通りに行かない現実には悩んだり、困難に直面し物事を諦めたりしてしまう時期でもある。自己の内面の弱さに打ち勝ち、最後までやり遂げようとする強い意志を養い、挑戦し続ける姿勢が重要であることを伝えたい。

(2) 児童（生徒）の実態（子ども観）

在籍生徒数33名の学級である。素直な心をもった生徒が多く、自分が興味をもったことに対しては、意欲的に取り組むことができる。その一方で、入学当初に比べ、安易に自分の限界を定めてしまったり、困難に直面するとすぐに努力することをやめてしまったりと、高い目標に対して最後までやり抜こうとする意欲が減退してきている生徒も見られるようになってきている。この時期に、困難を乗り越えて努力することの大切さについて改めて考えさせることで、目標の達成に向けて努力しようとする道徳的実践意欲を育てたい。

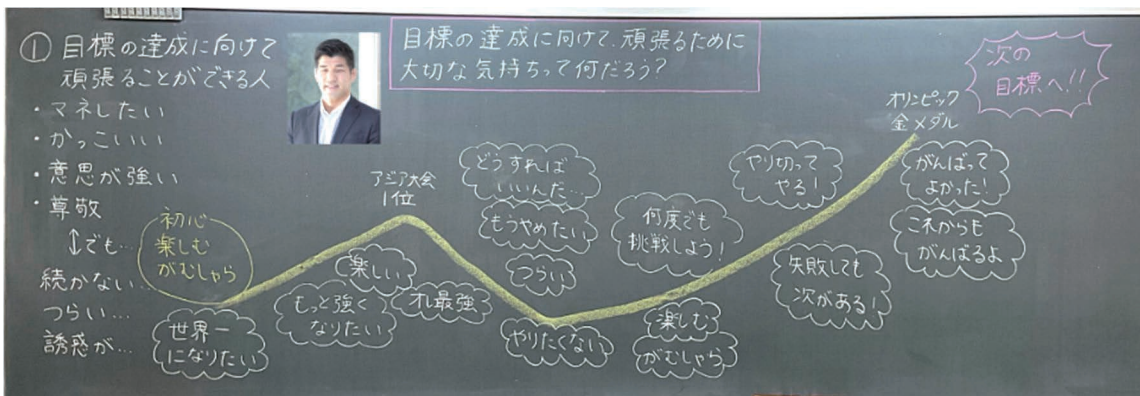
(3) 教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、井上康生選手が目標であった「柔道で世界一になること」を達成する目前で挫折を味わうが、初心に返り、粘り強く練習に取り組むことで、目標を達成するという内容である。井上選手の気持ちの変化について考えることで、困難を乗り越えて努力することの大切さについて考えさせる。また、部活動に所属している子どもたちにとって、スポーツでの挫折や失敗は身近な内容であるため、自分と関連させて考えやすい教材であると考えられる。困難を乗り越えるために必要な気持ちについて、他者と話し合うことを通して、多面的・多角的に考えることで理解を深め、実生活に繋げられるようにしていきたい。

4 本時のねらい

登場人物の生き方について考える活動を通して、困難を乗り越えて目標の達成に向けて努力し続けようとする道徳的実践意欲を育てる。

5 板書計画（実際の板書）



6 学習過程

学習活動・内容 (◎中心的な発問・予想される児童生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価の視点
1 学習課題を把握する。 (1) アンケートの結果を振り返る。 ① 目標の達成に向けて頑張ることができる人のことをどう思いますか。 ・かっこいい ・尊敬 ・意思が強い ② あなたは目標の達成に向けて、頑張っていますか。 (2) 本時の課題を確認する。 目標の達成に向けて、頑張るために大切な気持ちとは何だろう？	5	○ アンケートの結果を全体で共有し、その結果に対する感想を出し合うことで、道徳的価値への導入を図る。 ○ アンケートの結果をもとに、理想と現実のギャップにふれ、本時の課題につなげる。
2 教材文の範読を聞く。 3 本時の課題について考える。 (1) 井上選手の気持ちを考える。 ○「世界一も確実だと誰もが思っていた。」時と、「いくら練習しても輝きを取り戻すことはできなかった。」時の井上選手はそれぞれどんな気持ちだったのだろう。 ・楽しい ・もっと強くなりたい ・もうやめたい (2)「初心」の意味を考える。 ◎井上選手のお母さんが贈った言葉の意味とは何だろう。 ・柔道を楽しんで ・がむしゃら ・最後までやり切ってやる (3) 井上選手の気持ちを考える。 ○表彰台で母の遺影を掲げたとき、井上選手はどんな気持ちだったのだろう。 ・ここまでがんばってよかった ・これからがんばるよ	10 28	○ 範読を聞く前に登場人物の紹介をし、あらすじを確認する。 ○ それぞれの場面での井上選手の気持ちを捉えさせることで、井上選手がおかれている立場の辛さを理解することができるようにする。 ○ 「井上選手は初心を思い出しただけで勝てたのだろうか」「他にどのような気持ちをもっていたのだろうか」といった補助発問をすることで、困難を乗り越えていく井上選手の気持ちに着目することができるようにする。 ○ 困難を乗り越えたときの井上選手の気持ちを考えさせることで、課題に対する考えをさらに深めることができるようにする。 ※ 登場人物の生き方について多面的・多角的に考えているか。(発言、記述)
4 本時の学習を振り返る。 (1) 自分の経験を振り返り、ワークシートに記入する。 (2) 教師の説話を聞く。	7	○ 本時の学習をこれまでの自分とこれからの自分を意識して振り返ることができるようにする。 ※ これまでの自分の経験を振り返りながら、生き方について考えているか。(記述) ○ 教師自身の体験を話し、本時の学習の振り返りの一助とする。

7 考察

自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫の視点から

(1) 「自己を見つめるための工夫」について

- ICTを活用して事前アンケートを実施したことで、学級の実態を事前に把握して授業に臨むことができた。
- 振り返りで「今までの自分とこれからの自分」を意識して振り返らせたことで、生徒の考えの変容を捉えやすいようにした。
- アンケートの質問②を「困難に直面したことがありますか。」や「困難に直面したときどうしますか。」とすることで、共感しながら導入から展開までスムーズにつながられたのではないかと考える。



<ICTを活用したアンケート提示>

(2) 「他者との関わりを通じるための活動の工夫」について

- 井上選手の気持ちを考える場面では、ペアや小集団で意見交流をさせたことで、多様な意見や考えに触れることができ、自分の考えをさらに深めることができた。
- 「個人で考えた上での意見交流」と「ペアや小集団で共有してからの自分の意見を考える」では、どちらが効果的であるのかは今後も検討していく必要がある。



<小集団での話し合い活動>

(3) 「考えを深めるための発問の工夫」について

- 井上選手の人生を折れ線グラフに表す活動をしたことで、井上選手のどの場面での心情について考えていくのが明確になった。最後の振り返りでは、井上選手の心情に寄り添った意見も出てきた。
- 中心的な発問に対する補助発問や問い返しの仕方を事前に多く考えておくことで、生徒の反応に応じて柔軟に対応することができた。
- 生徒の考えをどのようにつないで中心的な発問につなげていくのか、どのような問い返しをするとさらに考えが深まるのかといった教師のコーディネート力の向上が必要だと感じた。「道徳の礎（いしずえ）」や他の研究実践を参考にしていきたい。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

- ワークシートの記述のみの評価だけでなく、ペアや小集団での生徒の関わりを教師が見取り、一人一人のよさを価値付けられるように意識してきた。
- 事前アンケートで「目標の達成に向けて頑張ることがなかなかできない」と答えていた生徒が、学習活動を通して努力や諦めない心の強さをもつことの大切さに気づいていた。
- 蓄積された振り返りをどのように評価として残していくのかを今後も考えていく必要がある。



<振り返りの様子>

下郷町立柵原小学校第5学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和6年11月25日（月）第4校時

授業者：下郷町立柵原小学校 教諭 黒澤 大河

授業テーマ	登場人物の心の揺れを考えることを通して、相手の立場や気持ちを考えて行動する素晴らしさや見返りのない親切の大切さを理解し、誰に対しても温かい心で親切にしようとする心情を育てる授業
-------	--

- 1 主題名 親身な対応 B親切、思いやり
- 2 教材名 くずれ落ちたダンボール箱（出典 新版 みんなの道徳5 Gakken）
- 3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本指導内容は、高学年の内容項目「親切、思いやり」には、「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること」と示されている。他者とのかかわりの中で生活する上で大切なのは、人の喜びを共に喜び、人の不幸に共に涙し、人の苦痛に共に心を痛めるといった共感する心であり、これが人を思いやる心である。親切とは、本来、行為の相手を選んだり外的な報酬を期待したりするものではなく、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。そして、誰に対しても温かく接することが大切である。

（2）児童の実態（子ども観）

本学級は児童数16名の学級である。集団の中で生活しながら、各教科の授業や行事等に取り組み、相手に対する思いやりや親切な行為の大切さについて理解してきている。道徳科の授業では、思いやりや親切な行為のよさを指導するとともに、日常生活においても、児童の具体的な行動を取り上げ、「親切、思いやり」のよさについて励ましたり、確認したりしており、そのような指導を通して、学校生活においては、相手の立場に立って考え、行動することができるようになっている。しかし、公共の場における多様な人々に対しての親切や思いやりに関しては経験が少ないことが考えられる。

（3）教材及び指導について（教材観及び指導観）

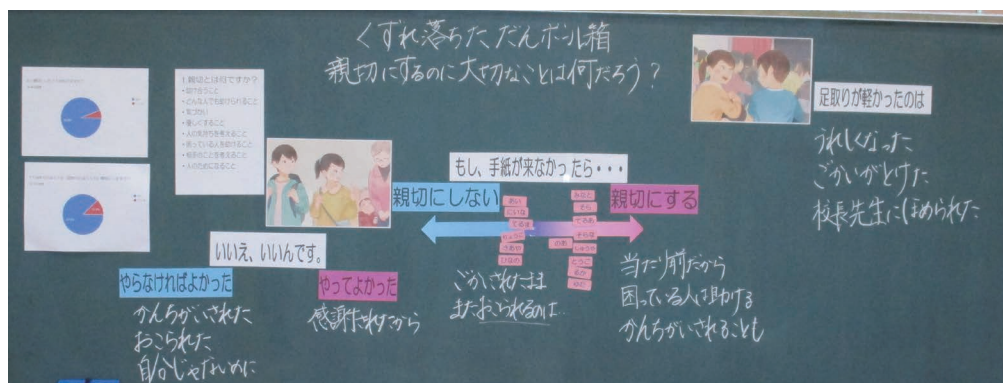
本教材は、おばあさんの孫が、店の段ボール箱の山を崩してしまい、困っているおばあさんの代わりに主人公等2人が片付けをする。事情を知らない店の人に叱られた後、戻ってきたおばあさんにお礼を言われる主人公の気持ちを考えさせていく。

指導にあたっては、主人公への自我関与を中心に学習を進めていく。おばあさんの立場を理解し、親切な行動を取った主人公の心情に目を向けさせたい。また、店の人に注意を受ける場面で主人公の気持ちを考えさせることにより、親切な行為の難しさやよさといった人間理解や価値理解について考えを深めさせたい。最後に、教材を通して、相手の立場を考え行動することは、お礼の有無に関係なくよい行為であることと、認められることによってより意欲が高まり、周りにもよい影響が広がることにも気付かせ、相手の立場に立って親切にしようとする道徳的心情を育てたい。

4 本時のねらい

困っているおばあさんの姿を見て段ボール箱の片付けを手伝った主人公「明日香」の心の揺れを考えることを通して、相手の立場や気持ちを考えて行動する素晴らしさや見返りのない親切の大切さを理解し、誰に対しても温かい心で親切にしようとする道徳的心情を育てる。

5 板書計画（実際の板書）



6 学習過程

学習活動・内容 (◎中心発問・予想される児童の反応)	時間	○指導上の留意点 ※評価の視点
1 本時の課題をつかむ。 (1) 事前アンケートの結果から問題意識を持つ。 ・ 親切にしたことはありますか ・ ほめられなくても親切にしますか (2) 本時のテーマをつかむ。 親切にするのに大切なことは何だろう？	5	○ 事前に実施したアンケートを活用し、児童の「親切」に対するイメージを共有し本時の学びに繋げる。
2 教材文を読んで考える。 (1) 「いいえ、いいんです」と言って立ち去った時、明日香は「やってよかった」と思ったか、「やらなければよかった」と思ったか。 やってよかった ・ おばあさんの役に立てたから。 ・ おばあさんが喜んでくれたから。 ・ ほめられたいからやったわけじゃないから。 やらなければよかった ・ 怒られたから。 ・ 納得できないから。 ・ 本当は倒したのは自分じゃないから。 ・ おばあさんに戻ってきて説明してほしかったから。 (2) 明日香の足取りがいつもより軽やかだったのはどうしてなのか。 ・ 店の人に分かってもらえてよかった。 ・ ほめられてうれしい。 ・ やっぱおばあさんを助けて良かった。 ・ 親切はよいことだ。 (3) ◎もし、手紙が来なかったら、明日香は今後親切にしようと思うか、しないと思うか。 親切にする ・ 相手のためにするものだから。 ・ 困っていたら助けたいから。 ・ ほめられなくても・・・。	25	○ 重要となる場面を確認し、内容をしっかり捉えられるようにする。 ○ 「やらなければよかった」という思いに触れることで、人間の心の弱さについて考えることができるようにする。 ○ 自分の考えがうまく伝えられなかったり、考えをもてなかったりする児童がいた場合には、ペアでの話合いの時間を効果的に設定して、友達との関わりから自分の考えを表出させる手立てとする。 ○ 自分の考えを伝える時には理由や根拠をもたせ、聞く時も相手の考えのもとになっているものが何であるのかを考えることができるようにする。 ○ 手紙が来なかった場合の明日香の気持ちを考えることで、親切に対する考えを深めることができるようにする。 ○ 手紙が来なかった場合の明日香の気持ちについて、心情メーターをもとに考えることで、友達と比べて自分の考えとの共通点や相違点を考えることができるようにする。 ※ 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすることの大切さに気付いているか。 (発言・記述)
3 自己を見つめ直す。 (1) これまでの自分を振り返る。 (2) 友達と振り返りを共有する。 ○ ペアで話をしてみましょう。 ○ 次にグループで話をしてみましょう。 ・ 自分と同じように考えている人がいる。 ・ こんな考え方もあるんだな。 ○ 5年生が親切にしている場面があったので紹介します。 ・ 自分も親切にしていたんだ。親切ってたくさんあるんだな。 ・ ほめられたいから手伝ったわけではないけど、紹介されてうれしい。	15	○ ワークシートに書くことで、これまでの自分を振り返り、親切に対する意識の高まりを実感できるようにする。 ○ 友達と振り返りを交流することで、さらに多様な考えに触れることができるようにする。 ※ これまでの自分を振り返りながら、思いやりの心をもち相手の立場に立って親切にすることの大切さについて考えを深めているか。 (記述) ○ 生活の様子を紹介することで、自分たちの周りにもたくさんの親切があることに気付くことができるようにする。

7 考察

自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫の視点から

(1) 「問題を自分事として捉える工夫」について

- 事前アンケートを実施することで「親切」に対するイメージを全体で共有し、本時の学びにつなげることができた。
- 「いいえ、いいんです」と言った時の主人公の気持ちを考えた際、「(親切な行いを) やらなければよかった」と答えた児童等に対し、「誰にでも親切にできる」と多くの児童が答えていたアンケート結果を再提示した。これまで自分の中にあった考えと、具体的場面での自分の考えにズレがあることに気付き、問題をより自分事として捉えることができた。



〈アンケート結果の提示〉

- 問題を自分事とすることができ、かつ学習の中でも生かすことができるようなアンケート内容の精選が難しい。

(2) 「他者の考えに触れ、物事を多面的・多角的に考える工夫」(発問・学習形態)について

- 「手紙が来なかったら？」という仮想の発問は、「親切」をさらに深く考える上で効果的であった。心情メーター(心の数直線)を用いたことで、児童は自身の心情や思考を「位置」に投影し、表現することで自分のことを客観視することができた。また、ペアやグループでの友達との話し合いを通して多様な考えに触れることができた。
- 児童の発言に対して「どう?」「今の〇〇さんの気持ち分かる?」など、他の児童に考えを広げる問い返しを行うコーディネートをすることで、友達と考えと自分の考えを関係付けた多様な価値観を引き出すことができた。



〈心情メーターの活用〉

- 一度ワークシートに記入してから、黒板の心情メーターにネームを位置付けたが、児童同士の重なりが目立ってしまった。数値として可視化し、児童同士の微妙な考えや思いのズレを生かせるようにしていきたい。

(3) 「自己を見つめ、考えを深める振り返りの工夫」について

- 振り返りの時間を十分に確保したことで、本時の学びとこれまでの自分についてじっくり振り返ることができた。また、ペアやグループで振り返りを交流することで、さらに多様な考えに触れることもできた。
- 日頃の学校生活の中で教師が見取った児童の親切の場面の写真を紹介したことで、自分たちの周りにもたくさんの親切があることを実感することができた。また、導入のアンケートで「親切にしたことがない」と答えた児童の写真を紹介したことで、「親切だとは気付かなかったが、自分も親切にしていた。」と気付くことができた。



〈振り返りの交流〉

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

- 児童が考えたこと、振り返ったことが記載されているワークシートから、教師は児童の気付きや成長を些細な事でも見取り、称賛するコメントを入れたり、声かけをしたりしてきた。また、毎時間、ワークシートと板書の写真をファイリングして蓄積することで、道徳科における自分の学びを振り返ることができるようにしてきた。
- 児童の道徳的成長を、教師だけでなく、児童同士が認め合うことができるよう、友達が聞いてくれる、受け入れてくれるという安心感のある学級づくりに努めてきた。
- 考えを文章に表すことが苦手な児童もいることから、そのような児童には、振り返りの際に声をかけ、文章にできない思いを汲み取り、評価につなげていきたい。

いわき市立中央台東小学校 第4学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和6年11月28日(木) 第3校時

授業者：いわき市立中央台東小学校 教諭 関根知佳

授業テーマ	自分で考えて、度を過ごすことなく規則正しい生活をしようとする心情を育むことができる授業
-------	---

- 1 主題名 自分で考え、決めたこと A 節度、節制
- 2 教材名 「目ざまし時計」 (出典：新編 新しい道徳4 東京書籍)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について (価値観)

内容項目「節度・節制」は、「自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする」とされている。この内容項目には二つの要点が含まれている。一つ目は、基本的な生活習慣に関することである。基本的な生活習慣は、人間として最も基礎的かつ日常的な行動の在り方であり、充実した生活を送る上で欠くことのできないものである。二つ目は、進んで自分の生活を見直し、自分の置かれた状況について思慮深く考えながら自らを節制し、程よい生活をしていくことである。自己の確立にとって、自分を客観的に見つめ、現状を内省することは必要不可欠である。また、これは自分や他の人の快適な生活を守ることにも大いにつながっていることを自覚できるようにする必要がある。

(2) 児童の実態 (子ども観)

本学級の児童は25名で、活発で元気な児童が多い。児童は、基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて理解はしてきている。また、休み時間と授業中とのメリハリをつけて節度のある生活を意識するようになってきた。一方で、自分のやりたいことを優先してしまい、やらなければいけないことは分かっているがつい後回しにしてしまう児童や、周囲に流されて過ごしてしまう児童が多い。このような実態から、自分で自分のことを考えて生活しようとする大切さを考えられるようにしたり、自らの生活について振り返ったりする必要があると考える。

(3) 教材及び指導について (教材観及び指導観)

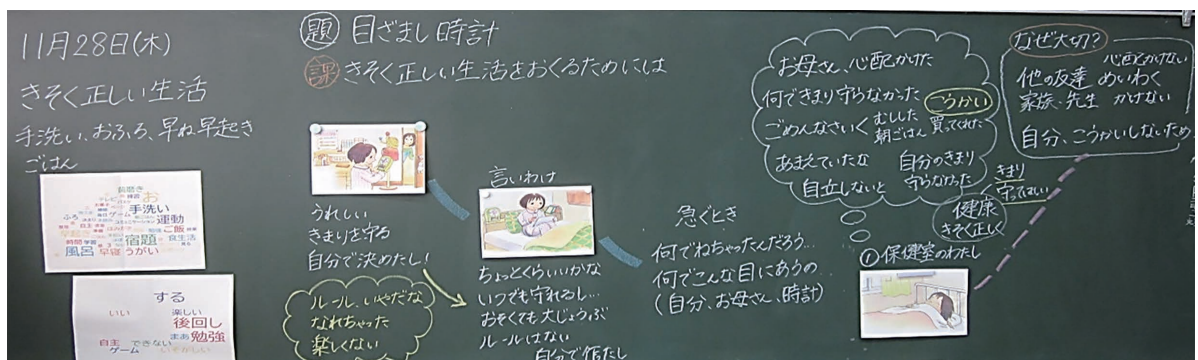
本教材は、主人公の「わたし」が進級祝いにもらった目ざまし時計をきっかけに「わたしのきまり」を作るが、徐々に守れなくなり、寝不足のために全校朝会で気分が悪くなってしまうという内容である。この「わたし」のような状況は、4年生のこの時期によく見られる。

指導にあたっては、自分で決めた「わたしのきまり」を守らなくなっていった時の心情から、「わたし」の葛藤したり揺れ動いたりする気持ちを捉えさせたい。また、保健室のベッドで目をつむっている「わたし」の気持ちを多面的・多角的に考えさせ、自らを節制し、規則正しい生活をするものの大切さに気付かせ、日常生活での行為として現れるように工夫したい。

4 本時のねらい

自分で決めたきまりを守らなくなっていった「わたし」の思いについて話し合うことを通して、自分で考えて、度を過ごすことなく規則正しい生活をしようとする道徳的心情を育む。

5 板書計画 (実際の板書)



6 学習過程

学習活動・内容（○発問・予想される児童の反応）	時間	○指導上の留意点 ※評価の視点
1 本時の学習課題をつかむ。 (1)「規則正しい生活」についての経験を想起する。 ○ 規則正しい生活ができているか？ ・できている ・がんばろうとは思っているけれど・・・ (2) アンケートの結果を見て、学級の実態を共有する。 (3) 課題をつかむ。 規則正しい生活をおくるためには	5	○ 2学期のめあてなど、日常の生活について問いかけることで、自分の生活に意識を向けることができるようにする。 ○ 事前アンケートで聞いた、規則正しい生活についての結果を学習支援アプリで提示し、視覚的にとらえやすくする。
2 「目ざまし時計」を読んで考え、話し合う。 (1) スライドショーの範読を聞き、話の内容を理解する。 (2)「わたし」の心情を考える。 ○ 「もう少しぐらいいいじゃない」と自分に言い訳をしたときの「わたし」はどんな気持ちだろう。 ・まだ動画を見たい。 ・起きられるかな。 ・このくらい大丈夫。 ○ 学校へ急ぐ「わたし」は何を思っているだろう。 ・何で起こしてくれないの。 ・お母さんが悪い。 ・遅刻しちゃう。 ◎保健室のベッドで「わたし」は目をつむりながらどんなことを考えていただろう。 ・お母さんじゃなくて自分のせいだ。 ・家に帰ったらちゃんと謝ろう。 ・寝坊したのは決まりを守れなかったからだ。 ・自分が悪かったな。	25 (5) (4) (4) (12)	○ 範読に入る前に2枚目までの挿絵を見せることで、内容に関心をもてるようにする。 ○ 目ざまし時計をもらった時の気持ちや「わたしのきまり」を作ったことにも触れて、「わたし」の気持ちを考えられるようにする。 ○ 「わたし」の気持ちの変化を黒板に線で表し、視覚的にも変化が読み取れるようにする。 ○ 全員が自分の考えを話すことができるよう、全体で話す前にグループで考えを聞き合う時間を設ける。 ○ 「わたし」の気持ちを想像しやすくするために、実際に目をつむって「わたし」の行動を振り返る活動を取り入れる。 ○ 友達の多様な考えに触れて多面的・多角的に「わたし」の思いを考えられるよう、ワークシートへの記入が終わった児童から、自由にペアを組んで話すよう伝える。 ○ 謝ろうと考えた児童には、「何に対して謝るのか」を問い返し、「わたし」の心情をより具体的に考えられるように促す。 ※ きまりを作った時の「わたし」と、実行できなかった時の「わたし」の気持ちを比較し、規則正しい生活をする事の大切さと難しさについて考えているか。 (発言・記述)
3 自分の生活を振り返る。 (1) 規則正しい生活はなぜ大切なのかを考える。 ・健康のため ・自分のため ・気持ちよく生活するため (2) 本時を振り返り、自分の生活について見つめ直す。 ・毎日早寝早起きができていたから続けようと思う。 ・忘れ物をたまにになってしまうことがある。夜のうちに連絡帳を確認するようにしたい。 ・休み時間には毎日外に出て運動をしたい。	10 (5) (5)	○ 規則正しい生活はなぜ大切なのか、全体で意見を整理することで考えを深められるようにする。 ○ 事前アンケートを再度取り上げることで、規則正しい生活についてこれからのことも踏まえながら、幅広く考えられるようにする。 ※ これまでの自分の生活を振り返りながら、規則正しい生活をする事について自分の考えを深めているか。(発言・記述)
4 友達の行動を紹介して、規則正しい生活のよさについて考える。	5	○ クラスの友達の具体的な行動について紹介し、規則正しい生活について考えられる時間をもって、授業を終える。

7 考察

自己を見つめ、深い学びを実現する道徳科授業の工夫の視点から

(1) 「教材への自我関与」について

- 導入で、規則正しい生活についてのアンケート結果を示したことで、児童が普段の自分の生活について振り返り、本時の授業に対する関心を高めることができた。
- 児童が記入した2学期のめあてや、キラリの森のカードなどを提示することで、自分達の生活と関連づけて考えることにつながった。
- 教材と同じく、実際に目をつむって静かに考える時間をとることで、主人公の気持ちが想像しやすくなり、その後のワークシートの記入をスムーズに行うことができた。
- 「自分は遅くまでゲームをしている」と発言した児童がいたが、なぜやっているのかを聞くと、もっと自分事として身近に感じられたと考える。



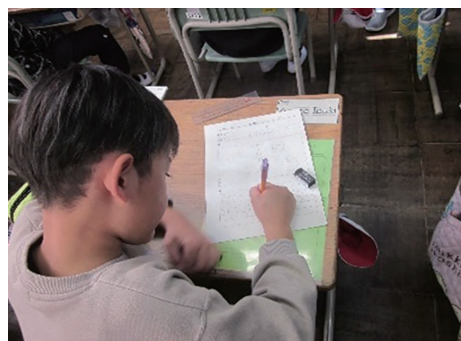
〈アンケート結果の共有〉

(2) 「多面的・多角的な話し合い」について

- 主人公の規則正しい生活への気持ちの変化を可視化できる板書にしたことで、気持ちの変容が理解しやすくなり、多面的・多角的な話し合いにつなげることができた。
- 主人公の気持ちだけではなく、母の心情についても問うことで、視野を広げて多面的・多角的に考えることにつながった。
- 発表について、考えをつなげていくことができるように、「今の発表に対してどう思うか」と問うなど、コーディネート仕方を工夫していきたい。

(3) 「自己を見つめる」について

- 導入での、規則正しい生活についてのアンケートに再び触れることで、自分の実生活を思い返して、できていることやできていないことを一人一人が深く考えることにつながった。
- 終末で、規則正しい生活をしている児童の保護者からのインタビューを提示することで、一人一人が自分の生活を振り返り、見つめ直すことにつなげることができた。



〈振り返りの記入〉

一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

- ワークシートには、箇条書きや吹き出しなど、それぞれの書き方で自分の考えを表現しようとする姿が確認できた。また、友達と意見を伝え合うときには、相手の考えにうなずいたり拍手をしたりするなど、様々な考えを理解しようとしていた。
- 振り返りでは、「だんだん規則正しい生活ができなくなっていることに気がついたから、自分の生活を見直していきたい」、「早寝早起きができているから続けたい」など、自分の生活を想起しながら考えることができていた。学校生活の中でも、普段の児童の様子を見取り、小さな事でも認めて励まし続けていきたい。
- 授業を通して、児童が自分自身との関わりで考えたことや、多面的・多角的に考えたことについて意味付けたり価値付けたりすることができるような教師の言葉かけをさらに工夫していきたい。

本宮第二中学校第1学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和6年11月27日（水）第4校時

授業者：本宮市立本宮第二中学校 教諭 佐藤智貴

授業テーマ	自分たちの取り組んでいる活動が学校を支えている大切なものであることを自覚し、よりよい校風を築いていこうとする心情を育てる授業
-------	--

- 1 主題名 母校の誇りを胸に Cよりよい学校生活、集団生活の充実
- 2 教材名 いま新しき力あふれて（出典：ふくしま道徳教育資料集 第I集）
- 3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本主題は、「教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。」をねらいとしている。中学生の時期は、学級や学校などの様々な集団の中で、人と関わりながら人間的な成長を遂げるのによい時期である。自分のことだけを考えて行動しがちな中学生が、学校に対する愛着や誇りをもち、属する集団の在り方を理解し、役割と責任を自覚して自分勝手な考え方や行動を慎み、協力し合いながら学校や仲間を大切にしていこうという思いを高めていけるようにすることが重要である。

（2）生徒の実態（子ども観）

本学級では、委員会活動や係活動以外に、学級に必要な当番活動がある。生徒は、学級の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい学級をつくっていくための自分の責任と役割を自覚して活動している。

本学級の生徒は、東日本大震災発生年に生まれた。そのため、家族の話や映像でしか震災を知らない生徒たちである。また、東日本大震災で学校が直面した困難な状況乗り越えた先輩から受け継ぐ「無言清掃・感謝清掃・自主清掃」について、なぜこの清掃に取り組むのか分からない生徒、責任や役割の意味を見いだせない生徒も見受けられる。

（3）教材及び指導について（教材観及び指導観）

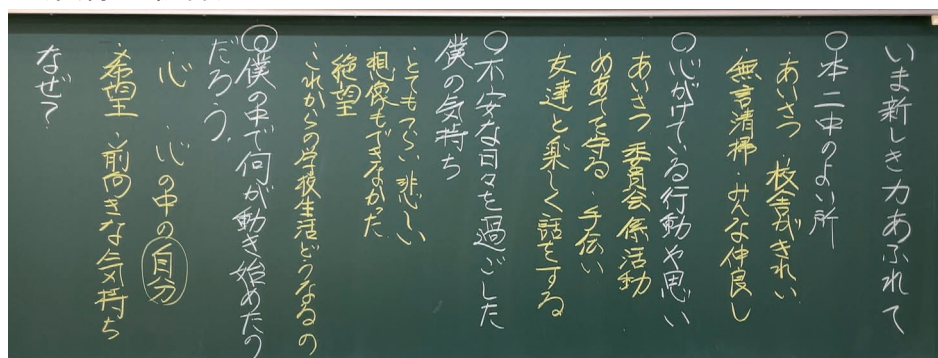
本教材は、東日本大震災を経験した中学二年生の作文が基になっているものである。地震による校舎倒壊、原発事故等による困難で制限された生活の中から、「命」は「時間」であることを知り、前向きに生きることの大切さや学校の存在意義について考えることのできる教材である。本校はこの教材の舞台となった中学校である。東日本大震災で学校が直面した困難な状況乗り越えていこうとする先輩の姿から、「校舎を大切にすること」を風化させずに学校に対する愛着や誇りをもち、よりよい校風を築いていこうとする心情を育てたい。

指導にあたっては、導入場面で、自校のよさを考え、自分が学校や学級のために心がけている行動と意思を振り返り、ねらいとする価値への方向付けを図る。展開場面では、二重にも三重にも自由を奪われ、言葉にできない不安な日々であった震災後の困難な状況を感じさせつつ、「僕の中で何が動き始めたのだろう。」という発問を用いて、先輩方が困難を乗り越えられた原動力となる思いに気付かせたい。また、先輩方が困難を乗り越えてきた過程やその気持ちにも触れることで、学校に対する思いについて考えていく。さらに、再度自校のよさと、これまでの自分が学校や学級のことを考えて行動していたかを振り返ることで、これから大切にしていきたい思いについて考えることができるようにする。

4 本時のねらい

「僕」の中で動き始めたことについて考えることを通して、自分たちの活動が学校を支えている大切なものであることに気づき、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくろうとする道徳的心情を育む。

5 板書計画（実際の板書）



6 学習過程

学習活動・内容 (◎中心発問・予想される児童の反応)	時間	○指導上の留意点 ※評価の視点
1 よりよい学校生活や集団生活の充実について考える。 ○ 本宮二中のよさとは何だろう。 ・ あいさつ ・ 無言清掃 ○ 自分が学校や学級のために心がけていることは何だろう。 ・ あいさつ(学校を明るくする) ・ 委員会活動(仕事だから)	5	○ 自校のよさについて考え、その理由や経験についてペアで話し合った後、全体で共有できるようにする。 ○ 学級や学校のために心がけている行動とそこに込められている思いについて想起することで、道徳的価値について自分事として捉えることができるようにする。思いつかない場合は、学級の当番活動にどんな思いで取り組んでいるのかを問う。
2 校舎引き渡しの動画を視聴する。 3 教材「いま新しき力あふれて」を読んで考える。 ○ 二重にも三重にも自由を奪われ、言葉にできない不安な日々を過ごした僕はどんな気持ちだったのだろう。 ・ 明日学校に行けるのかな。 ・ 部活できるのかな。 ・ もう友達に会えないのかな。 ◎ 僕の中で何が動き始めたのだろう。 ・ 時間 ・ 頑張る気持ち ・ 感謝 ・ やる気(血) ○ 困難を乗り越えた先輩たちは、どんな気持ちだったのだろう。 ・ すがすがしい気持ち ・ 自信に満ちあふれている	10 23	○ 教材を読む前に、震災時の動画を視聴することで、様々な苦労があったことを捉えることができるようにする。 ○ 教材の内容と映像資料を重ね合わせることで、自校の生徒の体験であることに気づき、震災後の困難な状況下にある僕に共感して気持ちを考えることができるようにする。 ○ 震災当時と現在を比較することで、当たり前のように生きていることが、当たり前ではないことに気付くことができるようにする。 ○ 中心発問の前に日野原先生の言葉に触れることで、動き始めたことについて具体的に考えることができるようにする。 ○ ペアで交流した後、全体で共有する。 ※ 僕の中で動き始めたことについて、友達の考えと比べながら、自分の考えを深めているか。(記述・発言) ○ 補助発問として「なぜ動き始めることができたのか。」理由を問うことで、自分には動き始める環境があることに気づき、自分が誰かに支えられていることや支えていることに気付くことができるようにする。 さらに、「自分のことで精一杯で、それどころではないのではないか。」と揺さぶることで、困難を乗り越えることの大切さに気付くことができるようにする。 ○ 発問する前に本校の校歌を流すことで、学校に対する愛着や誇りを感じることができるようにする。
4 自分を振り返って考える。 ○ 本宮二中のよさとは何だろう。 ・ 学校を活性化させるあいさつ ・ 校舎を大切にすること(無言清掃) ○ 学校や学級のことを思って行動することができた経験と思い、できなかった経験と思いについて振り返ろう。 ・ あいさつはしていたが、学校をよくしたいとは思っていなかった。 ○ 学習を振り返り、学んだこと、考えたことを書こう。 5 教師の説話を聞く。	10 2	○ 困難を乗り越えた先輩方の気持ちや学校に対する思いについて触れた上で、再度自校のよさと、その理由について考えペアで話し合った後、全体で共有できるようにする。 ※ これまでの自分が学級や学校の一員としての自覚をもって行動していたか、自分の生活を見つめ、振り返りながら考えているか。(記述・発言) ○ 集団の中で自分の責任を自覚して活動した教師自身の経験を話し、集団生活の充実について考えを深める。

7 考察

「ふくしま道德教育資料集」の活用の視点から

(1)「考えを深める補助発問」について

T:「僕の中で何かが動き出した」とあるけれど、
何が動いたのかな。
C: 希望 魂 心 心臓
T: どうして動き出したのかな。
C: 使える時間を大切にしようと思ったから。
T: 自分のことで精一杯で、それどころじゃない
のでは。みんなだったらどう。



〈考えを交流する姿〉

- 生徒の考えを揺さぶる発問で、「僕」に共感しながら何かが動き出すときの思いについて、一人一人の考えを深めることができた。
- 補助資料として、地震で壊れてしまった校舎や、体育館を間仕切りして活用している様子、新しい校舎が完成した時の様子を収めた動画を活用した。また、中心発問に関わる日野原重明先生の言葉を掲示し、視覚的に捉えられるようにしたこと、生徒は動画の内容や日野原先生の言葉を関連付けながら中心発問について自分の考えをもつことができた。
- 深い学びにつながる生徒の考えについて、「〇〇さんの考えについて、みんなはどう思うか。」等と問い返して全体で共有し、この考え方について話し合うことで、ねらいとする道德的価値について、一人一人の自分の生き方についての考えを深めることができたと考える。深い学びにつながる生徒の考えを見取り、他の生徒とつないでいくコーディネート の在り方について考えていく必要がある。

(2)「自己を見つめる振り返り」について

- 授業前にアンケートで聞いた質問を授業終了後にもう一度聞くことで、学びを通して自己を見つめ直した結果を振り返りに記入する生徒が多かった。

〈生徒の振り返り〉より

- ・ 学校のことを授業で学んで、改めてよいところがたくさんあることが分かった。先輩たちが大切にしてきた校舎を私をもっと大切にしていきたいし、後世に残していきたいと思った。
- ・ 最初は二中のよいところはあいさつや清掃だけだと思っていたけれど、今日の学習で、二中は地域や先輩たちの努力があって守られてきた学校なのだと思った。

- 生徒一人一人が自己を見つめるための振り返りの時間が短くなってしまった。教材文が長く、内容理解に時間がかかってしまうことが多いので、生徒が一読で教材の内容を把握できるようにするための工夫が必要である。また、ねらいに迫るために必要な発問を精選することで振り返りの時間を確保できるようにしたい。



〈自己を見つめる姿〉

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

- 生徒の道德性を育むために、道德科の授業で完結するのではなく教育活動全体で行う道德教育が重要である。日常生活や様々な教育活動における生徒の姿を見取る視点があったので、道德科の学習と結び付けながら機を逃さず励ましていきたい。
- 自分の考えを表現することが苦手な生徒については、授業の中で表出される姿にも着目して評価していく必要がある。

福島県立湖南高等学校第3学年 ホームルーム活動（3）指導の実際と考察

日 時：令和6年10月17日（木）第6校時
授業者：福島県立湖南高等学校 教諭 半澤拓真

授業テーマ	困難の中でも自分を見失わず、社会の一員としてどのように振る舞えばよいかを考える授業
-------	---

1 題材名 困難の中でも前向きに生きる

2 題材について

（1）生徒の実態

男子11名、女子5名の16人の学級である。この時期は、自己探求と自己実現に努め、社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあるといえるが、全体的に精神面での幼さ、未発達な部分を感じられる学級である。本学級は、少人数でクラス替えもない3年間でじっくり成長を積み重ねられた部分もあるが、多様性を受け入れる柔軟な人間関係の構築はできていない。一方で、慣れ親しんだ関係のため、協働活動や発表に対して活発に取り組むことができる。

（2）題材設定の理由について

生徒たちは、卒業後、それぞれの進路で、新しい人間関係を築くとともに新しい集団で過ごしていくことになる。今、目の前の生徒一人一人にとって、よりよい人間関係の形成や社会連帯の自覚を高め、主体的に社会の形成に参画する意欲や態度の育成が必要だと感じ、今回の授業を設定した。

本時で扱う教材は、ハンセン病の疑いをかけられ、失望の中でも、看護婦として患者の救済に尽力した井深八重の伝記「もう一人の八重」（ふくしま道徳教育資料集【高等学校編】絆より）である。中学校道徳科の内容項目「B思いやり、感謝」「Dよりよく生きる喜び」との関連を図りながら、生徒一人一人の意思決定につなげることをねらいとしている。

八重の姿から、逆境の中でも前を向く大切さ、人のために生きようとする素晴らしさに気付かせたい。また、身近な人の苦労や困難を想像し、その人との関わりを振り返ることで、想像力や思いやりの精神を育てる。人はそれぞれが様々な困難の中で生きていることに思いを巡らせ、どのような状況であっても、自分のことばかりではなく、他を思いやることで社会が成り立っていることに気付かせたい。そして、今後社会の一員となるにあたって、これまでの自分に足りなかった配慮や、一社会人としてあるべき姿を考えてほしい。

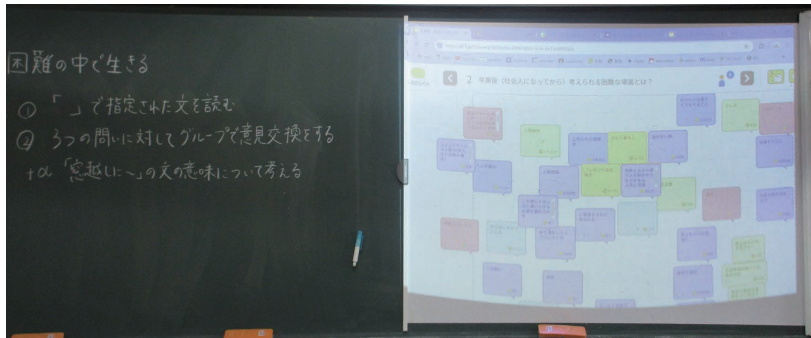
3 題材の評価の観点と評価規準

観 点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していくことの意義や現在の学習と将来の社会とのつながりを考えるために必要な知識及び技能を身に付けるようにする。	主体的に学習に取り組み、働くことや社会に貢献することについて、適切な情報を得ながら考え、自己の将来像を描くとともに、課題について自ら意思決定をすることができるようにする。	他者への尊重と思いやりを深めてよりよい人間関係を形成しようとしたり、自己の課題解決に向けて悩みや葛藤を乗り越えながら主体的に取り組もうとしたりする。

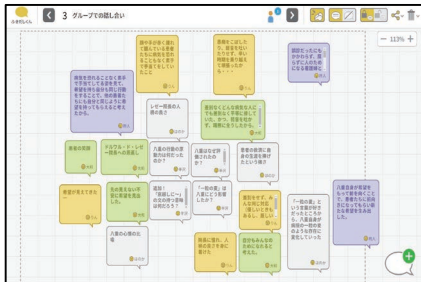
4 本時のねらい

井深八重や身の回りの人の困難を想像し、その人たちの振る舞いについて考える活動を通じて、困難の中でも社会の一員としてよりよい集団をつくるためには、どのように振る舞えばよいかを意思決定することができる。

5 板書計画（実際の板書）



黒板とデジタルボードの板書計画



3 グループでの話し合い

＜グループでの話し合い＞

6 学習過程

学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される児童生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
1 これまでの人生で、最も困難であった状況をボードに書き出す。 ＊「ふきだしくん」を使用。	3	○ グループごとに付箋を色分けする。自由な発想で意見を出せるように、出てきた付箋は教師がカテゴリー(生徒はこの時点では知らない)ごとに配置を整理する。
2 どのように対処したかを含めてグループで共有する。ボード上の付箋を見て、自分ならどうするか意見交換をし、その後クラス全体に共有する。	5	○ 逃げた経験があれば、それも素直に共有できるように促す。自分ならどうするかという視点で意見交換することによって、自分事として考えることができるようにする。
3 ボードに、卒業後に考えられる困難を書き出す。	3	○ これまでの進路活動の経験も踏まえ、素直な思いを共有できるようにする。
4 本時のテーマを確認する。	1	
5 教師によるハンセン病についての説明とストーリーの概要を聞く。	5	○ 当時の捉え方と、現代医療の下での捉え方をしっかり区別して伝える。
6 本文を各自で読み、以下の問いについてグループで話し合い、ボードに書き込む。 ○ 八重はなぜ評価されたのか。 ◎ 八重の行動の原動力は何だったのか。 ○ 「一粒の麦」という言葉は、八重にどんな影響を与えたか。	15	○ 3つの問いについて、グループで話し合いボードに書き組む際に、生徒それぞれの進行状況や理解力に応じて取り組めるように、発問の1つ「『窓ごしに空を見上げると、厚い雲の間からひとすじの光が射すのが見えました。』の文の持つ意味は何だろう」を任意のオプションとして設定する。
7 クラスで意見を共有する。	5	○ グループで共有できたことを踏まえて、さらに全体共有することで、考えを深めることができるようにする。
8 ルーブリックを活用し、本時の内容を振り返る。	5	※ 湖南高校ルーブリック
9 3で書き出した困難に対して、どう向き合うべきか、ボードに書き込み、意思決定につなげる。	5	※ 自身の今後に生かせるかたちにまとめているか。
10 テーマを確認し、まとめる。	3	○ 自己犠牲や困難を無視することを強要するものではないことに注意することができるようにする。

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

(1) 授業のねらいに即した教材選定について

- 震災関連の題材はこれまでの教育活動の中でも触れているので、授業の展開を予測されないように、敢えて震災関連ではない題材を選択した。導入の部分で大河ドラマ「八重の桜」で広く知られるようになった新島八重を紹介したこともあり、タイトルの「もう一人」という部分に興味を持ちながら読み進めることができた。

(2) 生徒の実態に応じた教材の提示について

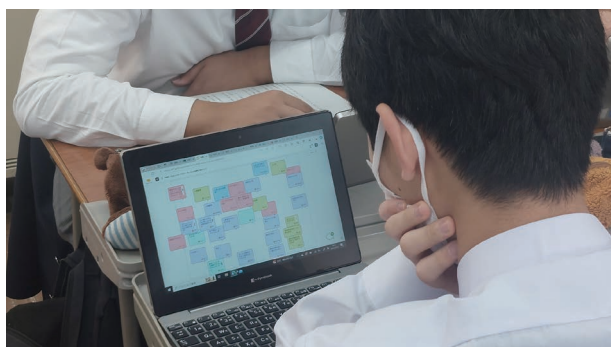
- あらかじめ教材文の読む範囲を指定したり、ハンセン病や当時の社会背景について補足説明を行ったりしたことで、思考や意見交換に時間を確保することができた。
- 教材文の読む範囲を限定したことで、八重の心情や境遇の変化を十分に感じ取るができなかった生徒もいたと考えられる。時間の捻出には有効であるが、完成された教材を切り取る際の範囲やリスクについて、更に十分に検討するべきだと感じた。



〈グループで意見交換している場面〉

(3) よりよい意思決定に向けた学習活動について

- 就職活動に区切りがついた生徒が大半であったため、卒業後の進路や将来について考えている時期であり、導入の「卒業後に考えられる困難は？」という発問は生徒に内在する不安や疑問と自然な形で繋げることができた。また考えられる困難について全体で共有することによって、それらに素直に向き合うことから授業を開始することができた。



〈ICTを有効活用し意見共有している場面〉

- 3つの問い（学習過程6）をグループで話し合えるようにしたが、生徒それぞれの進行状況や理解力に応じて取り組めるように、発問の1つ「『窓ごしに空を見上げると、厚い雲の間からひとすじの光が射すのが見えました。』の文の持つ意味は何だろう？」を任意のオプションとして設定した。話合いの活動の中での扱いは各グループの判断に任せたが、取り組んだ生徒にとっては、その問いについて、深める活動が不十分となってしまったため、クラスで共有する時間の中で、その問いについて考えた生徒の声を吸い上げ、取り組めなかった生徒も含め、全体に還元する流れが必要であった。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

- ルーブリックの活用によって、生徒一人一人の意見を受け取ることができたので、授業後に生徒一人一人に認め励ます声をかけることができた。
- 授業の終末場面で、生徒が記入したルーブリックの中から、教師が意図的に生徒の声を拾い上げ、全体に共有することで、生徒の理解も更に一段階深まり、また取り上げられた生徒の自己肯定感の向上にも繋がられたと思う。

白河市立東北中学校第3学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和6年11月29日（金） 第5校時
授業者：白河市立東北中学校 教諭 深澤 涼耶

授業テーマ	生徒自らが立てた問いを始点に考えを広げ深めることで、感謝することの大切さや難しさなどを主体的に考え、自身にできるかたちで感謝を伝えていこうという道徳的实践意欲を育む授業
-------	--

- 1 主題名 周りへの感謝 B 思いやり、感謝
- 2 教材名 塩むすび（出典：ふくしま道徳教育資料集 第I集）
- 3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本主題は、学習指導要領「特別の教科 道徳」内容項目「思いやり・感謝」をもとに設定したものである。感謝の心は、他者から受けた思いやりに対する人間としての心の在り方であり、人間は互いに助け合い、協力し合って生きている。その関係を根底で支えているのは、互いの感謝の心である。感謝の念を抱くのは他者の思いやりにふれ、それを有難いと感じ、素直に受け止めたときである。自分が現在あるのは多くの人々によって支えられてきたからであることを自覚させたい。

（2）生徒の実態（子ども観）

在籍生徒数21名の明るい雰囲気のある学級であり、思いやりをもち友人に温かい言動を行うことができる生徒が多い。一方で、特に家族など身近な人から受けた思いやりを素直に受け止められず、時に反抗的な態度をとりがちな年齢である。当たり前のように送っている何気ない日常の中でも、周りの人からあたたかい思いやりや支えを受けていることを自覚できる機会が少ない。3月に中学校卒業を控える今、周りの人への感謝の気持ちについて改めて考えることは大変意義深いことであると考えている。

（3）教材及び指導について（教材観及び指導観）

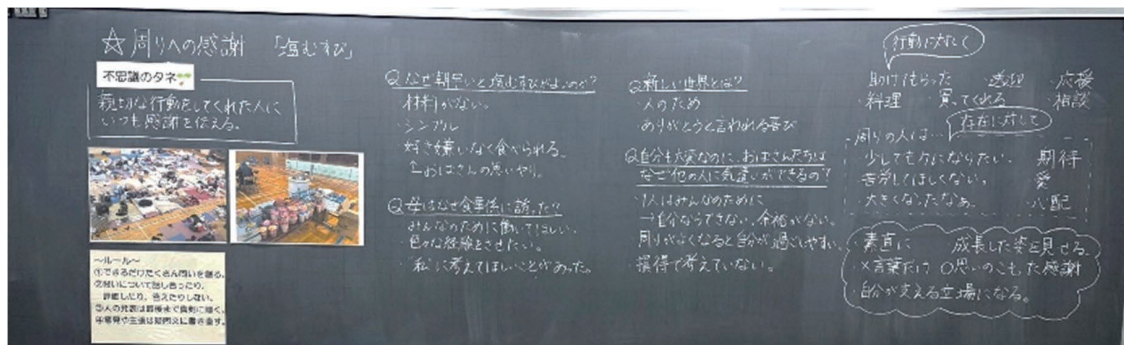
本教材は東日本大震災から2ヶ月、避難生活が続ける主人公「私」が、母に促されて、避難者のためにおばさんたちと一緒に炊きたてのご飯で塩むすびを握るという内容である。この経験から、今まで気づかなかった他者との関わりの深さや温かさを知り、周りの人々に支えられて今日の自分があることに感謝の念を抱く「私」の心の変容が描かれている。指導にあたっては導入で問題意識をもたせ、展開前半には生徒自身の問いを用いる問題解決的な学習を行う。生徒自身の問いについて他者と協働しながら多面的・多角的に、より主体的に課題を解決しようとすると考えている。展開後半では問いについて学級全体で考える活動を通して感謝についての考えを広げ、深めさせて日頃の感謝を伝えていく道徳的实践意欲を育む機会にしたい。

※不思議のタネ（板書計画左側参照）とは、生徒自らが抱く問いを引き出し、めあてへとつなげる教師の問いのことである。この手法を用いることで、生徒全員が本時のめあてに自我関与でき、その後の主体的な授業へとつなげることができる。

4 本時のねらい

多くの人々の道徳的善意や支えにより日々の生活や自分があることに感謝し、それに応えようとする道徳的实践意欲と態度を育てる。

5 板書計画（実際の板書）



6 学習過程

学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される児童生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価の視点
1 本時の学習テーマをつかむ。 (1) 感謝についての事前アンケート結果を知る。 ・ 普段感謝を伝えられているか？とその理由 (2) 学習テーマを把握する。 親切な行動をしてくれた人にいつも感謝を伝える。	5	○ これまでの考え方を改めて認識させて本時の学習内容への課題意識をもつことができるようにする。 ○ 「不思議のタネ」と題する学習テーマと、学習を進める上でのルールを提示する。
2 教材文を読む。 (1) 教材を読み内容を理解する。 (2) 学習テーマをもとに問いを立てる。 ・ なぜ母は食事係に誘ったのか。 ・ 新しい世界とは何か。 (3) 問いを共有し考えを深める。 ・ 私を成長させたいという母の愛情。 ・ ありがとうと言われる喜びがあるから他人のために頑張れる。 (4) 自己を振り返る。 ◎周りの人がどのような思いで接してくれているのか考える。 ・ 将来自立できるようになってほしい。 ・ 悩みがありそうで心配。 ・ 健康で過ごしてほしい。	35	○ 避難所の様子の写真を提示し震災当時の状況を理解できるようにする。 ○ 問いを立てられている生徒の考えを紹介し、新たな視点をもてるようにする。 ○ 異なる考えや新たに浮かんだ問いなどをワークシートにメモするよう伝える。 ○ 生徒自身は周りの行動に対してしか感謝していなかったが、周りの人は存在していること自体に思いをもって接してくれていることに気づくことができるようにする。 ○ 子どもの成長を見守る大人目線で描かれた映像を視聴させることで、支えてくれている周囲の人の思いについて理解を深めさせる。 ※ 支えてくれている周囲の人の思いに気づき、自分事として考えようとしているか。(発言・記述)
3 自己を見つめる。 (1) 周りの人の思いや支えに対してあなた自身はどのような思いをもって応えていきたいか考える。 ・ 素直な気持ちで感謝を伝える。 ・ 共に支え合いたい気持ち。 ・ 将来自分が支える立場になる。 (2) 教師の説話を聞く。	10	○ 話合いの中で出た様々な意見を踏まえて、生徒自身が自分の生き方について考え方を見つめることができるようにする。 ※ 感謝についての考えを広げ、深めているか。(記述) ○ 教師の説話を聞くことで、感謝することの大切さやよさを感じ、実践意欲を高めることができるようにする。

7 考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

(1) 「自己を見つめるための工夫」について

- アンケート結果を提示したことで、主題である「周りへの感謝」について視点が定まった。
- 震災に関する資料を活用したことで、普段の生活で当たり前だと思っていることが実は当たり前ではないことに気づくことができた。
- 道徳的諸価値を実現することの良さは理解できているが、実現できない自分との葛藤からもっと問題意識を高めさせたかった。アンケートの質問から課題につなげるための発問をもっと精選していく必要がある。



< I C Tを活用したアンケート提示 >

(2) 「他者との関わりを通じるための活動の工夫」について

- ペアやグループに固執せず自由に動いて意見を交換させることで、他者の価値観を知ろうとする姿が見られた。その後に全体で共有しさらに様々な価値観に触れられるように意識した。
- 「愛」という言葉が出たときに、同じ「愛」で終わってしまったが、人によって愛の考え方が違うことを気づかせる手立てに課題があった。その結果、本人でも気づいていない内面的な変容に気づくことができたと考えられる。



< 自分の考えをまとめている姿 >

(3) 「考えを深めるための発問の工夫」について

- 疑問形でたくさん問いを作ることによって生徒が批判的な思考で物事を考えることができるようになってきている。また、疑問を解決していく過程で新たな疑問が生まれ、その疑問を解決していくことで考えがさらに深まるようにコーディネートすることができた。
- 問いを共有し全体で教師と生徒、生徒同士で対話を重ねていくことで、多面的・多角的な見方から、自らの考えをもつことができていた。
- 自ずと生徒が自分を重ねて考えることのできるテーマ（不思議のタネ）を設定すればよかった。価値観の変わる出来事をテーマとして設定する。

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

- それまでの学校生活の中で担任から気づいた生徒の良さを「尊敬する」という面から称賛する説話をしたことで、実生活への意識を高めて終えることができた。
- 振り返りでは、「言葉」だけの感謝だけではなく「思い」をのせた感謝を伝えたいと書いている生徒が多くいた。
- 言葉以外の態度や行動で成長した姿を見せ感謝を伝えたいという思いを書いている生徒もいた。行動だけではなく、周りの支えがあることに気づかせられるような発問を考えていく必要がある。



< 授業の振り返りを書く姿 >

下郷町立榎原小学校第6学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和6年9月6日（金）第5校時

授業者：下郷町立榎原小学校 教諭 大野 早苗

授業テーマ	主人公の、6年生として成長した姿を通して、6年生としての自分自身を振り返るとともに、自分の役割を自覚し集団生活を充実させていこうという意欲を育てる授業
-------	---

- 1 主題名 6年生の役割 Cよりよい学校生活、集団生活の充実
- 2 教材名 ぼくたちの学校（出典：ふくしま道徳教育資料集 第Ⅱ集）
- 3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本指導内容は、最高学年としての自覚をもち、自分たちの学校や校風・伝統を大切に思い、みんなで協力して自分達の学校をよくしようとする態度を育てることに関するものである。先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努め、最高学年としての自覚をもち、学級や学校、身近な集団を愛する心を具体化できるようにすることが必要である。

（2）児童の実態（子ども観）

本学級は、児童数4名の学級であり、4人で力を合わせて、1学期の大きな行事を乗り越えてきた。昨年度は5、6年の複式学級だったため、学校のためにと活動する6年生の様子を身近に見たり感じたりしてきたが、受け身的な児童が多く、自主的・主体的に何かを行うことに不安を感じる児童もいる。今までの自分達を振り返るとともに、6年生としての意識や集団生活の充実を目指そうとする意欲を高めたい。

（3）教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、震災や津波によって主人公達の学校が壊れたが、様々な人々の助けにより、他校を間借りして学ぶことができるようになったという実話である。元の学校に戻る日まで、たくさんの感謝を忘れることなく先生や仲間達とともに母校を守っていこうとする主人公の様子が描かれている。

指導にあたっては、主人公の行動や気持ちに寄り添い、前半と後半の1年生が泣き出した事への主人公の対応の違いを軸に、どんな心情の変化があったかを捉えさせる。自分事として考えられるよう、導入で自分達が6年生になって大変だったことや下級生と6年生の違いを事前アンケートから振り返らせたい。自分自身を見つめながら、最高学年としての自覚をもち、さらに自分達の学校のために頑張ろうという実践意欲を高めたい。また、事前アンケートをもとに児童の実態を把握し、話合いのコーディネートに生かしたい。終末では、1学期の学校生活の中で6年生として頑張ってきた行動について、学校の先輩である本校職員からの励ましのメッセージや担任からの称賛のメッセージを伝えることで自己肯定感を高め、今後の道徳的实践意欲を育むことができるようにしたい。

4 本時のねらい

震災によって不安だった史哉の前半の心情と学校が再開し6年生としてできることはないかと考えるようになった後半の心情の違いを考えることを通して、最高学年としての自覚をもち、自分達の学校を大切に思い、みんなで協力して自分達の学校をよくしようとする道徳的实践意欲を育む。

5 板書計画（実際の板書）



6 學習過程

学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される児童生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価の視点
1 事前アンケート結果から「6年生」について問題意識をもつ。 (1) 6年生として大変なことはあったか。それはどんなことだったか。 (2) 下級生と6年生は何が違うか。 6年生とは？	5	○ 事前アンケートの結果からよりよい学校生活についての今の自分の考え方を振り返らせて確認し、本時の主題を6年生としての視点や自分事として捉えることができるようにする。
2 教材文を読んで考える。 (1) 「ぼくたちの学校」を読み、主人公の前半と後半の気持ちの変化やその理由、バスの中で歌った時の気持ちについて話し合う。 (前半) 小さい学年の子が泣いていてもぼくはおそろしくてどうすることもできなかった。 ・ 自分のことで精一杯。 ・ 他のことが考えられない。 (後半) 帰りのバスの中で声をかけても1年生は泣くばかり。ぼくも泣きたくなる。でも友達が校歌を歌いぼくも一緒に歌う。 ・ 自分は6年生なんだ。 ・ なんとかしなければならぬ。 ・ 友達がいってよかった。 ◎ 同じようなこの二つの場面の気持ちでは、何が違うのでしょうか。 (2) 自分と関連付けて考える。 ○ 自分は、理想の6年生になるためにどのくらい到達しているかな。 ・ 今の自分は75%くらい。委員会であまり発言ができていないから。 ・ 当番を忘れてしまうことがあるから、60%くらいかな。	15 15	○ 教師が「同じ6年生として、主人公と自分を重ね合わせて、自分ならどうするかを考えながら聞いてみて」と働きかけることで、本時のねらいに焦点をあてることができるようにする。 ○ 自分ならどうするだろうかと考えることで、主人公をより身近に感じ、そこにはどのような心情があるか考えることができるようにする。 ○ 後半の1年生が泣いたときに自分ならどうするかとその理由について考えることで、前半と後半の違いには、6年生として自分がなんとかしなければという意識があることに目を向けることができるようにする。 ○ 自分の現在到達地点を示し、理由も話すことで、自己の振り返りをするとともに、最高学年として学校やみんなのためにできることがまだあることに気付くことができるようにする。 ※ 友達の話聞くことで自己を振り返り、6年生として自分たちができることについて多面的・多角的に考えているか。(発言)
3 これまでの自分を振り返る。 (1) 先輩からのメッセージを聞く。 (2) 本時で学習した内容について振り返りシートに記入する。	10	○ 1学期の学校生活の中で6年生として頑張ってきた行動について、本校の先輩である先生からのメッセージや担任からの称賛のメッセージを伝えることで、自己肯定感を高め、今後の道徳的実践意欲を育むことができるようにする。 ○ これまでの自分のよさやまだまだな自分を見つめるワークシートを用いることで、これまでの自分を振り返り、6年生としての意識の高まりや、自分の学びを実感できるようにする。 ※ 6年生としての自分を振り返り、自分達の学校をよりよくしていくことの大切さについて自己を見つめ考えを深めているか。(記述)

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

(1) 「問題を自分事として捉える工夫」について

- 「6年生」に関する事前アンケート結果を、ICT機器を用いて可視化したことや6年生としての現在の自分の姿を確認したことで、問題を自分事として考えることができた。
- 被災地を見学したり、語り部体験で震災の話を聞いたりする活動を計画的に取り入れたことで、震災を背景とした教材文の主人公の気持ちを深く理解することができた。
- 被災後間もない中で、下級生のために、学校のために自分にできることを模索する主人公の気持ちや行動は、同じ6年生である児童の胸を打ち、問題に真剣に向き合う姿が見られた。
- 「6年生になって意識が変わったところでは」という発問では、あまり考えが出なかった。テーマに迫る問いだったので、児童の考えを引き出す工夫が必要だった。教師の発問を精選する力や話合いのコーディネート力を高めたい。



〈アンケート結果を用いた導入〉

(2) 「他者の考えに触れ、物事を多面的・多角的に考える工夫（発問・学習形態）」について

- 自分の立場（考え）を思考ツールを活用して視覚化した。自分と友達の考えの違いがあることに気付き、考えの理由について交流することで、多様な考えに触れることができた。
- 「どうして6年生だと頑張らないといけないのか」という発問についてもっと深く話し合うことができれば、さらに多面的・多角的な考えが出たと思われる。問い返しの準備の必要性を感じた。
- 少人数学級においても児童が多面的・多角的に考えることができるようにするために、授業参加型の「親子道徳」をさらに充実させたり、他の教職員が参加することができる体制を整えたりすることも必要である。



〈思考ツールで自分の現状を確認〉

(3) 「自己を見つめ、考えを深める振り返りの工夫」について

- 振り返りの時間を十分に確保したことで、自分自身としっかり向き合うことができていた。
- 終末で、本校の先輩でもある教員からのメッセージを聞く場を設定した。担任とは違う視点でのメッセージを聞くことで、子ども達は自分自身のよさに改めて気付くことができ、心に深く響く終末となった。
- 振り返りのワークシートには、「いいこと」を書かなければならないというような雰囲気はまだある。人間の弱さ（人間理解）につながる問い返しにより理想的な考えに揺さぶりをかけることで、さらに自己を見つめることができるのではないかと考える。



〈先輩からのメッセージ〉

子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

- 思考ツールの活用が、児童の考えの可視化や共有に役立ったと共に、変容を見取ることもでき、評価に生かすことができた。
- 振り返りのワークシートには、児童の素直な気持ちを受け止め、実践意欲を育むことができるようなコメントをすることに心がけた。
- 教師の評価が子ども達の心に響き、心の成長につなげることができるよう、児童と築いてきた信頼関係を今後も大切にする学級経営を続けていきたい。

いわき市立中央台東小学校 第6学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和6年 11月28日（木） 第3校時
授業者：いわき市立中央台東小学校 教諭 久保木壮平

授業テーマ	「働く」ことについて考え議論し、自分にとっての「働く」ことの意義を見つめ、公共のために役立とうとする道徳的心情を育むことができる授業
-------	--

- 1 主題名 働くとは C 勤労、公共の精神
- 2 教材名 「まδειいの牛」（出典：ふくしま道徳教育資料集 第I集）
- 3 主題設定の理由

(1)ねらいとする道徳的価値について（価値観）

働くことは、人が生きていく上での誇りや喜びであり、大きな生きがいである。内容項目「勤労、公共の精神」は、「働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役立つこと」とされている。人が社会で働くことは、日々の糧を得て自立し、自分や家族の生活を維持向上させることにつながる。しかしそれだけではなく、働くこと自体に楽しさや嬉しさを感じたり、社会的責任を果たして人や社会の役に立つことの喜びを味わったりするものである。そのよさや大切さを実感することにより、働くことの意義を理解し、公共のために進んで行動しようとする心情を養うことができる。また、勤労観は職業観と深く関連するため、過去・現在だけでなく未来も含めて、児童が自分事として考えられるようにしたい。

(2)児童の実態（子ども観）

10月のキャリアの学習では「人の役に立ちたい」「将来の夢を叶えられるよう頑張りたい」などの感想が挙がった。委員会活動や学級の当番・係・日直、清掃等の場面では、決められた活動がある程度は取り組む姿が見られる。その一方で、自分の役割を自らの意思で意欲的に取り組んだり、その活動にやりがいや喜びを感じたりする児童は少ない傾向があり、面倒だと言いながら取り組む場面も見られ、主体性に課題がある。児童が、学級や学校のことを思って働く充実感や、誰かの役に立つことに喜びを感じ、道徳科や道徳教育での学びが行為として表れていくよう工夫したい。

また、本時は東日本大震災を扱った教材を活用するが、本学級の児童は震災の1年～2年後に生まれた年代である。生まれた当時、震災後の福島県は大変な状況だったことを家族から聞いている児童はいるが、実体験としての震災の経験は無い。また、避難後に本校学区内に住居を移した家庭や、原発関連に従事する家庭があり、扱い方に配慮する必要がある。

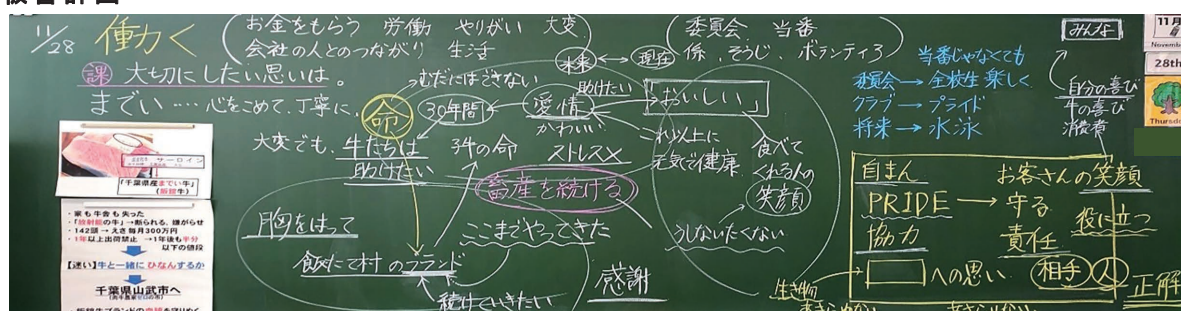
(3)教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、畜産農家の小林将男さんが、原発事故によって飯舘村から千葉県山武市に牛と共に避難した後も、情熱と愛情をもって育てていく様子が描かれている。使命感をもち、自分の仕事にやりがいを感じながら社会に貢献していく小林さんの姿が心に残る教材である。当時の飯舘村の畜産農家228軒のうち、避難後も畜産を続けた農家はわずか7軒で、かなり困難な状況だったことが窺える。142頭の牛（1回目は80頭）を千葉県へ移動させること、1年以上出荷をできないまま育て続けたこと、出荷を再開できても風評被害により半値以下が続いたこと、移動先の牛舎や環境が整わないこと等、様々な不安や葛藤、困難があった。その状況の中でも「食べてくれる人を喜ばせたい」という一心で、飯舘牛の血統をつなぎ、「千葉県産まδειい牛」を山武市で育てることに誇りをもち、「まδειい」に仕事をし続ける小林さんの思いに迫りたい。そして、働くことを児童一人一人に自分事として考えさせ、自分なりの働くことの意義を捉えられるようにしたい。

4 本時のねらい

困難な状況でも信念をもって働く小林さんの生き方にふれ、働くことへの思いを話し合うことを通して、公共のためにやりがいや喜びをもって働こうとする道徳的心情を育む。

5 板書計画



6 学習過程

学習活動・内容（○発問・予想される児童の反応）	時間	○指導上の留意点 ※評価の視点
1 本時の学習課題をつかむ。 （１）「働く」ことのイメージをつかむ。 ○働くとは、どういうことだろうか。 （２）課題をつかむ。 大切にしたい思いは。	5 (4) (1)	○ 事前アンケートで聞いた、児童が思う勤労のイメージを、学習支援アプリを活用して共有する。 ○ 現在の児童自身の役割も勤労であることや、働く場面での思いについて、児童とやり取りをしながら課題へ向かう。 ○ 商品としての牛肉の写真を提示し、命あるものを育てて売る仕事があることを確認する。
2 「まδειいの牛」を読んで考え、話し合う。 （１）教材に関する写真やスライドを見て、震災当時の小林さんの状況を理解する。 （２）教師の範読を聴き、当時の小林さんの状況や気持ちを理解する。 （３）小林さんの思いを考え、話し合う。 ◎牛と共に避難し、壊れた柵を直したり草を刈ったりして、必死に働いている小林さんは、どんなことを思っているだろう。 - 生活できるのか。お金は大丈夫か不安。 - 育ててきた牛の命を守りたい。 - 牛に、少しでも良い環境を。 - 風評被害に負けたくない。続けたい。 - 飯館ブランドへのプライド。 - 仲間の思いを無駄にしたい。 - 誰かの役に立ちたい。喜んでほしい。 - おいしい牛肉を消費者へ届けたい。 - 食べる人の笑顔のために。 ○小林さんは、どんな思いを大切にしているのだろうか。 - まδειいに仕事をする。 - 牛の命をつなぐ。 - 人の役に立つ。・お客さんの笑顔を。 - 苦しくても諦めず挑戦し続ける。 - 今できることを精一杯に。	25 (2) (6) (14) (3)	○ 小林さんの状況が理解できるよう、原発事故に伴う出荷制限や風評被害、畜産が続ける困難を説明してから範読に入る。 ○ 予想される意見に対し、「牛が可哀想だから働いているのだろうか」「育てた牛を自分で食べて味を確かめる思いは」等を問い返し、小林さんの思いに迫らせた上で再度考えられるようにする。 ○ ペアや全体での共有の後に書く時間を確保するが、書けずにいる児童は黒板前に集め、発問内容を再度確認し支援する。 ○ 様々な考え方にふれられるよう、書き終えた児童から自由にペアを組んで話してよいことを伝えることで、席に戻った後、友達の考えを記述できるようにする。 ○ 様々な視点からの意見も全て受容した上で、「畜産を辞めることは弱さか」「なぜ畜産にこだわったのか」等を必要に応じて問い返ししながら、全体で話し合い小林さんの思いに迫れるようにする。 ○ 児童から挙げた言葉を用いて「皆にも、～と思ったことはあるか」や「自分が大切にしたい思いは（課題）」等を問いかけ、教材を自分との関わりで考えられるようにする。 ※ 働くことに対する小林さんの思いから、勤労について多面的・多角的に考えているか。（記述、発言）
3 働くことの意義を考え、自己を見つめる。 ○自分は…？（過去・現在・未来） ○○委員会で～した時に、全校生が楽しんでいるのを見て、～を皆で協力して実施できてよかったと思えた。 - 清掃が面倒だと思った時もあった。校舎をきれいにし、皆が気持ちよく過ごせることを思うと、自分も～ - 将来○○になったら、自分の仕事によってお客さんが～と思えるような…	10	○ 過去～未来の自分のことを考えられるよう、児童が働く場面やキャリアの学習の写真を提示し、書く活動へ入る。 ○ 「○○さんの意見は、皆にも同様のことがあるか」「どんなことが喜びにつながるか」等を問い、働くことのよさや、なかなかできない弱さにもふれながら、意見を共有できるようにする。 ※ 働くことの意義を自分との関わりで深めることができたか。（記述、発言）
4 振り返り （１）本時を振り返り、今思うことを書く。 （２）小林さんから児童へのメッセージを読む。	5 (4) (1)	○ 一つの考え方であると前置きして、小林さんからのメッセージを伝え、これからの生活につながるようにする。

7 考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

(1)「教材への自我関与」について

- 導入では、「働く＝お金を稼ぐこと（未来）」という発言が多かったため問い返し、それだけではなく現在も委員会や当番、係等で働いていることを捉えさせた。
- 肉牛農家が震災で避難したという、児童にはイメージしにくい題材であることを踏まえ、パワーポイントを活用して先行的に要点を伝え、自我関与しやすいようにした。
- 避難直後の働く思いに焦点をあて「避難先で必死に働き始めた時、どんな思いだろうか」を中心発問として、「自分が育てた牛を自分で食べるのはなぜか」「なぜそこまでして畜産にこだわり続けたか」等を問い返し、主人公の思いに迫れるよう工夫した。
- 実生活と往還させながら全体での話し合いを進めて考えを深めさせたかったが、十分な問い返しができなかった。

(2)「多面的・多角的な話し合い」について

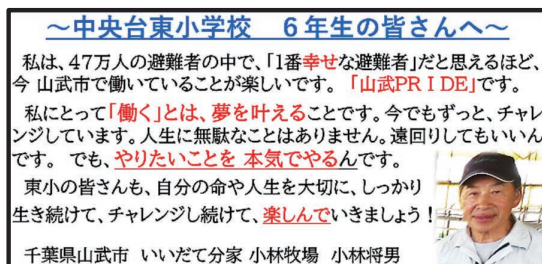
- 主人公の心情について「牛の命（生命の尊さ）」「飯館牛ブランドをつなぐ（努力と強い意志）」「消費者の笑顔のため（勤労）」等、「勤労」を土台にして複数の内容項目の視点から意見が挙がった。
- 児童の意見に対し「プライドとはどういうことか」「諦めず何を目指したのか」「何が大きなやりがい」等を全体へ問い返して話し合いを深めていくべきだったが、ねらいと異なる方向へ行くことを恐れ、踏み込んで問い返せなかった。
- ペアでの交流を計5回（固定3・自由2）取り入れたが、単なる伝え合いで終わるペアが多いため、「なぜそう思うか」等をさらに聞き合えるよう指導していきたい。



＜一人の意見を皆で聴く＞

(3)「自己を見つめる」について

- 主人公の勤労観と、小学生の自分の働く場面に共通している点を想起させるため、自分事で「働くことへの思い」を記述する前に、児童の働く姿の写真を提示した。
- 多くの児童が自分事で具体的に考えていたが、難しさを感じていた児童も複数見られ、支援した。働くことにおける自分のよさややりがいだけでなく、分かっている自分のかできない自分の弱さ（人間理解）にもさらに触れた上で考えさせるべきだった。



＜小林将男氏からのメッセージ＞

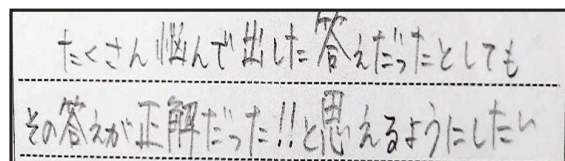
子ども一人一人を受け止めて、認め励ます評価の視点から

- 本時も終末で書く場面をつくり、挙手や指名で発表をした。教師から児童全員の記述に「認め励ます」視点でコメントを書くことを毎時間継続してきた。本時は事前アンケートから変容が見られた児童が多かった。
- 事後研究会でも挙がった児童Kの意見(右記)を例に、この児童の変容を考える。

【児童Kの変容の例】

- ① 給食委員会「1年生のお盆洗いで頼ってもらえた」と感じた。(雑談の中で)
- ② 休み時間の後「先生、1年生に友達ができました。」と嬉しそうに発言。
- ③ 道徳科（集団生活の充実）「1年生と、もっと関わりたい。」と発表。
- ④ 休み時間に「1年生、今日はどこで遊んでいるかな。」と校庭へ走り出す。
- ⑤ 道徳科（勤労：本時）「周りのことや関わっている人達に感謝したい。委員会で6年生が企画したことを喜んでくれると嬉しい。」と展開後段で記述。

以上のような変容は担任だから分かることである。しかしそれすら、担任の見取りによる一側面でしかない。本時は「勤労」を一つの窓口として、児童は様々な感性をもって考えを深めている。「認め励ます」とは、道徳性に係る成長の様子を大きく見取りに見取ることと共に、一瞬の内面的な動きを認め励ますことである。授業での学級全体の変容だけでなく、さらに一人一人の変容に目を向けていきたいと改めて感じた。



＜Kの記述「正解だと思えるように」＞

【Q & A】

道徳科の教育課程 Q & A



学習指導要領Q & A【特別の教科 道徳】(小・中)

1 なぜ、「特別の教科」なのですか。今回の教科化で、今までと変わること、変わらないことを教えてほしい。

「特別の教科 道徳」(以下 道徳科とする)については、小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から他教科に先駆けて先行実施された。教科化に際して、「学級担任が担当することが望ましいと考えられること」「数値による評価はなじまないと考えられること」など、各教科にない側面があるため、「特別の教科」という枠組みが設けられた。

また、今回の改訂では、「いじめの問題」等、現実の困難な問題に主体的に対処することのできる実効性ある力を育成する役割が強く求められており、改訂の要点として次の5点が挙げられる。

(1) 目標の明確化

⇒教科の特質と学習活動の明示「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、多面的・多角的に考え、自己(人間)の生き方についての考えを深める学習を通して」

(2) 体系性を高め指導の効果を上げるための内容の改善

⇒「それぞれの内容を端的に表す言葉を付記」や「内容項目についての整理」等

(3) 多様な指導方法の工夫

⇒「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の例示

(4) 魅力的な教材の開発や活用の工夫

⇒地域教材の積極的な開発と活用

(5) 評価

⇒数値による評価は引き続き行わないこととし、児童・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様子を継続的に把握

なお、これまでの「道徳の時間」と同様に、学校の教育活動全体で行う道徳教育の「要」としての役割を果たすことは今までと何ら変わらない。

2 道徳教育の全体計画等の作成に当たって、どんなことに配慮すべきか。

以下のポイントについて、学校としての計画(ロードマップ)を明確に描くことができるのかが、円滑な実施に向けた、今後の大きなポイントとなる。

- ☐ 「重点目標」「指導の重点化」(重点とする内容項目の設定)を校長の方針の下、道徳教育推進教師が中心となり、全職員が共有しながら作成しているか。また、全体計画の項目は、総則等に照らして適切か。
- ☐ 「学校のいじめ防止基本方針」や「各種教育の目標や全体計画」等と道徳教育との関連性や整合性が図られているか。
- ☐ 別業をどのような形式でどのような計画でつくり、いかに実効性のある計画にしているか。
- ☐ 評価をいつ、どのような体制で実施していくのか、保護者等にどのタイミングで周知していくか。

3 道徳科の授業を原則的に担任が行うのはなぜか。担任が授業を行う際、配慮すべきことはあるか。

道徳科の授業を原則的に担任が行う理由としては、「学級担任が児童生徒の実態に精通していること、時間的にも触れ合う機会が多く、継続的に道徳性の成長を見ることができること」が挙げられる。しかしながら、あくまでも「原則」であり、担任一人が全てを担うことを意味する訳ではない。

例えば、校長や教頭が参加する授業を行うことはもちろん、教員同士が互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組んで、子どもについて情報交換したり、評価の視点や方法等について、学年内、学校内で共通認識をもったりすることが効果的である。

つまりは、学級担任が授業を行うことを原則としながら、学校、学年としての組織的に対応することが大切である。

4 教科用図書の教材と従来活用していた「副読本」の資料の違いは何か。教科用図書が導入されたことで、どのような点に留意すべきか。

学校教育法34条には、「小学校においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用しなければならない。」（中学校にも準用）さらに、教科書の発行に関する臨時措置法第2条には、「教科書」とは、…学校において、教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材…」とされ、「主たる教材」としての使用義務が明記されており、この点において、「教科書に準じて作られている補助的な図書」としての「副読本」と大きな違いがある。

検定教科書の導入により、年間指導計画の作成等の教育課程編成作業においては、教科書中のどの教材をどの時期に配列するか等について、各教科等の学習内容や体験活動等との関連を踏まえながら、しっかりと精査する視点がより重要となる。

5 道徳科の年間指導計画を作成するにあたり、ふくしま道徳資料集や市町村発行の資料集掲載の教材等を、教科書中の教材に代わって位置付けることは可能か。可能であるとすれば、その位置付けにあたって、どのような配慮が必要か。

「小（中）学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第4節 道徳科の教材に求められる内容の観点」には、「…道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となる。…地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい」と記述され、地域教材を意図的・計画的・組織的に開発し、活用することが望ましいとされている。

このことにより、「ふくしま道徳教育資料集」（県教委発行）及び「市町村発行の道徳教育資料集」等を、年間指導計画に「副教材」として積極的に位置付けることは、道徳科の趣旨と内容の実現に向けて非常に有効である。

なお、地域教材の開発にあつては、教材の具備すべき条件を備えているか精査するとともに、年間指導計画への位置付けに際しては、「教科書教材」に加えて「副教材」として併記し、その対応を明らかにすることが望ましい。

加えて、自校及び学年の重点とする内容・項目に照らして、教科書中の教材数が不足している場合、「私たちの道徳WEB版（文部科学省）」「小（中）学校道徳読み物資料集（文部科学省）」「ふくしま道徳教育資料集」等を主教材として位置付けることが可能である旨を付記しておく。

6 学校で決めた道德教育の重点内容項目に対して、教科書教材が一部不足してしまうような場合、どのような対応が考えられるか。

各学校の道德教育の重点内容・項目は、校長の指導の下、全職員が共通理解して設定した、とりわけ重要な内容の一つであることは言うまでもない。万が一、教科書教材数に合わせて、各学校の重点内容項目が設定されるということになれば、児童生徒の実態、地域や保護者、教師の願いが道德教育に位置付けられないということになってしまう。そこで、このような場合は「ふくしま道德教育資料集（県教委）」「小（中）学校道德読み物資料集（文科省）」「私たちの道德（WEB版）」等を主たる教材として位置付ける対応が考えられる。その際は、特記事項等にその旨を明記し、次年度以降の教育課程編成の参考となるように配慮してほしい。

7 自作教材は、今後活用することができなくなるのか。

自作教材の作成と活用については、授業者単独の判断であったり、その場限りの活用となったりしないことが大切である。そのためには、「小（中）学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編 第3章 道德科の内容 第2節 内容項目の指導の観点」に照らして、児童生徒の発達の段階や特性に見合っているか、さらに「同第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第4節 道德科の教材に求められる内容の観点」に沿っているかを踏まえて、教材の具備すべき条件を備えているか事前に精査し、その使用が適切かどうか、校長の指導の下、学年や学校で共通認識をもって確認する手続きが必要となる。

8 「考え、議論する道德」に代わって、「問題解決的な学習」や「道徳的行為に関する体験的な学習」などの質の高い多様な指導方法を耳にするようになった。両者は、どのようにつながっているのか。これから求められる多様な指導方法について教えてほしい。

『特別の教科 道德』の指導方法と評価について（報告）平成28年7月22日 道德教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議においては、これから求められる質の高い多様な指導方法の例示として、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の3つが示された。これらは「考え、議論する道德」をより具体化したものであると考えられ、それぞれが独立した指導の「型」を示しているのではなく、それぞれの要素を組み合わせた指導も考えられるとされている。今後は、各学校において、これら3つの指導方法を目安とした指導方法の開発と研究が推進されることを期待したい。

9 複式学級における道德科の授業をどうつくればよいか分からない。どのように計画を立案すればよいのか教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領「第3章 特別の教科 道德 第3 指導計画の作成と内容の取扱い」では、「各学年の内容項目について、相当する学年において全て取り上げることとする。」とされており、該当する学年の全ての内容項目を取り扱うことが教育課程編成上必須の要件となる。

さらに、小学校学習指導要領解説「特別の教科 道德編 第3章 道德科の内容 第1節 内容構成の考え方（3）」には、「～特に必要な場合は、他の学年の内容項目の指導を加えることはできる」とされており、いわゆる飛び複式学級や変則複式学級の指導にお

いて、該当学年において取り扱わない内容項目を加えて指導できる旨が明記されている。
これらを踏まえると、「特別の教科 道徳」の複式学級における教育課程編成に際しては、次の3例が想定される。

- A 学年別の学習とし、それぞれの学年がそれぞれの目標内容で学習（「直接指導」と「間接指導」の組み合わせによる指導。通常の教科書給与による）
- B 2年間分をそれぞれ第1年次（A年度）と第2年次（B年度）別に平均に配当し、両学年が同目標内容で学習（該当する両学年の教科書の同時（一括）給与）
- C 2年間分の学習内容について、A年度は○学年の教材を主に、B年度は●学年の教材を主に配当し、両学年が同目標内容で学習（A年度は○学年の教科書給与、B年度は●学年の教科書給与）

いずれの例においても、メリットとデメリットがあり、どのような教育課程を編成するかは、自校及び児童生徒の実態をどうとらえて、学校として最も適切な教育課程を編成するかが問われるところである。

なお、いずれの例においても、今後の学級編成の推移を想定したり、教科書給与上の事務手続きを適切に行ったりするなど、学校全体として見通しをもった対応が求められる。

さらに、市町村の様々な事情により、ケースが限られる場合もあるので、各市町村教育委員会に確認願いたい。

10 複式学級の教育課程編成を行うにあたり、通常の学年通りの教科書の一括給与を行い、学年別の指導（それぞれの学年がそれぞれの目標内容で学習）を行うための道徳科の年間指導計画を作成する際、何か配慮・工夫する点はあるか。

例えば、同じ内容項目を同時期・同時間に配当することにより、学年別と学級全体の学習形態を組み合わせる弾力的な学習指導を実施することなどが考えられる。具体的には、次の例の通りである。

（例）3・4学年（複式学級）において、5月第2週の同時間に、いずれの学年も同じ内容項目（親切・思いやり）を扱い、共通のねらいを設定した年間指導計画を構想

- ☐ 導入は両学年合同の活動とし、ねらいとする内容・項目（親切・思いやり）についての方向付けを図る。
- ☐ 展開前段の活動は各学年別で行い、各学年別の教材を活用して、「親切・思いやり」を追求する。その際は、直接指導と間接指導を組み合わせる実施したり、管理職を含めた教師の協力的な指導を行ったりしながら、各学年の児童の実態に合った展開を工夫する。
- ☐ 展開後段（自己を見つめる時間）と終末は、両学年合同に戻し、展開前段で話し合った「親切・思いやり」について紹介し合ったり、「親切・思いやり」にかかわって自分の生活を見つめ直したりする。

この例は、あくまでも学校の創意工夫の一つでしかない。校長の指導の下、各学校の実態に応じたカリキュラムを全職員の共通理解の基に計画し、実践していくことが大切である。

なお、教材に描かれた特性（季節や行事等）により、同じ内容項目であってもどうしても同時期・同時間で組み合わせることのできない内容もあると考える。その場合、例えば、学校や学級で重点的に扱う内容・項目等についてのみ同時期・同時間で扱うなど、自校の共通方針に基づいて、柔軟に年間指導計画を作成することが大切である。

- 11 特別支援学校における道徳科の授業の位置付けは、教科化される前と変わるか。
また、道徳教育の全体計画や指導計画を作成する上で、どのような点に留意すべきか。
さらに、小・中学校の特別支援学級では、どのような点に留意すべきか。

特別支援学校においても、道徳科の目標、内容及び指導計画の作成と内容の取扱いは、小学校又は中学校に準ずることとなっている。準ずるということは、同一ということの意味しているため、小学校及び中学校学習指導要領に示されているとおりに取り扱わなければならない。しかし、知的障がい特別支援学校においては、各教科等の一部又は全部を合わせて指導を行える規定（学校教育法施行規則第130条第2項）があることから、この規定により各教科等を合わせた指導の中で適切に扱う場合もあるため、取扱いについては自校の教育課程によるとされている。

特別支援学校学習指導要領第5章 特別の教科 道徳には、指導計画の作成や内容の取扱いについて、3つの配慮事項が示されていることから、それらを十分に配慮する必要がある。

また、特別支援学級においても、小・中学校に設置されている学級であることから小学校及び中学校学習指導要領を踏まえる必要がある。しかし、知的障がい特別支援学級において特別支援学校の学習指導要領を参考としている場合は、上記と同様である。

- 12 「大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること」とあるが、具体的に教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領解説「第5章 第2節 道徳科における児童（生徒）の学習状況及び成長の様子について」の「道徳科に関する評価の基本的な考え方」には、「道徳科の学習状況の評価に当たっては、道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要がある。」とされている。指導要録の記入上の大きくくりなまとまりは、一年間を指すが、児童生徒を受け止めて認め、励ます評価を、どの時期にどう実施し、児童生徒や保護者に還元していくか、各学校で設定する必要がある。保護者に還元していく方法が、通知表へ記述する、面談でお知らせするなど、どのように実施するかについては、各学校の判断に委ねられる。いずれの場合も、市町村教育委員会の指導助言の基、進めていくことが大切である。

- 13 評価にかかわって、「個々の内容項目ごとではなく」とは、どうとらえればよいのか、教えてほしい。

一つ一つの内容項目ごと（授業ごと）に、「ABC」や「数値」等による評価をしないことを意味する。「内容項目について記述してはいけない」ということではなく、各学校が設定した大きくくりなまとまりの期間で、児童生徒がいかに成長したかという点からの個人内評価として実施し、把握した学習状況や道徳性の成長に係る様子の中で特に顕著なものを評価することから、児童生徒の成長を特に表す内容項目にふれることは何ら問題はない。当然ながら、児童生徒や保護者に評価を還元することにより、児童生徒を積極的に認め励ましたり、その後の指導に生かしたりする役割があることも言うまでもない。

14 道徳性の諸様相（道徳的判断力、心情、実践意欲と態度）を評価の観点とすることはなぜ適当ではないのか。また、個人内評価であっても、何らかの観点がないと、評価ができないのではないのか。

「道徳的判断力、心情、実践意欲と態度」はそれぞれ独立したものではなく、相互に関係し合っており、切り分けられないものであることから、これらを資質・能力の3つの柱にそれぞれ分けて位置付けることはできないものと考えられる。

児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目的とする道徳科の評価としては、観点別に分析的に評価する（観点ごとにABCを付ける）ことは適当ではないと考えられる。

一方で、評価を行い、指導の改善等につなげるためには、授業の中でどのような児童生徒の姿に着目するかという、視点をもつことが大切であると考えられる。小（中）学習指導要領解説編では、学習活動において児童生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、

- 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
 - 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
- といった2点を重視して評価を実施することが大切である。

15 道徳科の授業で行われる評価を、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の評価と関連させ、よく行動できている点について積極的に評価したいと考えているが大丈夫か。道徳科の評価について教えてほしい。

学校生活で見られる姿は、これまで通り「行動の記録」の要素となる。

道徳科における評価は、道徳科の授業を行った結果として見られた「学習状況」や「道徳性に係る成長の様子」を見るものであるため、授業の中で見られた発言や記述などを基に評価を行うことになる。

道徳科の評価を行う基本的な方向性として、次の5点を確認しておきたい。

- (1) 数値による評価ではなく、記述式とすること。
- (2) 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること。
- (3) 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価とすること。
- (4) 学習活動において、児童生徒が多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているかといった点を重視すること
- (5) 調査書に記載せず、入学者選抜の可否判定に活用することのないようにする必要があること。

16 道徳科の教育課程編成上、「これだけは …」というポイントがあれば、教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領（平成29年3月）・第3章特別の教科道徳・第3指導計画の作成と内容の取扱いの1には、「…第2に示す（各学年段階の）内容項目について、相当する学年（各学年）において全て取り上げることとする」とされている。小学校低学年19項目・中学年20項目、高学年22項目、中学校22項目の内容項目を全て取り上げることは必須要件となるので、各学年の年間指導計画を必ず確認してほしい。

17 教科化に際して、教職員の研修を充実させたいと考えているが、参考になるホームページや資料等を教えてほしい。

以下の報告書や動画等について、校内研修、教育課程編成等の参考にさせていただきたい。

〔学習指導要領等〕

- 小(中)学校学習指導要領 平成29年3月31日 文部科学省(文部科学省HP)
- 小(中)学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 平成29年7月文部科学省(文部科学省HP)

〔通知等〕

- 学習指導要領の一部改正に伴う小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)(28教義第846号 平成28年8月10日付)

〔報告書・広報誌等〕

- 「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議(文部科学省HP)
- 福島県道徳教育推進報告書(福島県教育庁義務教育課HP)
- 道徳のとびら(福島県教育庁義務教育課HP)
- 道徳のかけ橋(福島県教育庁義務教育課HP)
- 道徳の礎(福島県教育庁義務教育課HP)

〔動画等〕

- 道徳教育アーカイブ(<https://doutoku.mext.go.jp>)
- 校内研修シリーズ「道徳教育」(独立行政法人教職員支援機構HP)
- 福島県版「道徳教育アーカイブ」(福島県教育庁義務教育課HP 令和7年3月更新)

令和7年3月6日 発行
福島県教育委員会

◆ ふくしま道徳教育資料集三部作 ◆



第Ⅰ集
生きぬく・いのち



第Ⅱ集
敬愛・つながる思い



第Ⅲ集
郷土愛・ふくしまの未来へ

【小学校版】



【中学校版】



【高等学校版】



道徳教育リーフレット 「道徳のとびら」



「モラル・エッセイ」コンテスト 優秀作品集



福島県教育委員会

この冊子の電子版が、福島県版「道徳教育アーカイブ」よりダウンロードできます。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/edu/gimukyoiku57.html>

